省エネで
守る環境
豊かな暮らし

この取扱説明書は
再生紙を使用しています

DIGITAL HI-VISION VIDEO CAMERA

製品についてのご相談や修理のご依頼は

お買い上げの販売店にご相談ください。
転居されたり、贈答品などでお困りの場合は、下記のご相談窓口にご相談ください。

修理などのアフターサービスに関するご相談 **ビクターサービスエンジニアリング**	本製品についての技術的なお問い合わせは **DVご相談窓口**
210〜211ページをご覧ください。	電話：(045)450-2770

お買い物情報や製品についての全般的なご相談
お客様ご相談センター

東京	大阪
東京　電話：(03) 5684-9311 Fax：(03) 5684-9317 〒113-0033 東京都文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル	大阪　電話：(06) 6765-4161 Fax：(06) 6765-4891 〒550-0013 大阪市西区新町3-1-31 新町レナウンビル

ビクターホームページ　http://www.jvc-victor.co.jp/

日本ビクター株式会社

AV&マルチメディアカンパニー
〒221-8528 横浜市神奈川区守屋町3-12

HD1　0303-FO-HT-VP

GR-HD1　デジタルハイビジョンビデオカメラ　取扱説明書

Victor

取扱説明書

デジタルハイビジョンビデオカメラ
型名 GR-HD1

Mini DV Digital Video Cassette NTSC

Digital Hi-Vision

お買い上げありがとうございます。

ご使用の前に

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
特に「安全上のご注意」(16〜23ページ) と別売アクセサリーキットの「安全上のご注意」は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

LYT1101-001C

目 次

はじめに

これだけは知っておこう編

撮影・初級
テクニック編

撮影・上級
テクニック編

再生を
工夫しよう編

目次

ビデオを
編集してみよう編

設定を変えて
使いこなそう編

その他

索引

はじめに

本書の読みかた

取扱説明書は、デジタルビデオカメラの使いかたに応じて８つの編に分かれています。

■ これだけは知っておこう編

ビデオカメラの各部の名前から、はじめて使うときの準備、ビデオの撮影や再生の基本的な手順を説明します。お買い上げ後にはじめて使うときは、必ずお読みください。

■ 撮影・初級テクニック編

操作は簡単でも効果が大きい、知っていると便利な機能について説明します。『これだけは知っておこう編』の操作に慣れてから、お読みください。

■ 撮影・上級テクニック編

画像の明るさや画面の色のバランスを手動で調節する方法や、ビデオ撮影中にさまざまな効果を挿入する方法などを説明します。

■ 再生を工夫しよう編

静止画の一覧表示の方法や、テープからメモリーカードへの画像のコピーを説明します。また、再生時の映像に変化をつける方法を説明します。

■ ビデオを編集してみよう編

撮影したビデオを編集して、個性的な作品に仕上げるための機能について説明します。

■ 設定を変えて使いこなそう編

ビデオカメラには、上記の編では説明しきれない数多くの機能があります。この編では、各種機能の設定について説明します。

■ その他

故障かなと思ったときの対処方法や、使用上のご注意、日常のお手入れ、主な仕様などについて記載しています。

■ 索引

五十音順索引のほか、メニュー一覧、画面表示の見方を記載しています。

著作権について

あなたがビデオカメラで録画、録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、鑑賞や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場所がありますのでご注意ください。

記号の意味

本文中には、次の記号が使われています。

ご注意 操作上の注意などが書かれています。

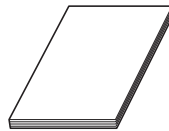
メモ 使用上の制限や、知っていると便利な内容が書かれています。

使用中に起こりうるトラブルや、トラブルのように見える現象について書かれています。

☞ 関連するページを示しています。

次へ続く ▶ 次のページに説明が続きます。

付属品について

付属品をお確かめください。万が一、不足品がございましたら、お買い上げの販売店、または最寄りのサービス窓口にお問い合わせください。

取扱説明書（本書）

※ アクセサリーは別売です（☞ P.206）。

こんなことができます

ワイドテレビやデジタルハイビジョンテレビで映像を再生したい。

撮影モードを「SD」や「HD」に設定すると、ワイドテレビやデジタルハイビジョンテレビでの再生に適した 16 ： 9 の画面サイズで撮影できます（MPEG2 で録画）。また、D 端子を使ってテレビと接続した場合、より鮮明な映像を楽しむことができます（☞P.47、74）。

日射しのあたる窓際にいる人を撮影したい。

太陽などの強い光を背景にして人物を撮影するときは、人物が真っ黒になってしまいます。

学芸会の舞台上で、スポットライトの中にいる子供を撮影したい。

強い光が当たっている被写体を撮影すると、真っ白に写ってしまいます。
こんなときでもプログラム AE メニューの「スポットライト」を使えば、自然な画を撮影することができます（☞P.116）。

走っている車のような動きの速いものをブレさせずに撮影したい。

プログラム AE メニューの「スポーツ」を使えば、ブレをおさえて、きれいに撮影

目的の場面をすばやく探し出して、再生したい。

何度も巻戻しや早送りをするのは面倒なものです。
こんなときには、ナビ機能を使って再生したい場面をあらかじめ頭出しデータとして記録しておきます（☞P.96、126）。画像を確認しながら場面を指定できるので、すばやく簡単に頭出しができます。

いろいろな音声を入れて楽しみたい。

撮影したあとに音声を追加すること（アフレコ編集）ができます（☞P.164）。

撮影した映像をパソコンでも利用したい。

カメラが捉えている映像やテープに記録した映像をパソコンに取り込んで音声や BGM を追加して、オリジナルムービー作りを楽しみましょう（☞P.168）。

手ぶれを抑えて鮮明な映像を撮影したい。

「光学式手振れ補正システム」搭載の高性能 HD(ハイビジョンデジタル)ズームレンズで、手ぶれを抑えて鮮明な映像を撮影できます。

いろいろな機器と接続して活用できます

フロッピーアダプター
USB リーダー／ライター
PC カードアダプター

USB ケーブル
i.LINK ケーブル

S ／ AV ／編集コード
i.LINK ケーブル
D 端子ケーブル

S ／ AV ／編集コード
D 端子ケーブル

パソコンで加工する

・リアルタイムに動画を取り込む
・静止画をメールに添付する

・テープから動画を取り込む
※詳しくは、アクセサリーキット（VU-HD1K）付属のソフトウェア取扱説明書をご覧ください。

ビデオデッキで編集する

・ダビングする
（アナログ ☞P.140）
（デジタル ☞P.142）
・DV 端子付ビデオにダビングする
（☞P.142）
・場面と場面のつなぎめに効果をつけて自動的に編集する
（☞P.149）
・録画済テープに画像（タイトルなど）を挿入する
（☞P.162）
・録画済テープにナレーションを追加する
（☞P.164）

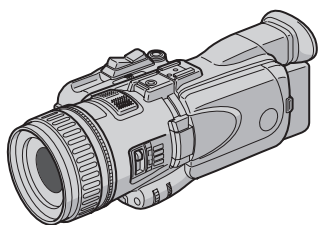
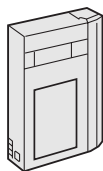
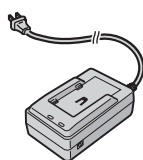
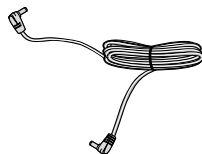
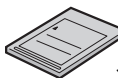
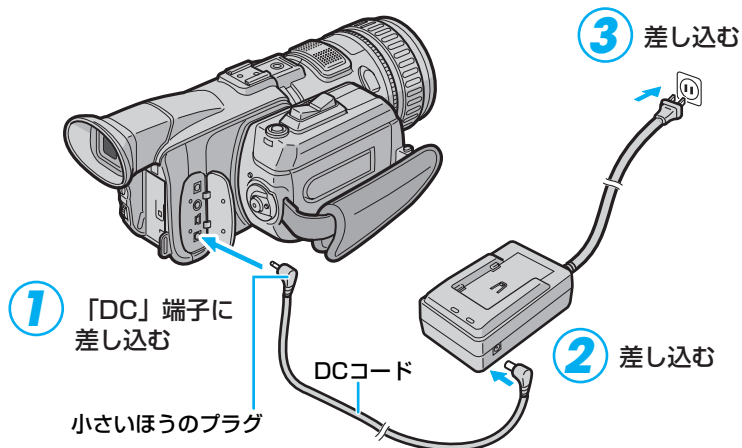
テレビで見る・撮る

・撮影したビデオをテレビで見る
（☞P.71）
・テレビの映像をビデオテープに撮る
（☞P.146）

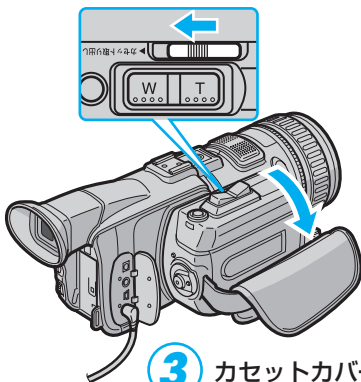
ここに紹介したものは、ほんの一例。ほかにも、いろいろな使いかた・楽しみかたがあります。「設定を変えて使いこなそう編」（☞P.177～P.184）をご覧ください。

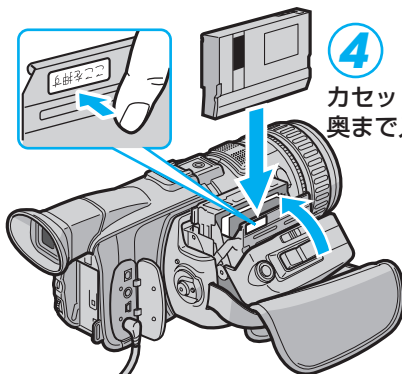
いますぐ ビデオと静止画を撮影してみよう

箱を開けたら、何はともあれビデオを撮影してみましょう！
最初はバッテリーが充電されていないので、コンセントにつないで撮影し、再生してみます。ボタンやランプの名前なんて知らなくても大丈夫。ともかく、この通り操作すれば撮影できます。

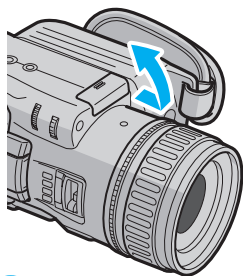
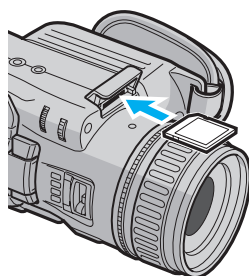
用意するもの

コンセントにつなぐ

カセットテープを入れる

1 グリップベルトをゆるめる
（☞ P.39）

2 スライドさせたまま

3 カセットカバーを開く
中のホルダーが
自動的に開く

5 ここを押す を押す
ホルダーが自動的に閉じる

4 カセットテープを
奥まで入れる

6 カセットカバーを閉じる

メモリーカードを入れる

1 スライドさせてから、
カバーを開く

2 メモリーカードを
奥まで入れる

3 カバーをカチッと
音がするまで
押して閉じる

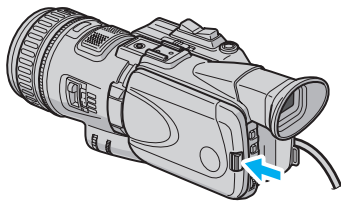
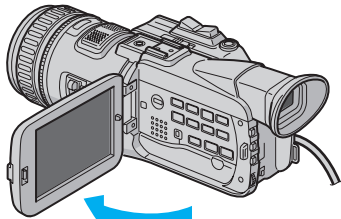
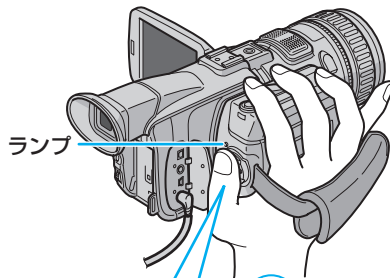
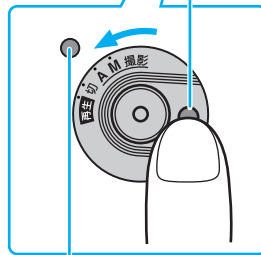
撮影できる状態にする

ランプ

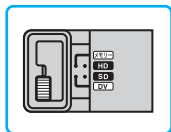
1 押したまま

2 液晶画面を開く

3 ロック解除ボタンを押したまま

A M 撮影 切 再生

4 「A」をランプの位置に合わせる
ランプが点灯し、画面が映る

ビデオを撮影する

1 スイッチを「DV」、「SD」、「HD」のいずれかの位置に合わせる

2 撮影ボタンを押し、撮影を開始する
画面表示：録画

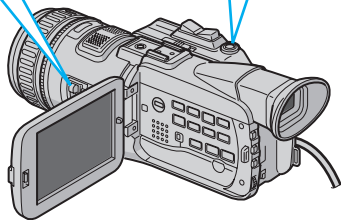
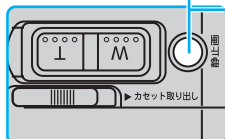
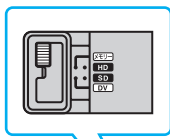
画面の状態が表示される

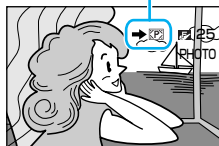
DVの場合

3 もう一度押し、撮影を停止する
画面表示：ストップ

画面の状態が表示される

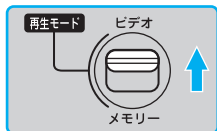
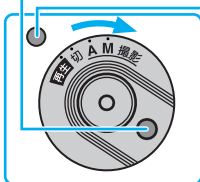
静止画を撮影する

1 スイッチを「メモリー」の位置に合わせる

2 「静止画」ボタンを軽く押す（半押し）
が黄色で表示され、点滅する

3 が緑色に変わったら、「静止画」ボタンを強く押す（全押し）
静止画が撮影される
画面表示：➡[P]

画面に状態が表示される

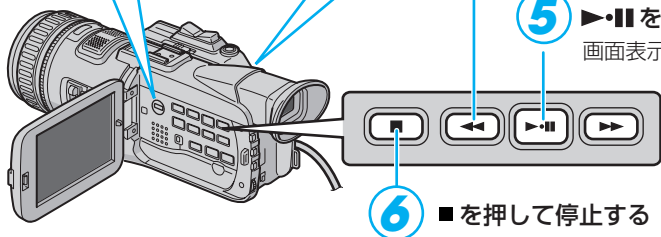
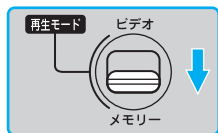
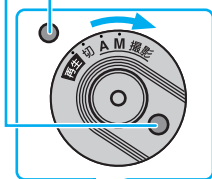
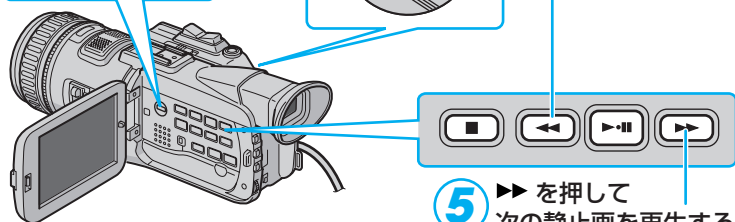
4 手順2～3を繰り返す

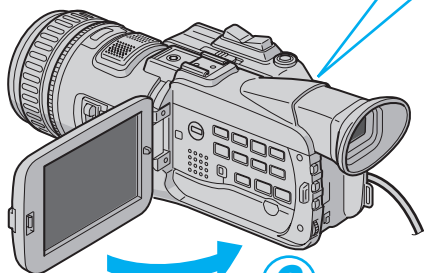
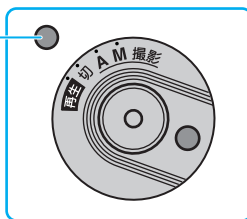
撮ったビデオを見る

1 スイッチを「ビデオ」の位置に合わせる

2 ロック解除ボタンを押したまま

3 「再生」をランプの位置に合わせる

4 ◀◀を押して巻き戻す
画面表示：◀◀
テープの先頭まで巻き戻ると、停止する

5 ▶•❚❚ を押して再生する
画面表示：▶

6 ■ を押して停止する

撮った静止画を見る

1. スイッチを「メモリー」の位置に合わせる
2. ロック解除ボタンを押したまま
3. 「再生」をランプの位置に合わせる
   静止画が表示される
4. ◀◀ を押して
   1枚前の静止画を再生する
5. ▶▶ を押して
   次の静止画を再生する

電源を切る

1. 「切」をランプの位置に合わせる
   ランプが消灯し、画面が消える
2. 液晶画面を閉じる

ビデオ撮影、本番へGO!

とにかくすぐに撮影をしてみるステップはこれで終了。次は、いよいよ撮影本番！
バッテリーを使い、いろいろなシーンを撮影しましょう。
バッテリーの充電には約200分（BN-V428の場合）かかります。この待ち時間を利用して、まず「これだけは知っておこう」編のページに目を通してみてください。きっと撮影のときに役立ちます。

「これだけは知っておこう」編 ☞P. 24～85
バッテリーで撮影する ☞P. 28
上手に撮るコツ ☞P. 55、63

安全上のご注意

安全のために必ずお守りください

絵記号について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵記号が記載されています。
これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。絵記号の意味をよく理解して本文をお読みください。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の説明

●注意（危険、警告を含む）が必要なことを示す記号

一般的注意

手がはさまれる

●してはいけない行為（禁止行為）を示す記号

禁止

水場での使用禁止

接触禁止

分解禁止

ぬれ手禁止

水ぬれ禁止

●必ずしてほしい行為（強制、指示行為）を示す記号

一般的指示

プラグをコンセントから抜く

⚠危険

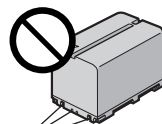
■バッテリーは絶対に分解、加工（はんだ付けなど)、加熱、火中投入などをしない

・液漏れ、発熱、破裂、発火し、火災やけがの原因となります。

■高温の場所（60℃以上）に置かない

・発熱、破裂、発火の原因となります。

■バッテリーの端子部に金属物（ネックレスやヘアピンなど）を接触させない

・ショートして発熱し、火災やけがの原因となります。
・持ち運びの際にはキャップを取り付けて、金属物と端子が接触しないようにしてください。

■AC アダプターは指定以外のビデオやビデオカメラやバッテリーに使わない

・性能や形状が異なると、火災や故障、感電の原因となることがあります。
・指定されたものか確かめ、ビデオカメラやアクセサリーの取扱説明書もよくお読みください。

■AC アダプターの分解や改造をしない

・火災や感電の原因になります。
・お客様ご自身による点検、整備、修理は危険です。絶対におやめください。
・内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

⚠ 警告

■液漏れを起こしたバッテリーを使わない

・液漏れを起こしたバッテリーはショートによる発熱で、さわるとやけどをする原因となります。
・バッテリーの液が漏れたときは、バッテリー取り付け部の液をよく拭き取ってから新しいバッテリーを取り付けてください。
・バッテリーの液が身体や衣服についたときには、水でよく洗い流してください。万一、目などに液が入った場合はきれいな水で洗った後、ただちに医師に相談してください。

■濡れたバッテリーは使わない

・故障、感電、発熱、発火の原因となります。

■煙が出たり、へんな臭いがするときなどは、バッテリーをはずす、または電源プラグを抜く

・販売店に修理を依頼してください。
・そのまま使用すると火災や感電の原因となります。
・お客様ご自身による修理は危険です。絶対におやめください。

■落としたり、壊れたときなどは、バッテリーをはずす、または電源プラグを抜く

・販売店に修理を依頼してください。
・そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。
・お客様ご自身による修理は危険です。絶対におやめください。

■内部に水や異物が入ったときは、バッテリーをはずす、または電源プラグを抜く

・販売店に修理を依頼してください。
・そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。
・お客様ご自身による修理は危険です。絶対におやめください。

■電源コードが傷んだときは、電源プラグを抜く

・販売店に修理を依頼してください。
・芯線が露出していたり、断線したままで使用すると、火災や感電の原因になります。

⚠警告

■持ち運ぶときには、液晶画面やファインダーを持たない

・液晶画面、またはファインダーを持って運ぶと、故障したり落として、 けがの原因となります。

■不安定な場所に置かない

・ぐらついた台の上や傾いた所には置かないでください。
・落ちたり、倒れたりして、故障やけがの原因となります。

■指定の電源電圧以外で使用しない

・火災や感電の原因となります。

■電源コードを傷つけない

・火災や感電の原因となります。
・次のようなことをすると、傷つく原因となります。ご注意ください。
加工する、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものをのせる、熱器具に近づける。

■内部に物を入れない

・カセットテープの出し入れ口などから、金属類や燃えやすいものなどを入れないでください。
・火災や感電の原因となります。
・特にお子様にご注意ください。

■内部の部品に触らない

・カセットテープの出し入れ口から見える部品に触らないでください。
・感電や故障の原因となります。

■機器を接続するときは、電源を切る

・電源を入れたまま接続すると、感電や故障の原因となります。

■分解や改造はしない

・火災や感電の原因となります。
・お客様ご自身による点検、整備、修理は危険です。絶対おやめください。
・内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

安全上のご注意

■自動車などの運転中に使用しない

・運転をしながら、撮影、再生をすることは絶対におやめください。
　交通事故の原因になります。

■レンズやファインダーを太陽や強い光源に向けない

・レンズやファインダーを太陽に向けたまま放置しておくと、集光により内部部品が破損して発熱し、火災や故障の原因となります。

■ぬらさない

・火災や感電の原因となります。
・風呂場では使用しないでください。
・雨天、降雪中、海岸、水辺で使用するときは、ご注意ください。
・水などの入った容器（花びん、植木鉢、コップ、化粧水、薬品など）は、こぼれたりしますので、機器の近くに置かないでください。

■雷が鳴り出したら、電源プラグにはふれない

・感電の原因となります。

■電源プラグが不完全な接続状態で使用しない

・接触不良で発熱し、火災や感電の原因となります。
・最後までしっかりと接続してください。

■電源プラグにほこりや金属物を付着させない

・ほこりや金属物を伝わって電気が流れ、ショートや絶縁不良で発熱し、火災や感電の原因となります。
・ほこりや金属物が付着しているときは、電源プラグを抜き、取り除いてください。

■上に乗らない

・倒れたり、こわれたりして、けがの原因になります。特に小さなお子様がいるご家庭ではご注意ください。

⚠注意

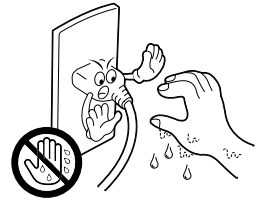
■充電中のバッテリーに長時間触れない

・温度が上がり、長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

■電源コードはコードの部分を持って抜かない

・コードの部分を持って抜くと、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
・プラグの部分を持って抜いてください。

■ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

・感電の原因となることがあります。

■次のような場所には置かない、使わない

・砂浜などの砂ぼこりのある所
・湿気やほこりの多い所
・調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気の当たる所
・熱器具の近くなど
・真夏の車内など高温になる所
・直射日光の強い所
火災や感電、故障の原因となることがあります。

■上に重い物を置かない

・バランスがくずれて倒れたり落下して､けがの原因となることがあります。

■カセットの出し入れ口に手を入れない、ファインダーの取り付け部に指を入れない

・手や指をはさまれてけがをする原因となります。
・特にお子様にご注意ください。

安全上のご注意

⚠注意

■本体に衝撃を与えない
・けがをするおそれがあります。また、本機が故障する原因となります。

■指定以外のアクセサリーを使わない
・性能や形状が異なると、火災や故障、感電の原因となることがあります。
・本機に指定されたものか確かめ、アクセサリーの取扱説明書もよくお読みください。

■別売の照明用ライトなどを使うときはライト部に顔、素手、髪の毛などを近づけない
・高温のため、やけどや髪の毛が燃える原因となります。

■本機やアクセサリーなどを布などでおおった状態で使用しない
・熱がこもって変形したり、火災の原因となることがあります。

■コード類は正しく配置する
・AC アダプターの電源コードや接続用コードなどは、足にひっかけると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあります。
・十分注意して接続、配置してください。

■長期間使用しないときはバッテリーをはずし、電源プラグを抜く
・電源が「切」でも本機に電気が流れていますので、安全のためにお守りください。

■別売の三脚を不安定な状態で使用しない
・足などの上に倒れる、けがをする原因となります。また、本機が故障する原因となります。
・足などを引っかけないようにご注意ください。強風にもご注意ください。

■移動するときは、電源プラグや接続コード類をはずす
・接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
・カセットテープも取り出しておいてください。

⚠注意

■バッテリーやグリップベルト、ストラップは正しく取り付ける

・正しく取り付けられていないと、落下によりけがや故障の原因となることがあります。

■お手入れするときは、バッテリーをはずし、電源プラグを抜く

・電源が「切」でも機器に電源が流れていますので感電の原因となることがあります。

■5年に一度は内部の点検を販売店に依頼する

・内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないで使用し続けると、火災や感電の原因となることがあります。
・湿気の多くなる梅雨期の前に点検すると、より効果的です。
・費用については、販売店にご相談ください。

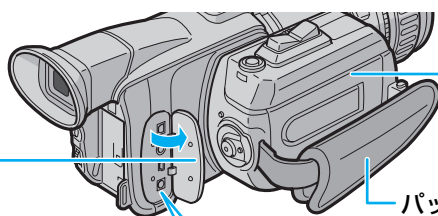
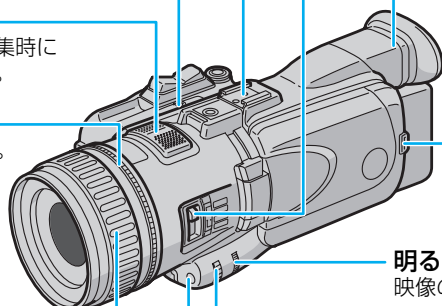
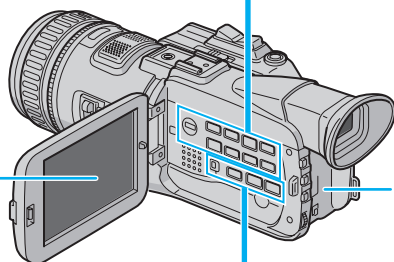
■強い電波や磁気の発生する所、または雷が近いときは使用しない

・故障の原因となることがあります。
・テレビの上や近くでは使用しないでください。
・ AC アダプターを使用しているときは、なるべく本機から遠ざけてご使用ください。

■飛行機内で使うときは、航空会社の指示に従う

・本機が出す電磁波などにより、飛行機の計器に影響を与える原因となります。

各部の名前とはたらき

シュー
別売アクセサリーキット（VU-HD1K）のハンドル、ステレオマイク（MV-E100）や市販のライトを取り付けます。
カセット取出しスイッチ
カセットテープの出し入れに使用します。
ステレオマイク
撮影時とアフレコ編集時に音声を吹き込みます。
ズームリング
ズームに使用します。
フォーカスリング
手動でのピント合わせに使用します。
逆光補正ボタン
背景が明るく被写体が暗くなってしまったときに使用します。
撮影モード選択スイッチ
撮影モードを切り替えます。
ファインダー
撮影するときに引き出します。撮影中、再生中に映像が映ります。
押ー開ボタン
液晶画面を開けます。
明るさ補正レバー
映像の明るさ調節に使用します。
フォーカスボタン
ピント合わせに使用します。
ローテーティンググリップ
回転式のグリップです。いろいろな角度で撮影したいときに回します。
端子カバー
パッド
S／AV入／出力端子
S／AV／編集コードでテレビやビデオデッキを接続します。
USB端子
USBケーブルを取り付けます。
ヘッドホン端子
ヘッドホンを接続できます。ヘッドホン接続時は、スピーカーから音が出ません。
DC端子
DCコードを取り付けます。
S/AV
DC

停止ボタン
ビデオの再生や静止画の連続再生を停止するときに使用します。
巻き戻しボタン
ビデオの巻き戻しや静止画の再生操作に使用します。
再生/一時停止ボタン
ビデオや静止画の再生操作に使用します。
再生モード選択スイッチ
ビデオテープからの再生とメモリーカードからの再生を切り替えます。
ビデオ
メモリー
インデックス
インフォ
ナビ
ナビ書込み
早送りボタン
ビデオの早送りや静止画の再生操作に使用します。
インデックスボタン
メモリーカード内の静止画を一覧表示します。
ナビ書込みボタン
頭出しするためのデータを記録するときに使用します。
インフォボタン
静止画の情報を表示するときに使用します。
ナビボタン
あらかじめ設定した場面を頭出しするときに使用します。
液晶画面
撮影中、再生中に映像が映ります。また、メニューもここに表示されます。
バッテリー取り付け部
i.LINK出力選択スイッチ
DVフォーマット映像の出力とMPEG2フォーマット映像の出力を切り替えます。
エフェクトボタン
映像に変化をつけるときに使用します。
i.LINK出力
DV
MPEG2
ブランクサーチ
フェーダー
エフェクト
F
E
ブランクサーチボタン
無記録部分を探すときに使用します。
フェーダーボタン
場面切替を設定するときに使用します。

各部の名前とはたらき

静止画ボタン
メモリーカードに静止画を撮影する、またはテープに静止画を撮影します。
ズームスイッチ
撮影中、映像のズームを行います。
端子カバー
電源ランプ
電源が入っているときに点灯します。
マイク端子
外部マイクを接続します。
レンズキャップ
撮影しないときはレンズ部に取り付けてください。撮影中はパッドに取り付けてください。
ショルダーストラップ取り付け部
撮影ボタン
ビデオの撮影を開始または終了します。
電源ダイヤル
電源の入切、撮影と再生などを切り替えます。
A ･････････全自動で撮影できます。
M ･････････撮影方法を細かく設定して、撮影できます。
切 ･････････電源が切れます。
再生 ････････ビデオや静止画を見るときに切り替えます。
ガイドノブ穴
三脚によっては使用します。
メモリーカードカバー
メモリーカードを出し入れします。
三脚取り付け穴
視度調節レバー
ファインダーでの映像が見やすくなるように調節します。
グリップベルト
バッテリー取りはずしスイッチ
バッテリーを取りはずします。

スピーカー
再生時にここから音が出ます。

プログラムAEボタン
状況に合わせて撮影するときに使用します。

シャッタースピード／アイリス優先ボタン
手動でシャッタースピードや絞りを設定するときに使用します。

ホワイトバランスボタン
手動でホワイトバランスを設定するときに使用します。

メニュー／決定レバー
メニューを表示して操作します。また、スピーカーやヘッドホンの音量を調節します。

端子カバー

P.AE
S/A
W.B
M メニュー
押・決定

D端子出力
D端子付きのテレビやビデオ機器と接続します。

i.LINK入力/出力端子
i.LINK端子付きのビデオ機器と接続します。
i-LINKは、IEEE1394-1995仕様およびその拡張仕様です。
iはi-LINKに準拠した商品につけられるロゴマークです。

撮影ランプ
撮影中に点灯します。

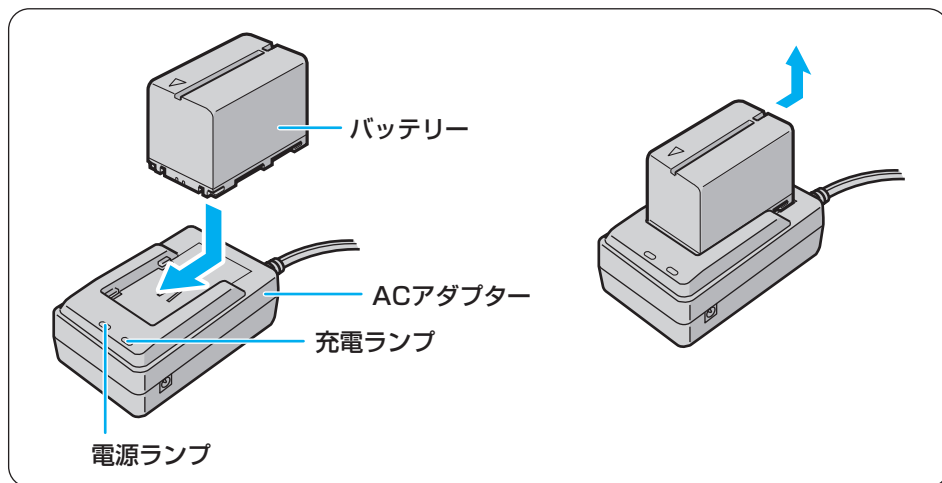
カメラセンサー
撮影に必要なセンサーです。
指などでふさがないようにしてください。

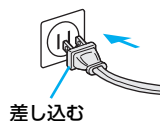
レンズフード
レンズに余分な光が入るのを防ぎます。

リモコン受光部
ここに向けてリモコンを操作してください。

準備する

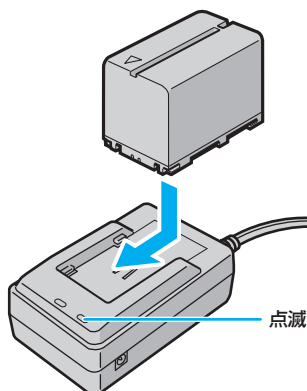
Step1　バッテリーを充電する

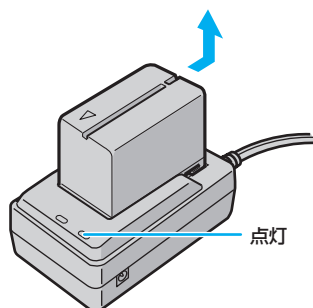
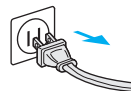
バッテリーの充電には、別売アクセサリーキット(VU-HD1K)のACアダプターを使用します。
バッテリーを充電するときには、バッテリーのキャップを取りはずしてください。

1　ACアダプターの電源コードをコンセントに差し込む

電源ランプが点灯します。

2　バッテリーを取り付け、充電する

充電ランプが点滅します。

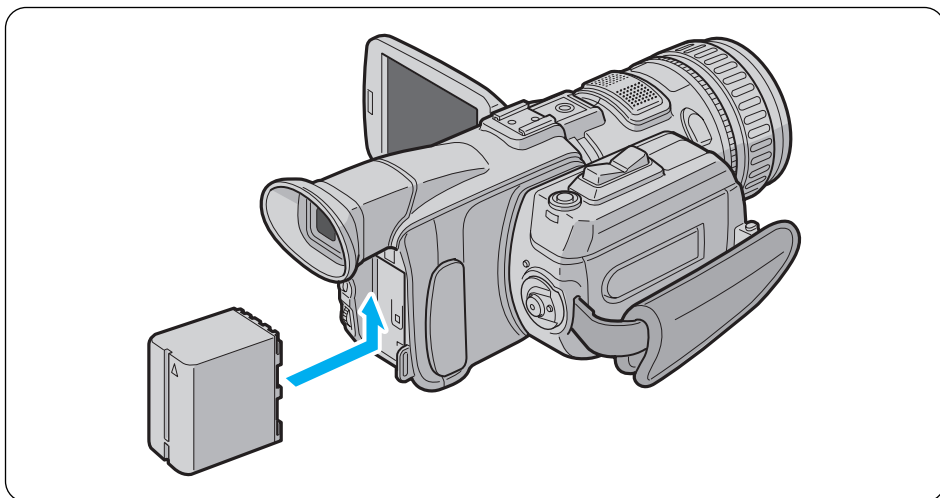
ご注意

- ACアダプターにDCコードを接続しないでください。充電できません（☞P.10、70）。

3 充電ランプの点滅が点灯に変わったら、バッテリーを取りはずす

バッテリーが充電されました。

4 AC アダプターの電源コードを抜く

- 充電時間の目安（室温 10℃～35℃）：標準バッテリー(BN-V416)で約 120 分、
  長時間バッテリー(BN-V428)で約 200 分。
- 海外でもバッテリーを充電できます（☞ P.212）。

- 十分に充電しても撮影できる時間が短くなったときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーに交換してください（☞ P.203、206）。

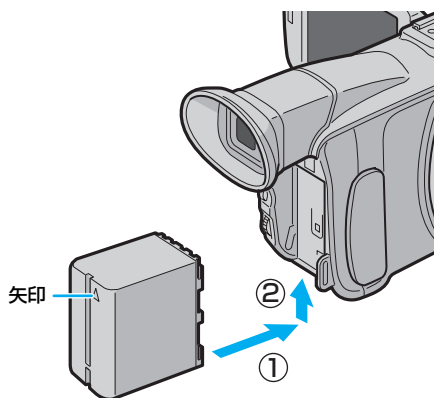
Step2　バッテリーを取り付ける

バッテリーは出荷時には充電されていません。ACアダプターで充電してからお使いください。充電が終わっていない場合など、必要に応じてACアダプターを取り付けて使用することもできます（☞P.70）。

1 充電済みのバッテリーを取り付ける

①バッテリーの矢印を上向きにしてビデオカメラに押しつけます。

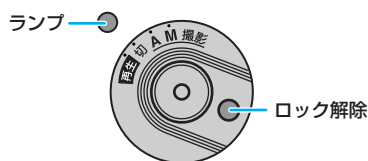
②カチッと音がするまで上へスライドさせて取り付けます。

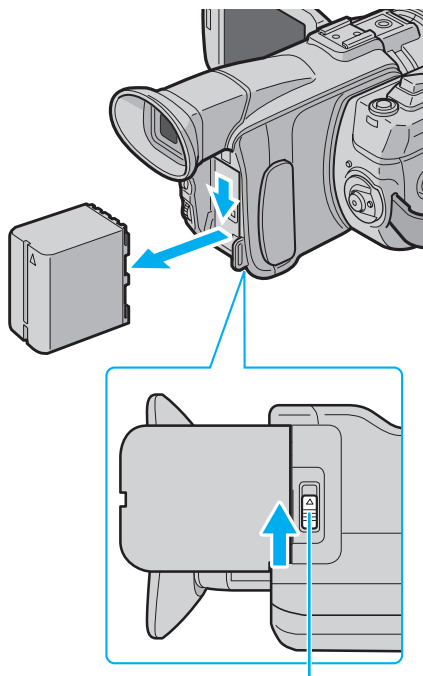
ご注意

- バッテリーはカチッと音がするまで確実に取り付けてください。確実に取り付けられていないと、使用中にバッテリーが落下することがあります。

バッテリーを取りはずすには

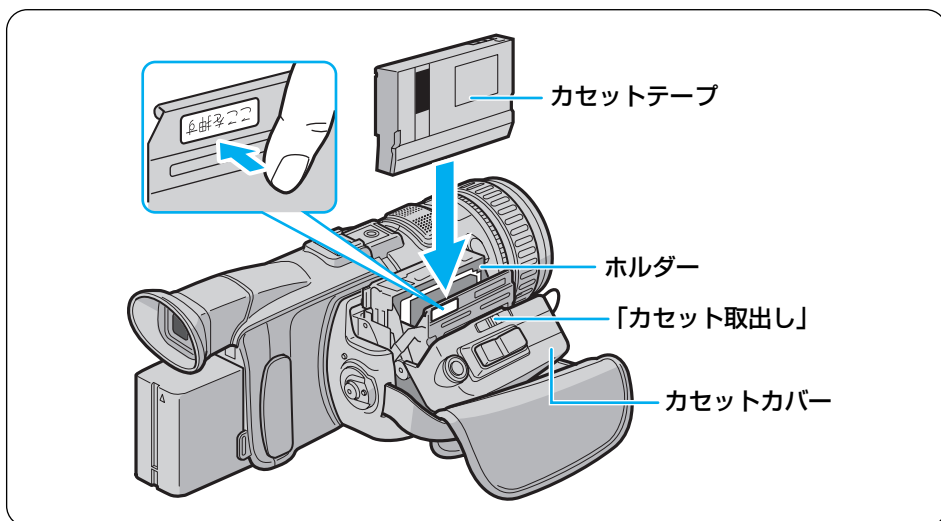
1 電源ダイヤルが「切」の位置に合っていることを確認する

- 合っていないときは、ロック解除ボタンを押しながら、「切」の位置に合わせてください。

- 電源を切らずにバッテリーを出し入れすると、故障する恐れがあります。

2 「バッテリー」スイッチを矢印の方向にスライドさせたまま、バッテリーを取りはずす

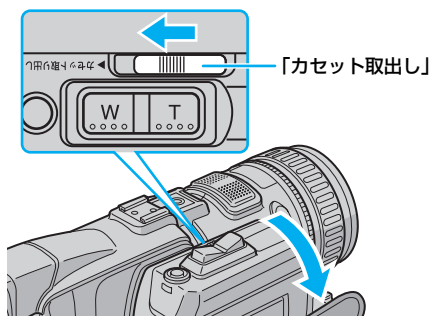
- 上から下へスライドさせ、手前に引いて取りはずしてください。

- 取りはずしたバッテリーを持ち運んだり、保管したりするときには、キャップを取り付けてください。

Step3　カセットテープを入れる

ビデオを撮影するには、ミニ DV カセットテープを使用します。

1 グリップベルトをゆるめる

- グリップベルトの調節（☞ P.39）

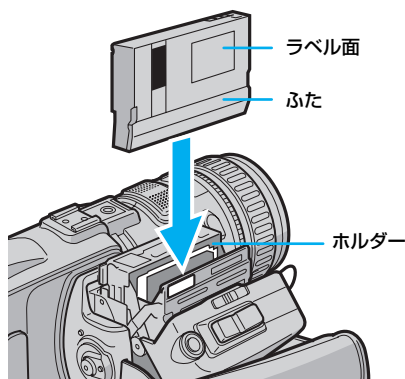
2 「カセット取出し」スイッチを矢印の方向にスライドさせたまま、カセットカバーを手で開ける

本体内部のホルダーが自動的に開きます。

3 カセットテープをホルダーに入れる

- カセットテープのラベル面をカセットカバー側に、カセットテープのふたの部分を奥にして入れます。

  カセットテープを指で軽く押して、ホルダーの奥まで確実に入れてください。

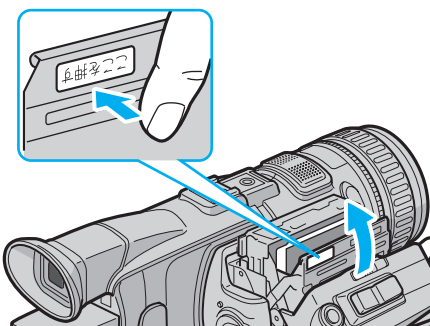
ご注意

- テープがからまるなど、一度トラブルのあったカセットテープは使用しないでください。故障の原因となります。

4 ホルダーの「ここを押す」を押す

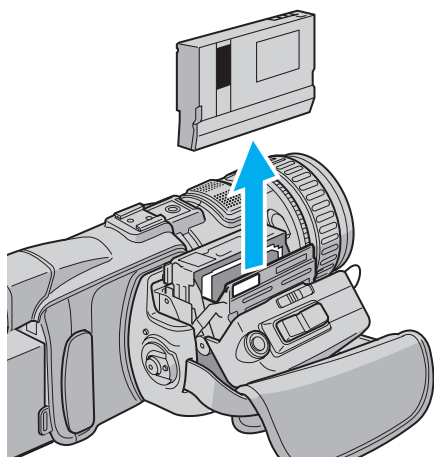
ホルダーが自動的に収納されます。

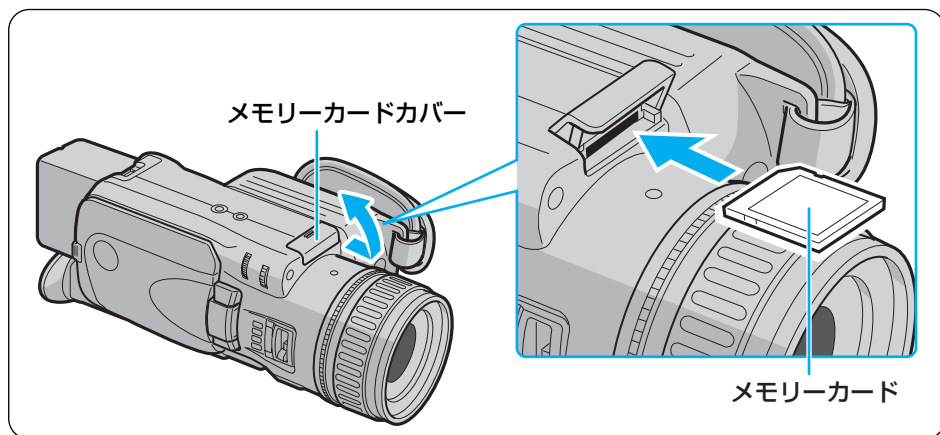
- ホルダーが収納されない場合、カセットカバーを完全に開いてカセットテープを取り出し、少し待ってから入れ直してください。

ご注意

- 指などをはさまれないようにご注意ください。

5 カセットカバーをカチッと音がするまで押して閉める

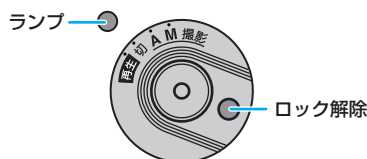
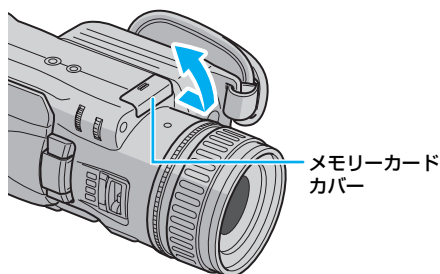
カセットテープを取り出すには

1 前ページの手順３で、カセットテープを引き上げて取り出す

Step4　メモリーカードを入れる

静止画を撮影するには、メモリーカード（SD Memory Card、またはマルチメディアカード）を使用します。

1 電源ダイヤルが「切」の位置に合っていることを確認する

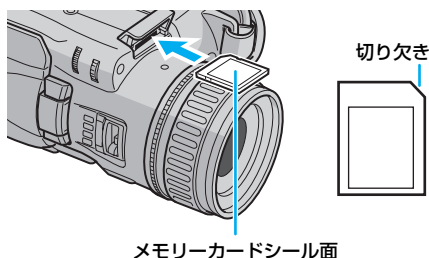
● 合っていないときは、ロック解除ボタンを押しながら、「切」の位置に合わせてください。

ランプ
再生 切 A M 撮影
ロック解除

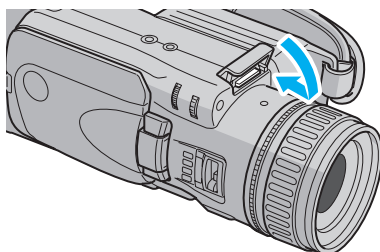
ご注意
• 電源を切らずにメモリーカードを出し入れすると、故障する恐れがあります。

2 メモリーカードカバーをスライドさせてから開ける

次へ続く

3 メモリーカードの切り欠き部分を奥にして図の方向に差し込む

- 奥までしっかりと、まっすぐ差し込んでください。

- メモリーカードの金属部分を触らないでください。

4 メモリーカードカバーを、カチッと音がするまで押して閉める

ご注意

- 新たに購入したメモリーカードを使用するときは、本機で初期化（フォーマット）してください（☞P.192）。

- 別売アクセサリーキットのメモリーカードは、初期化されています。

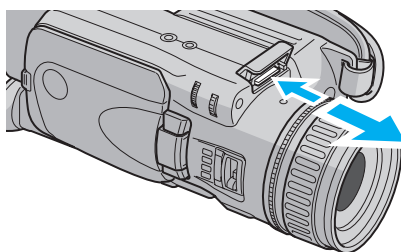
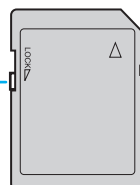
メモリーカードを取り出すには

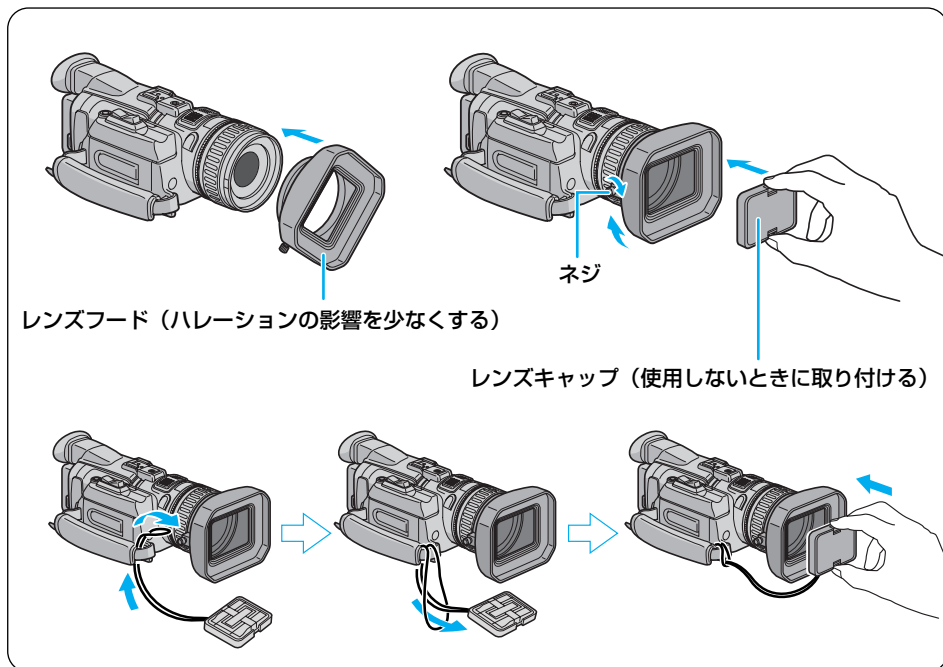
1 上の手順３でメモリーカードを押す

メモリーカードが少し出てきます。

2 出てきたメモリーカードを引き抜く

- **SDメモリーカードについて**

大切な画像を消してしまわないように、メモリーカードへ記録できなくすること（ライトプロテクト）ができます。ライトプロテクトをかけるには、メモリーカード側面のスイッチを「LOCK」の位置に合わせてください（スイッチを戻すと、記録できるようになります）。

Step5　レンズフードを取りはずす／取り付ける

レンズフードは取りはずすことができます。
撮影しないときは別売アクセサリーキット（VU-HD1K）のレンズキャップを取り付けます。

取りはずすには

1 レンズフード脇に付いているネジを回し、レンズフードを反時計回り方向に回して取りはずす

取り付けるには

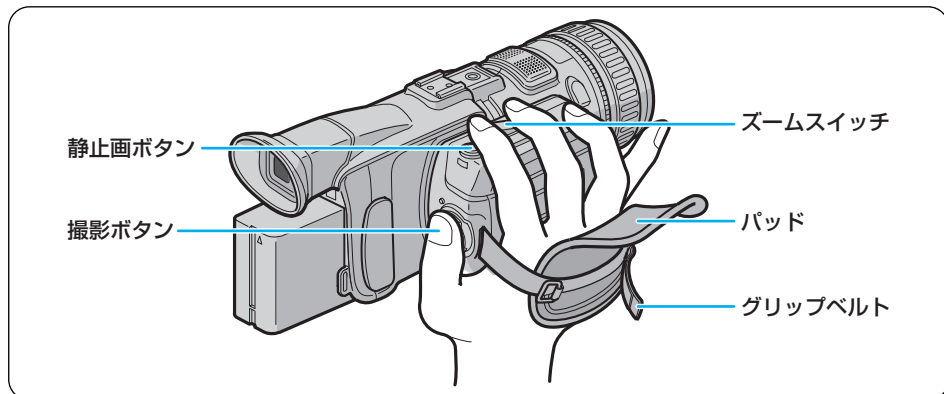
1 レンズフードを傾けてレンズ部に取り付け、時計回り方向に回す

2 レンズフード脇に付いているネジを回し、レンズフードを固定する

- レンズキャップを、ビデオカメラに直接取り付けることはできません。
- 光源からの直接光がレンズに入って、画像の一部が白く濁る状態を、ハレーションといいます。
- 撮影中は、レンズキャップをパッドに取り付けてください。（☞P.26）

- 通常は、レンズフードを取り付けた状態で使用してください。別売のワイドコンバージョンレンズ、またはテレコンバージョンレンズを取り付けて使用する場合のみ、レンズフードを取りはずしてください。

Step6　グリップベルトを調節する

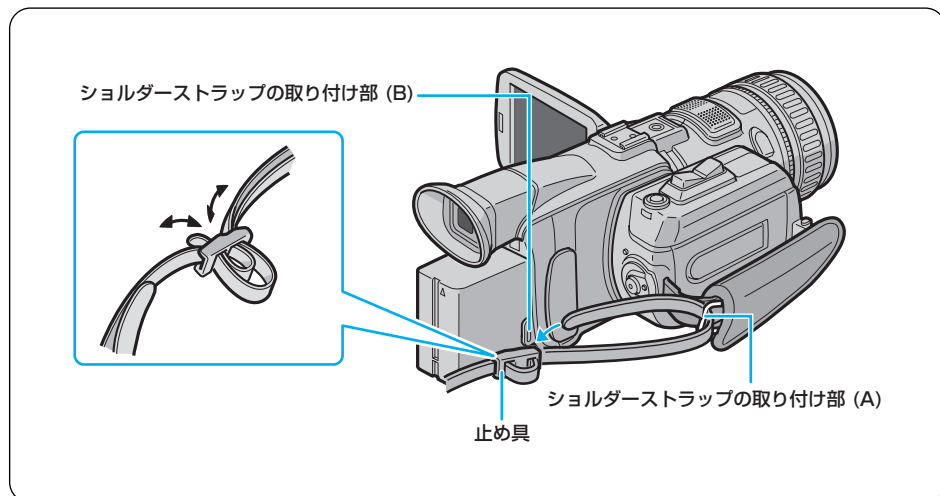
手の大きさに合わせて安定した撮影をするため、グリップベルトの長さを調節します。

1 パッドをはがす

2 グリップベルトの長さを調節する

- 親指を撮影ボタンの位置に合わせ、同時に人差し指と中指をズームスイッチの位置に合わせて構えたときに、本体がぐらつかない程度にベルトを締めてください。

3 パッドを貼り付ける

Step7　ショルダーストラップを取り付ける

移動中に肩にかけられるようになります。落下することがないように、しっかりと取り付けてください。

1 ショルダーストラップの先を取り付け部(A)に通す

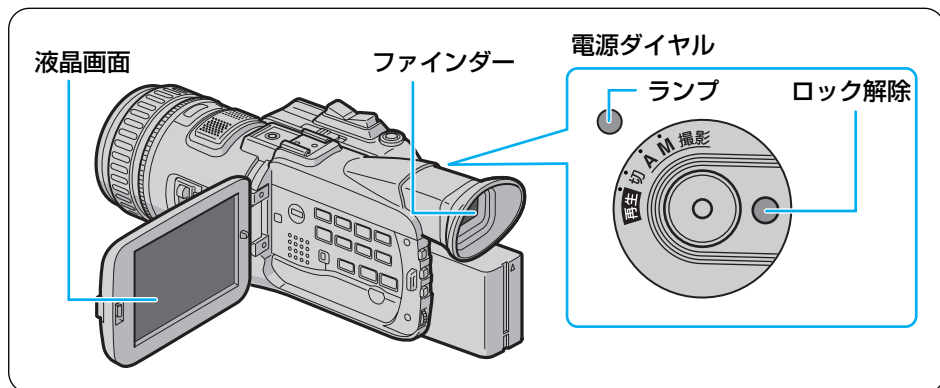
2 長さを調節し、止め具で固定する

- 止め具を通っているショルダーストラップを少しゆるめて調節します。

3 もう一方の先をグリップベルトの取り付け部(B)に通し、止め具で固定する

- ショルダーストラップを引っぱり、確実に取り付けられたか確認してください。

Step8　電源を入れる

電源は液晶画面やファインダーと連動しています（クイックパワーオフ機能）。
液晶画面を開く（またはファインダーを引き出す）とすぐに撮影を始められ、液晶画面とファインダーを元に戻すだけで電源を切れます。

電源を入れるには

撮影する前にレンズキャップを取りはずしてください。
つぎの 2 つの条件が揃ったときに電源が入り、ランプが点灯します。どちらを先にしても構いません。

■電源ダイヤル

ロック解除ボタンを押したまま、電源ダイヤルの「**A**」または「**M**」をランプの位置に合わせる。

■液晶画面とファインダー

液晶画面を開く、またはファインダーを引き出す。

- レンズキャップを取り付けたまま電源を入れると、液晶画面またはファインダーに「レンズキャップ」と表示されます。レンズキャップを取りはずしてください。

電源を切るには

電源ダイヤルの「切」をランプの位置に合わせ、ランプの消灯を確認する。
または、液晶画面とファインダーを元に戻し、ランプの消灯を確認する。

- 液晶画面を開いて、さらにファインダーを引き出した場合、液晶画面とファインダーの両方かどちらか片方に映像や文字、記号を表示させるかを選ぶことができます(☞P.182)。
  お買い上げ時には、液晶画面が優先されるように設定されています。

ご注意

- ファインダーを元に戻すときは、指をはさまないように、ご注意ください。
- ファインダーを元に戻すときは、奥まで戻してください。気づかずにバッテリーを消費します。必ずランプが消灯していることを確認してください。
- 長期間使わないときは、バッテリーとACアダプターを取りはずしてください(☞P.31、70)。

再生するには

撮影とは異なり、次の操作だけで電源が入り、ランプが点灯します。

■電源ダイヤル

ロック解除ボタンを押したまま、電源ダイヤルの「再生」をランプの位置に合わせる。

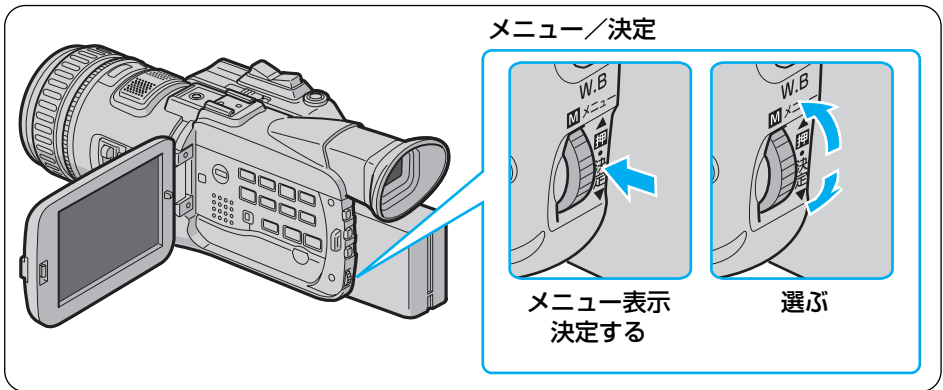
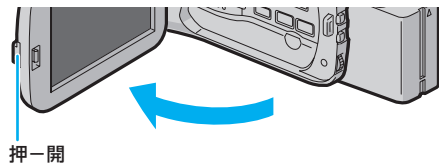
電源を切るには

電源ダイヤルの「切」をランプの位置に合わせ、ランプの消灯を確認する。

ご注意

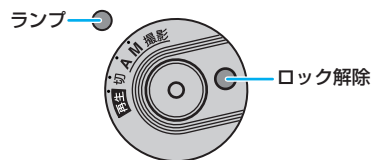
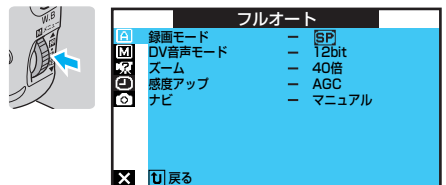
- 液晶画面を閉じていても電源が入ります。気づかずにバッテリーを消費します。必ずランプが消灯していることを確認してください。
- 長期間使わないときは、バッテリーとACアダプターを取りはずしてください(☞P.31、70)。
- ビデオカメラをカバンにしまうときや使わないときには、レンズ保護のために別売アクセサリーキットのレンズキャップを取り付けてください(☞P.37)。
- レンズキャップを取り付けるときは、レンズに触らないようにしてください。

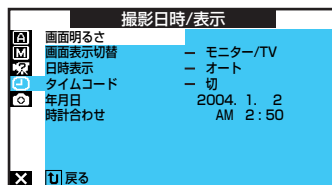
日付・時刻を合わせるには

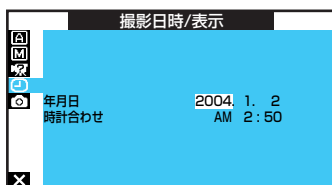
ビデオカメラには出荷時に日時を設定してありますが、お客様のお手元に届くまでに時刻がずれたり、設定が消えていることがあります。お使いになる前に、正しい日時を設定しなおしてください。また、日時が異なる国へ旅行するときも、日時設定を変更してください。
画面に「日時を設定して下さい」とメッセージが表示されたときは、時計用の内蔵電池が空になっています。内蔵電池を交換するには、最寄りの「ビクターサービス窓口」にご相談ください。(☞ P.210)

1 「押ー開」ボタンを押して液晶画面を開く

2 ロック解除ボタンを押したまま、「M」をランプの位置に合わせる

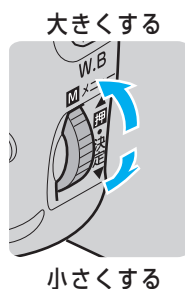
ランプが点灯し、液晶画面に映像が表示されます。

3 「メニュー／決定」レバーを押して、メニューを表示する

これだけは知っておこう編

4 レバーを上下に動かして「」を選び、押して決定する

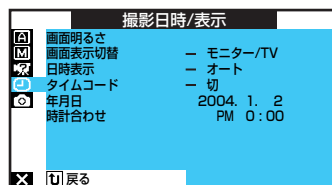
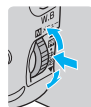
撮影日時／表示設定メニューが表示されます。

5 レバーを上下に動かして「年月日時計合わせ」を選び、押して決定する

年が変更できるようになります。

6 レバーを上下に動かして正しい年に合わせる

- 数値を大きくする→「▲」側
- 数値を小さくする→「▼」側

7 レバーを押して年を決定する

月が変更できるようになります。

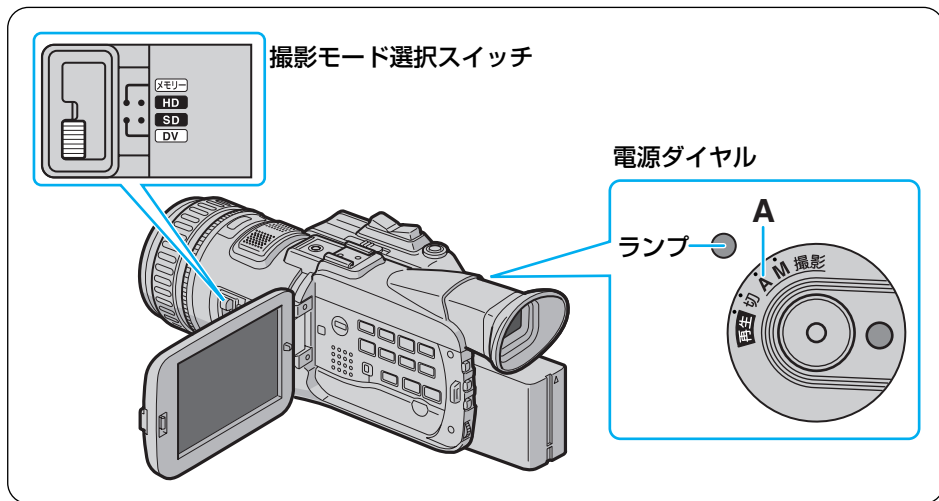
8 同様にして、月日と時刻を合わせ、レバーを押して決定する

「戻る」が反転します。

9 レバーを２回押す

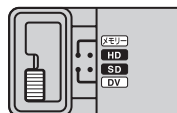
メニューが終了し、撮影画面に戻ります。

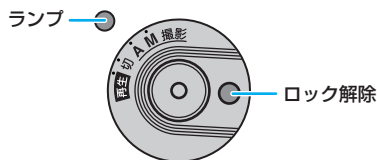
撮影する

Act.1　撮影モードを選択する

撮影前に、電源ダイヤルと撮影モード選択スイッチの設定を確認します。

上図のように設定されていないときは、下記の手順で設定してください。この取扱説明書では、特に断りがないときは上図の設定で操作しています。

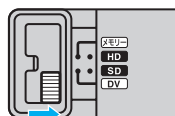
1 **撮影モード選択スイッチを「DV」、「SD」、「HD」のいずれかの位置に合わせる**

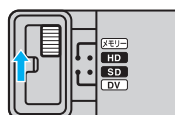
- 撮影モード選択スイッチの切り替えかたについては、次ページの「撮影モード選択スイッチの切り替え」で説明します。
- 撮影モードについては、「撮影モードごとの特徴」（☞ P.46）で説明します。

2 **ロック解除ボタンを押したまま電源ダイヤルを回し、「A」をランプの位置に合わせる**

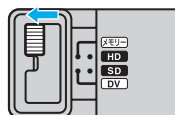
これだけは知っておこう編

撮影モード選択スイッチの切り替え

「DV」「SD」間で切り替えるときは、スイッチを左右にスライドさせます。同様に「メモリー」「HD」間で切り替えるときも、スイッチを左右にスライドさせます。
「HD」「SD」間で切り替えるときは、スイッチを上下にスライドさせます。
ここでは、例としてスイッチを「DV」から「メモリー」に切り替える場合を説明します。

1 スイッチを右にスライドさせる

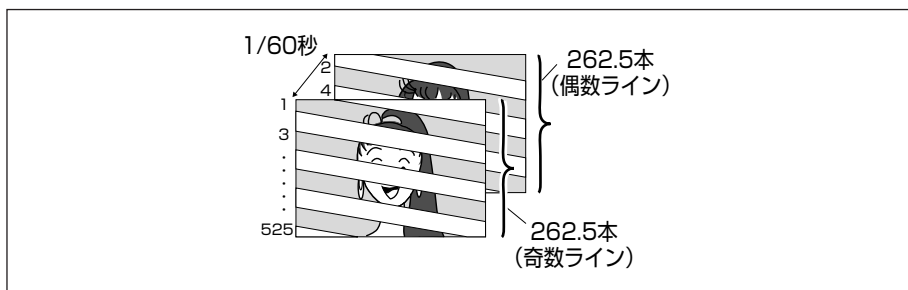
スイッチが「SD」の位置になります。

2 スイッチを上にスライドさせる

スイッチが「HD」の位置になります。

3 スイッチを左にスライドさせる

スイッチが「メモリー」の位置になります。

撮影モードごとの特徴

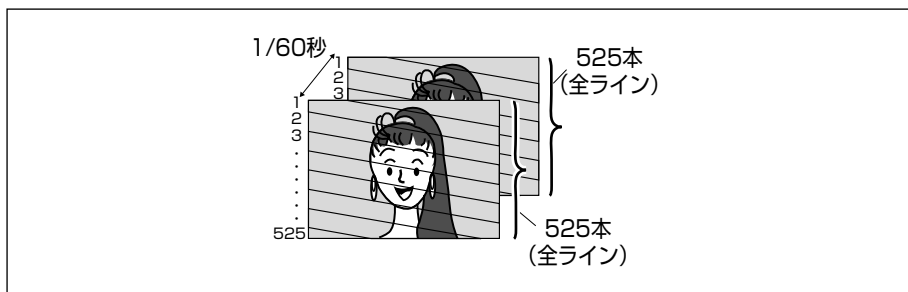
DV

特徴： DV フォーマット（画面の縦横比４ ： 3）でビデオを撮影し、テープに記録します。

- 1 ／ 60 秒ごとに 525 本の走査線を半分に分けて交互に流すインターレース(飛び越し走査)方式の映像信号で記録します(525i)。画質は現行のテレビ放送(VHF/UHF)とほぼ同じになります。

- ビデオ映像の中に、写真のような場面（静止画）を約6秒間挿入することもできます（☞P.92）。
- メニューで設定を変更すると、静止画をビデオテープに挿入するのと同時に、メモリーカードにも記録することができます（☞P.178）。このときの静止画の画像サイズは、640×480ドットになります。
- インサート録画、場面切替などを行いたい場合に選択します。

SD

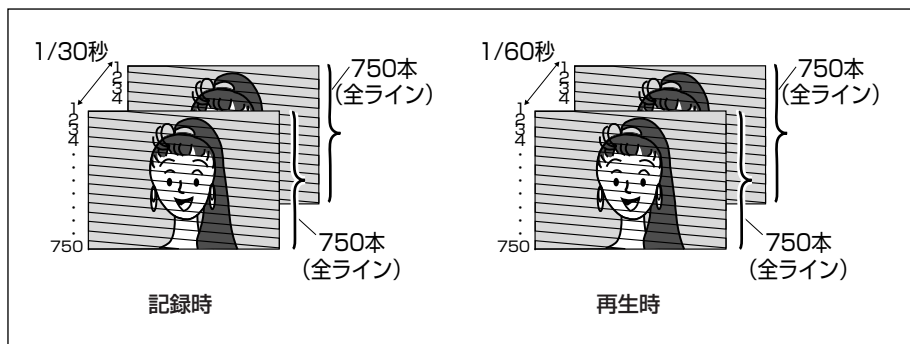
MPEG2フォーマット（画面の縦横比16：9）でビデオを撮影し、テープに記録します。

- 1／60秒ごとに525本の走査線を同時に流すプログレッシブ(順次走査)方式の映像信号で記録します(525P)。「DV」よりも、ちらつきが少なく高画質な映像を撮影できます。ワイドテレビやデジタルハイビジョンテレビに適した画面の縦横比で撮影できます。

- D2～D4端子付きのテレビ（主にテジタルハイビジョンテレビ）で再生する場合は、525Pの映像を再生できます。（☞ P.74）
- コンポーネント接続のハイビジョンテレビ、またはW-VHSで再生する場合は、1125iの映像を再生できます。（☞ P.78）
- ビデオ映像の中に、写真のような場面（静止画）を約6秒間挿入することもできます（☞ P.92）。
- メニューで設定を変更すると、静止画をビデオテープに挿入するのと同時に、メモリーカードにも記録することができます（☞ P.178）。このときの静止画の画像サイズは、848×480ドットになります。

次へ続く

HD デジタルハイビジョン撮影

MPEG2 フォーマット（画面の縦横比 16 ： 9）でビデオを撮影し、テープに記録します。

- 1 ／ 30 秒（再生は 1/60 秒）ごとに 750 本の走査線を同時に流すプログレッシブ(順次走査)方式の映像信号で記録します(750P)。デジタルハイビジョン撮影で「DV」、「SD」よりも、高画質な映像を撮影できます。ワイドテレビやデジタルハイビジョンテレビに適した画面の縦横比で撮影できます。

- D4 端子付きのテレビ（主にテジタルハイビジョンテレビ）で再生する場合は、750P の映像を再生できます。（☞ P.74）
- コンポーネント接続のハイビジョンテレビ、または W-VHS で再生する場合は、1125i の映像を再生できます。（☞ P.78）
- ビデオ映像の中に、写真のような場面（静止画）を約 6 秒間挿入することもできます（☞ P.92）。
- メニューで設定を変更すると、静止画をビデオテープに挿入するのと同時に、メモリーカードにも記録することができます（☞ P.178）。このときの静止画の画像サイズは、1280 × 720 ドットになります。

メモリー

特徴：静止画を撮影し、メモリーカードに記録します（☞ P.61）。

- 静止画には、2 種類の画像サイズがあります。

各撮影モードで使用できる機能

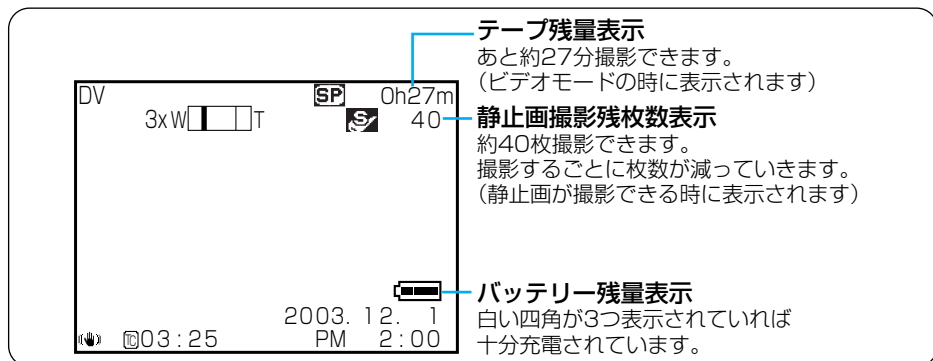
どの撮影モードで録画するかによって、使用できる機能が異なります。以下の表でご確認ください。その他の機能に関しては、どの撮影モードを選んでも使用できます。

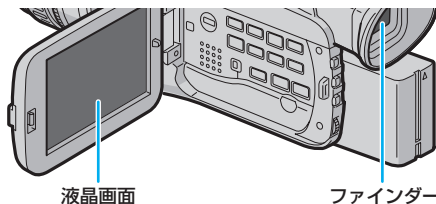
機能	DV	SD	HD	参照
コマ送り再生	○	×	×	P.66
スロー再生	○	×	×	P.208
ワイプ	○	△	×	P.112
エフェクト	○	○	△	P.119
ビデオ再生ズーム	○	×	×	P.133
再生演出効果	○	×	×	P.134
自動編集	○	×	×	P.149
インサート編集	○	×	×	P.162
アフレコ編集	○	×	×	P.164
5S	○	×	×	P.179

○：使用できます。
△：一部、使用できない機能があります。または再生する条件によっては、編集が反映されない場合があります。
×：使用できません。

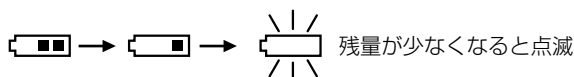
- メモリーカードに記録される静止画には、画質の良いファイン（F）とたくさん撮れるスタンダード（S）の2種類があります（☞P.102、178）。
- 静止画の画像サイズには、640×480ドット、848×480ドット、1280×720ドット、1280×960ドットの4種類があり、数字が大きなものほど画像サイズが大きいことを表します（☞P.102、178）。一般に画像サイズが大きくなるほどきれいに印刷できますが、メモリーカードに記録できる枚数は少なくなります。印刷を目的としない場合には、小さな画像サイズに設定しておけば、より多くの枚数を撮ることができます。

Act.2　画面表示を確認する

テープ、メモリーカード、バッテリーの残量を確認します。

1 液晶画面を開くか、ファインダーを引き出す

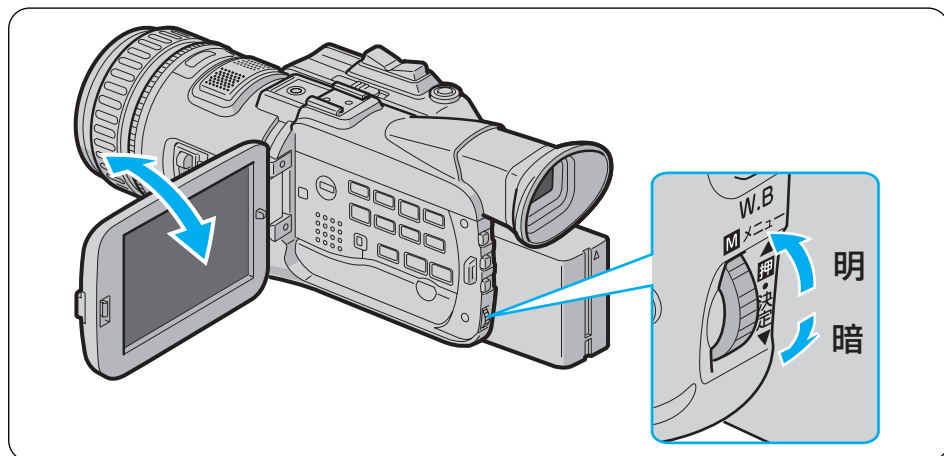
撮影画面が表示されます。

2 画面表示を確認する

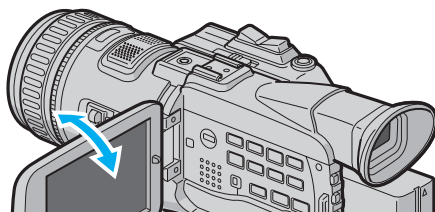
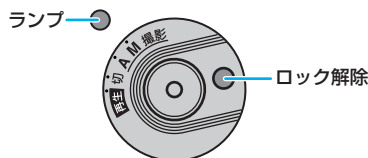
- バッテリー残量が少なくなったときは、バッテリーを充電してください（☞P.28）。

残量が少なくなると点滅

- テープ残量が足りない場合は、テープを交換するか、または録画モードをLPにしてください（☞P.32、177）。
- メモリーカードの静止画撮影可能枚数が足りない場合は、メモリーカードを交換してください。または、不要な静止画を削除してください（☞P.35、82）。
- 静止画撮影可能枚数は、撮影画像、画像サイズ、画質モードの変更などによって増減します（☞P.62）。
- 入れたばかりのテープでは、テープ残量は表示されません。テープを10秒間ほど走行させて表示してください。
- テープ残量は目安としてお使いください。
  使用するカセットテープによっては、正しく表示されない場合があります。80分テープの巻き始めでは、正しい残量表示が出るまでに多少時間のかかることがあります。

Act.3　液晶画面やファインダーを調節する

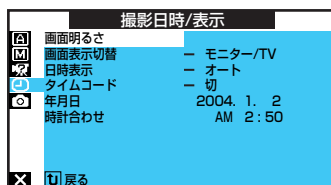
液晶画面を使うとき

画面表示や映像を見やすいように、液晶画面を調節します。

1　液晶画面の角度を調節する

- 液晶画面枠の上下に手を添えて、見やすい角度に傾けてください。

2　ロック解除ボタンを押したまま電源ダイヤルを回し、「M」をランプの位置に合わせる

3　「メニュー／決定」レバーを押して、メニューを表示する

次へ続く

4 「メニュー／決定」レバーを上下に動かして「◘」を選び、押して決定する

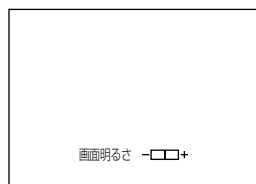
撮影日時／表示設定メニューが表示されます。

5 もう一度、「メニュー／決定」レバーを押す

画面の明るさが調節できるようになります。

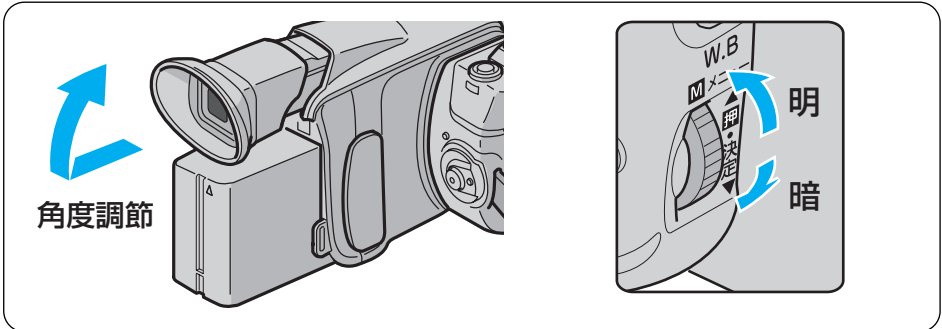
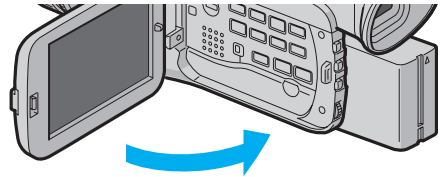
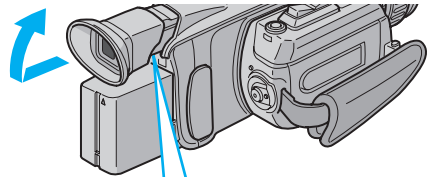
6 「メニュー／決定」レバーを上下に動かして、明るさを調節する

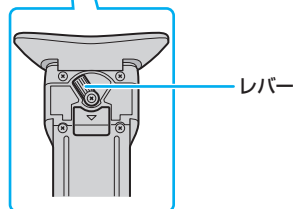
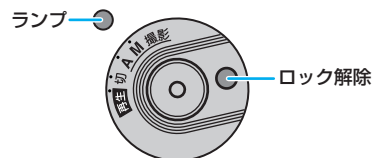
- 見やすい明るさに調節してください。

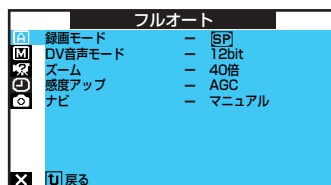
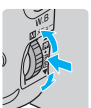
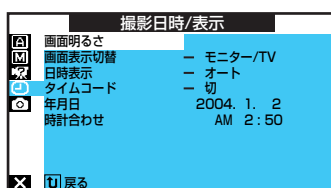
  明るくする → 「▲」側

  暗くする → 「▼」側

7 「メニュー／決定」レバーを押して決定する

ファインダーを使うとき

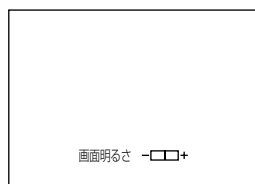
周りが明るすぎて液晶画面が見えにくいときや、バッテリーで長時間撮影したいときは、ファインダーを使って撮影することをお勧めします。

1 液晶画面を閉じる

2 ファインダーを引き出し、見やすい角度に上げる

3 ファインダー内の画面の見え方を調節する

- ファインダーをのぞきながらレバーを動かし、文字がはっきり見えたところで止めてください。

4 ロック解除ボタンを押したまま電源ダイヤルを回し、「M」をランプの位置に合わせる

次へ続く

5 **「メニュー／決定」レバーを押して、メニューを表示する**

6 **「メニュー／決定」レバーを上下に動かして「◙」を選び、押して決定する**

撮影日時／表示設定メニューが表示されます。

7 **もう一度、「メニュー／決定」レバーを押す**

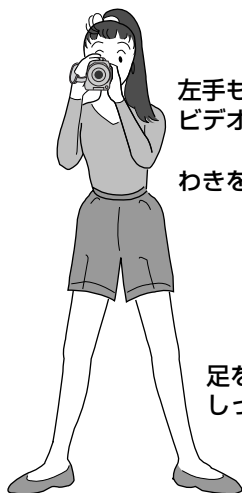
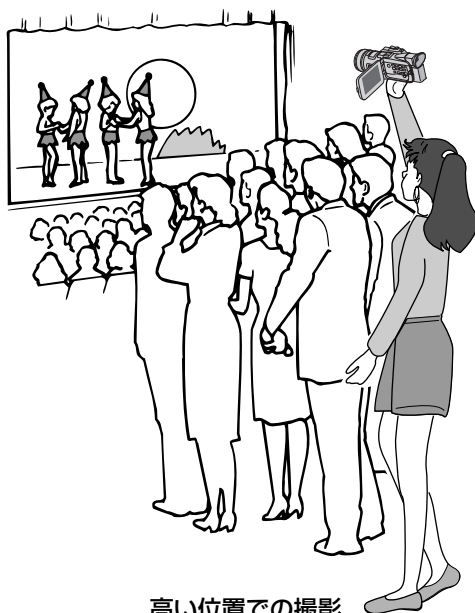
画面の明るさが調節できるようになります。

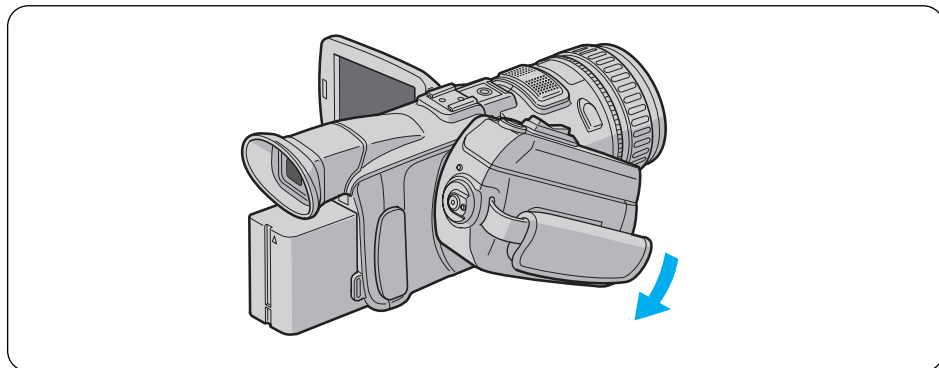
8 **「メニュー／決定」レバーを上下に動して、明るさを調節する**

- 見やすい明るさに調節してください。
  明るくする　→「▲」側
  暗くする　　→「▼」側

9 **「メニュー／決定」レバーを押して決定する**

- 液晶画面の表示とファインダー画面の表示は同じです。この取扱説明書では、液晶画面を使う場合を例にとって説明します。

Act.4 カメラをかまえる

安定した映像を撮るためのコツは、画面に映っている人が動いてもビデオカメラは動かさないことです。ビデオカメラがふらつかないように、安定した姿勢をとりましょう。

いろいろな角度で撮影したいときは

回転式グリップ(ローテーティンググリップ)を利用して、レンズの向きを調節することができます。下方の被写体を撮影するときに便利です。

ローテーティンググリップを回す

時計回り方向に90° 回転できます。下方の被写体を撮影するときに便利です。

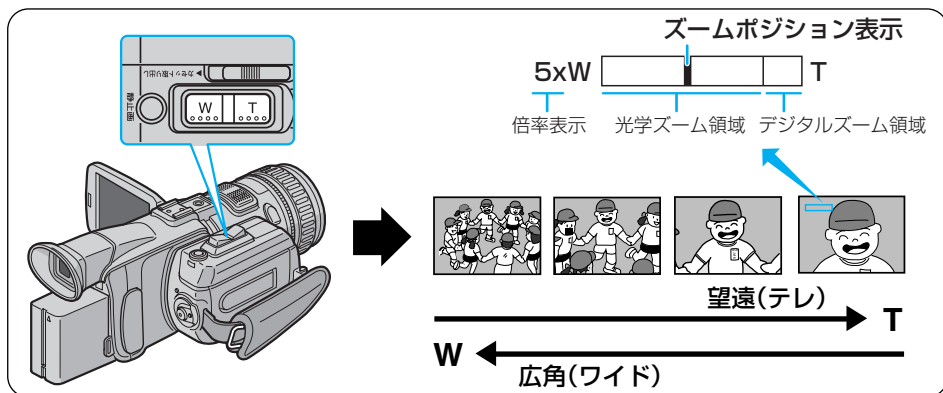
ファインダーを引き上げる

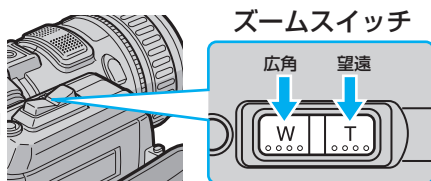
上方の被写体を撮影するときに便利です。

液晶画面の角度を調節する

見やすい角度に傾けて撮影します。

Act.5　撮影する範囲を調節する［ズーム］

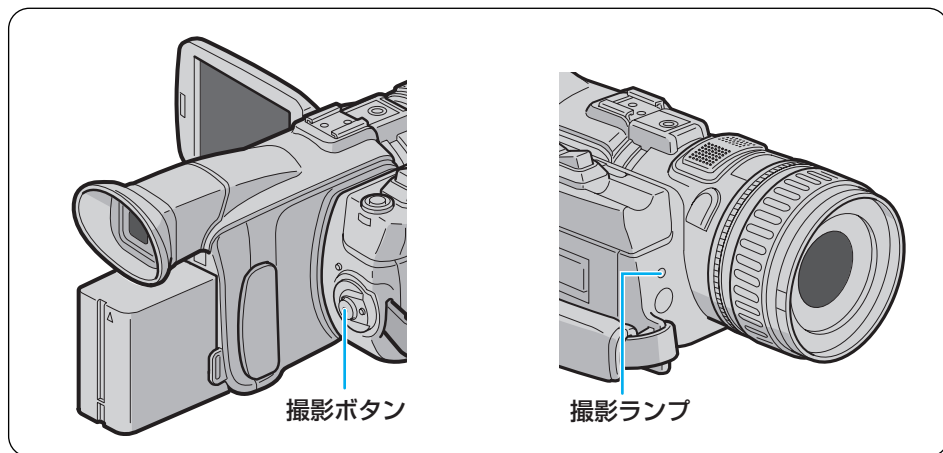
ズームスイッチを使って、撮影する範囲を調節できます。画面に被写体が小さく見えているときは望遠側（T）へ調節し、より広い範囲を画面に収めたいときは広角側（W）へ調節します。

1　ズームスイッチを押す

- 望遠（遠くのものを大きくする）　→「T」
- 広角（撮影範囲を広げる）　→「W」

- 可変速ズーム：ズームスイッチは少し押すとゆっくり、いっぱいまで押し込むと早くズームできます。
- 最大ズーム倍率：何倍までズーム可能にするかを変更できます。（☞ P.177）。
- 10倍以上のズーム（デジタルズーム）：10倍までの映像に比べて、デジタル処理をするため多少映像品質が劣化します。
- 接写したいとき（マクロ撮影）：W側にいっぱいまで押すと、レンズから約5cmまで被写体に近づいて撮影できます。

- 10倍以上のズームが使用できない：メモリーモードに設定すると使用できません。また、ビデオモードに設定していても、映像をデジタル処理する機能（デジタルワイドなど）との併用はできません。撮影モードを「HD」または「メモリー」に設定すると、使用できません。
- 勝手に広角（W）になる：T側にいっぱいまで押すと、レンズから被写体を1m以上離さないとピントが合いません。ピントが合わないときは、自動的にW側に調節されます。

  テレマクロ機能を設定すると、T側で約60cmまで近づいて撮影できます（☞ P.179）。

Act.6A　ビデオを撮影する

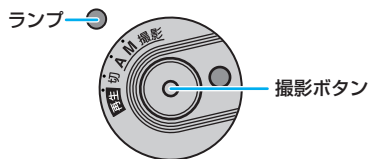
ボタン1つで、簡単に撮影できます。

1 撮影ボタンを押し、撮影をはじめる

- 「ポン」と音がするまで押してください。

画面に「録画」と表示されます。

レンズ左部の撮影ランプが点灯します。

撮影中の画面（DVの場合）

DV　SP 0h18m
録画

2 撮影をやめるには、もう一度撮影ボタンを押す

- 「ポポン」と音がするまで押してください。

画面に「ストップ」と表示されます。

撮影を停止した画面（DVの場合）

DV　SP 0h17m
ストップ

・ 実撮影時間の目安

バッテリー	ファインダー使用時		液晶画面使用時	
	DVモード	HD/SDモード	DVモード	HD/SDモード
BN-V416(別売)	約45分	約37分	約35分	約30分
BN-V428	約1時間25分	約1時間8分	約1時間5分	約55分
VU-V840KIT※(別売)	約2時間	約1時間40分	約1時間35分	約1時間25分
VU-V856KIT※(別売)	約2時間50分	約2時間25分	約2時間15分	約2時間

・ 連続撮影時間の目安（最大撮影時間）

バッテリー	ファインダー使用時		液晶画面使用時	
	DVモード	HD/SDモード	DVモード	HD/SDモード
BN-V416(別売)	約1時間30分	約1時間15分	約1時間10分	約1時間
BN-V428	約2時間50分	約2時間15分	約2時間10分	約1時間50分
VU-V840KIT※(別売)	約4時間	約3時間20分	約3時間10分	約2時間50分
VU-V856KIT※(別売)	約5時間40分	約4時間50分	約4時間30分	約4時間

※VU-V840KIT および VU-V856KIT は、バッテリーを付属のバッテリーポーチに入れ、DC コードでバッテリーポーチと本体を接続して使用します。バッテリーをビデオカメラに直接取り付けることはできません。

撮影時間は、ズームを使ったり、撮影／撮影停止を繰り返すなどで短くなります。バッテリーは撮影予定時間の約３倍分ご用意されることをお勧めします。
実撮影時間は撮影、撮影停止、電源の入／切、ズーム動作などを繰り返したときの撮影時間です。実際には、これよりも短くなることがあります。

● **撮影中の音声をモニターしたいときは**
ビデオカメラのスピーカーからは撮影中の音声は出ません。音声を聞きながら撮影したいときは、別売のヘッドホンをヘッドホン端子に接続して聞いてください。このとき音量は調節できません。

● **あとで自動編集するときは**
無記録部分をつくらないように撮影してください。詳しくは「タイムコードと無記録部分」(☞ P.139)をご覧ください。「SD」「HD」録画では、自動編集はできません。

● **あとでインサート編集やアフレコ編集をするときは**
録画モードを SP にして撮影してください（☞ P.177)。
アフレコ編集をするときは、DV 音声モードも 12bit にして撮影してください（☞ P.166、177)。
お買い上げ時には録画モードは SP、DV 音声モードは 12bit に設定されています。
「SD」「HD」録画では、インサート編集とアフレコ編集はできません。

次へ続く

撮影する

画面の縦方向に輝線が走る場合は

CCD カメラでは、画面の明るい点を中心として縦方向に縞状の強い輝線が走ることがあります（スメア現象）。以下の条件のときは、スメア現象が起こりやすくなります。

- シャッタースピードを速くしたとき（☞ P.106）
- 絞りを開いたとき（☞ P.107）
- スポーツモード使用時（☞ P.93）

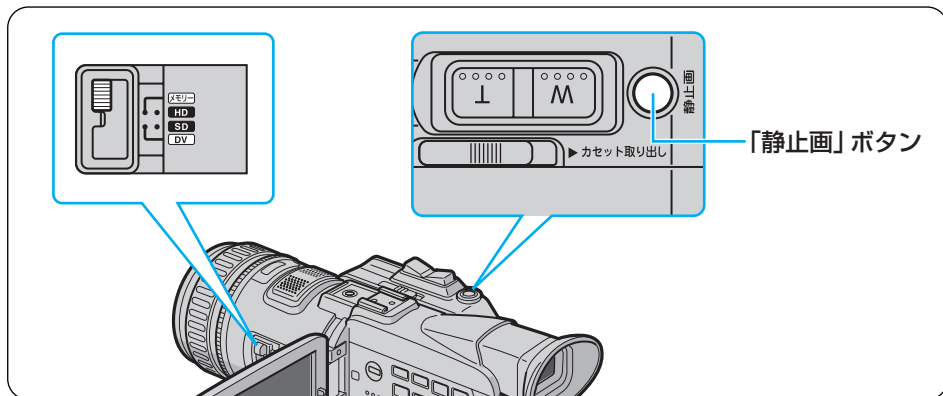
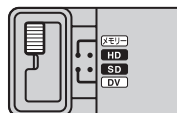
- **本機で撮影し終わったテープは**
  誤消去防止のため、カセットテープ背面にあるつまみを「SAVE」の矢印方向に引いてください。

- **電源が切れてしまったら**
  撮影を停止してから５分経つと、ビデオカメラの節電とテープ保護のため自動的に電源が切れます。再び撮影したいときは、ファインダーを一度入れ、再び引き出してください。液晶画面をお使いのときは、液晶画面を一度閉じ、再び開いてください。

- **バッテリー残量表示（▭ が点滅）が出たら**
  バッテリーが少なくなっています。バッテリーがなくなると自動的に電源が切れます（☞ P.50)。電源が切れる前にバッテリーを交換してください。

- **正常に録画できない**
  ビデオヘッドが汚れているかもしれません（☞ P.198)。大切な撮影の前には試し撮りをして、正常に録画、録音されていることをご確認ください。

Act.6B　静止画を撮影する

静止画の撮影も、ボタン１つでできます。

1 撮影モード選択スイッチを「メモリー」の位置に合わせる

2 「静止画」ボタンを軽く押す（半押し）

液晶画面に （黄色）が表示されて点滅し、ビデオカメラが自動的にピントを合わせます。

ピントが合うと、 が緑色に変わります。

- キャンセルするには、半押しの状態から指を離します。

半押し

3 が緑色に変わったら、そのままボタンを押し込む（全押し）

➡ の矢印が点滅して静止画をメモリーカードに取り込みます。

これだけは知っておこう編

次へ続く

撮影枚数の目安

画像サイズ	画質モード	マルチメディアカード			SD メモリーカード			
		8MB（別売）	16MB（別売）	32MB（市販）	8MB（アクセサリー）	16MB（市販）	32MB（市販）	64MB（市販）
640×480	ファイン	約36枚	約74枚	約149枚	約30枚	約68枚	約144枚	約297枚
	スタンダード	約95枚	約192枚	約388枚	約80枚	約178枚	約376枚	約772枚
848×480	ファイン	約29枚	約60枚	約121枚	約25枚	約55枚	約117枚	約241枚
	スタンダード	約79枚	約160枚	約323枚	約66枚	約148枚	約313枚	約643枚
1280×720	ファイン	約12枚	約24枚	約49枚	約10枚	約22枚	約48枚	約99枚
	スタンダード	約31枚	約64枚	約129枚	約26枚	約59枚	約125枚	約257枚
1280×960	ファイン	約9枚	約18枚	約37枚	約7枚	約17枚	約36枚	約74枚
	スタンダード	約23枚	約48枚	約97枚	約20枚	約44枚	約94枚	約193枚

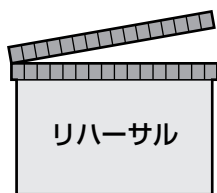
※ 848 × 480 ドット、または 1280 × 720 ドットの静止画を撮影する場合は、「記録選択」メニューで「➡ ／➡ 」に設定（☞P.178）した後、撮影モードを SD、または HD にして「静止画」ボタンを押してください（☞P.92）。

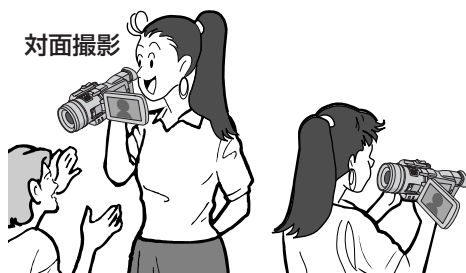
- ナビ機能を使うと静止画の撮影枚数は少なくなります。
- 画質設定（モード）には、画質の良い順にファイン、スタンダードの 2 種類があります。画質設定を変更するときには（☞ P.102、178）
- 画像サイズを変更するときには（☞ P.102、178）
- プログラム AE の「夜景」メニュー（☞ P.116）を使用しているときには、ピントが合わないまま、 が緑色になることがあります。このようなときは、マニュアルフォーカスをお勧めします（☞ P.108）。
- 以下のようなピントが合いにくい被写体を撮影するときには、マニュアルフォーカスをお勧めします（☞ P.108）。
  - 平らな壁や青空など、コントラスト（明暗差）のほとんどない被写体
  - 金網などの障害物が被写体との間にあるとき
  - 細かい模様や同じ模様が規則正しく並んでいる被写体
  - 蛍光灯などのちらつきのある光源の下にある被写体

上手に撮るコツは

ビデオカメラを動かさない

安定した映像を撮るためのコツは、画面に映っている人が動いてもビデオカメラは動かさないことです。
左右に動くものを撮影したいときは水平に、高さのあるものは垂直にゆっくり動かします。そのときのコツは、撮り始めと撮り終わりでカメラをピタッと止めることです。

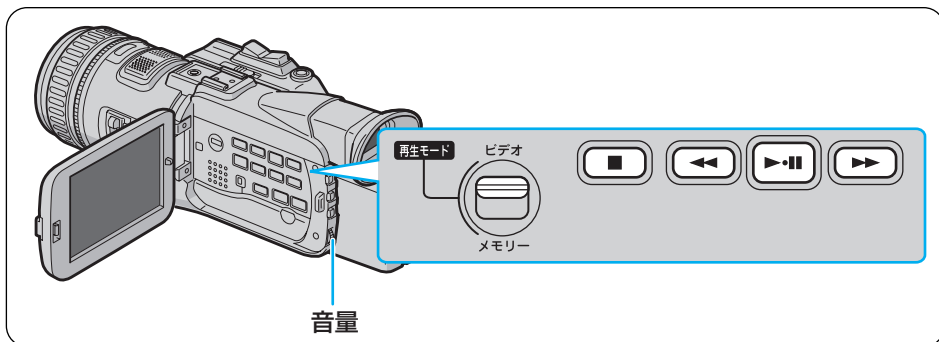
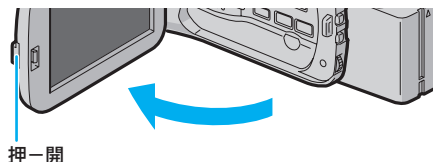
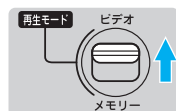
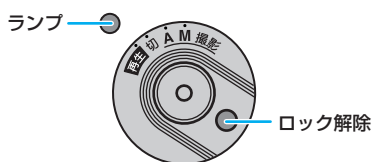
カメラリハーサルを行う

撮影を始める前にカメラリハーサルをして、ビデオカメラの操作に慣れておきましょう。どのタイミングでどんな操作をするかシナリオを書いておくことで、本番の撮影がスムーズになります。
また、周りの明るさや被写体との距離なども事前にチェックして、それぞれ適切な状態で撮影できるように準備しておきます。

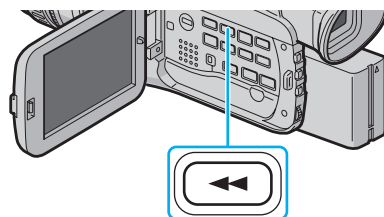
いろいろなアングルで撮影する

正面からだけでなくいろいろなアングルで撮影すると、同じ被写体でも印象の違う映像を撮影できます。液晶画面の傾きを、見やすいように調節してください。
また、液晶画面を180°回転させて画面を被写体に見せながら撮影すると、より生き生きとした表情を撮影できます。

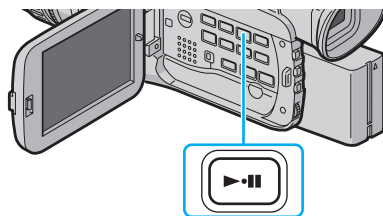
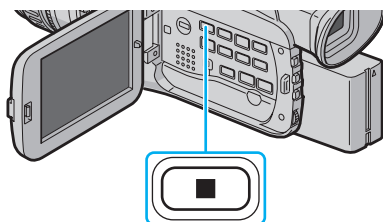
- 対面撮影中は、ファインダーを引き出せばファインダーにも映像が表示されます。
- 対面撮影中の液晶画面の映像は鏡に映ったように左右が反転しますが、撮影したビデオは左右が反転しません。
- 対面撮影中のファインダーや液晶画面上の表示は簡略化されます。テープ走行表示と、ビデオカメラにトラブルが生じたときの警告表示のみ表示します。

再生する

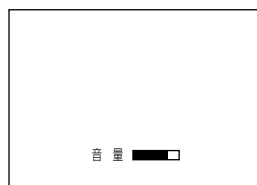
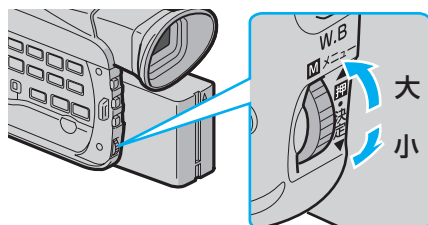
ビデオを再生する

撮影した映像を、ビデオカメラの液晶画面で見ることができます。

1 「押ー開」ボタンを押して液晶画面を開く

2 再生モード選択スイッチを「ビデオ」の位置に合わせる

3 ロック解除ボタンを押したまま、「再生」をランプの位置に合わせる

ランプが点灯し、液晶画面に青い画面が表示されます。

4 「◀◀」ボタンを押して、テープを巻戻す

5 「►•❚❚」ボタンを押して、再生する

ビデオが再生されます。

6 見終わったら「■」ボタンを押して、テープを停止する

スピーカー／ヘッドホンの音量を調節するには

ビデオの再生中に「メニュー／決定」レバーを上下に動かすと、スピーカー／ヘッドホンの音量を調節できます。

- 大きくする　→　「▲」側
- 小さくする　→　「▼」側

- S／AV／編集コードとヘッドホンを同時に接続した場合は、ヘッドホンの音量は変えられません。

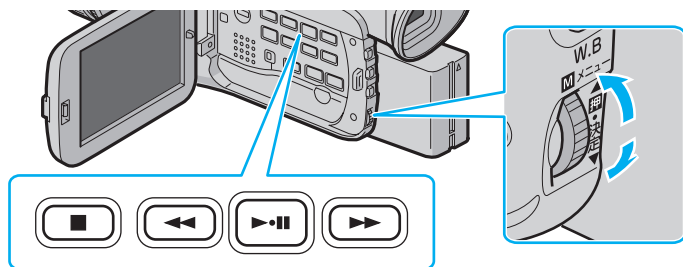
- 撮影モードを「SD」または「HD」にして撮影した映像は、SD／HD再生機能がないデジタルビデオ機器では再生できません。本機で再生してください。
- 本機以外のデジタルビデオ機器で映像を再生したときや停止時に、タイムコードか日付が表示された場合は、「SD」または「HD」で撮影された映像の可能性があります。本機で再生を行いご確認ください。

再生する

ビデオの操作方法について

早送り再生やコマ送り再生をするには、再生中に次の操作を行います。
「SD」「HD」で録画した映像の場合、コマ送り再生、スロー再生はできません。

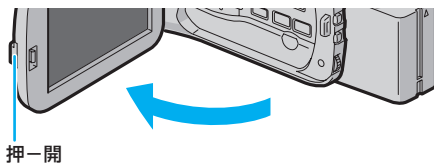
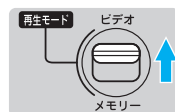
早送り再生	▶▶ を押す　または　押し続ける
巻戻し再生	◀◀ を押す　または　押し続ける
一時停止	▶•❚❚ を押す
コマ送り再生	▶•❚❚ を押したあとメニュー／決定レバーを上下に動かすと ▲正転コマ送り ▼逆転コマ送り

通常の再生に戻すには、「▶•❚❚」ボタンを押します。
リモコンでも操作できます（☞ P. 207）。
リモコンを使うと、スロー再生もできます（☞ P. 207）。

- 「DV」で録画した映像の場合、早送り再生、巻戻し再生は９倍速で再生します。
- 「SD」「HD」で録画した映像の場合、早送り再生は 8.5 倍速、巻戻し再生は 6.5 倍速で再生します。
- 一時停止の状態が約３分続くと、自動的に停止します。
- 停止の状態が約５分続くと、自動的に電源が切れます（AC アダプターを使用していない場合）。

- 早送り／巻戻し再生中やスロー再生中は、映像がみだれることがあります。
- 正転スロー再生を約５分、または逆転スロー再生を約５分（80 分テープのときは 20 秒）続けると自動的に通常再生に戻ります。
- 「▶•❚❚」ボタンを押すと、映像が一時停止します。その後、青い画面が表示されることがあります。
- モザイク状のノイズが出たり、青い画面のまま映像が出ないときは、ビデオカメラのヘッドを清掃してください（☞ P.198）。

無記録部分を探す[ブランクサーチ]

ビデオテープの中にある５秒間以上の無記録部分を探します。
途中まで記録したビデオテープを取り出したり、再生してしまったときなどに、撮影開始点を効率よく見つけることができます。

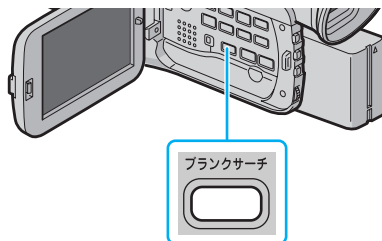
1 「押ー開」ボタンを押して液晶画面を開く

2 再生モード選択スイッチを「ビデオ」の位置に合わせる

3 ロック解除ボタンを押したまま、「再生」をランプの位置に合わせる

ランプが点灯し、液晶画面に青い画面が表示されます。

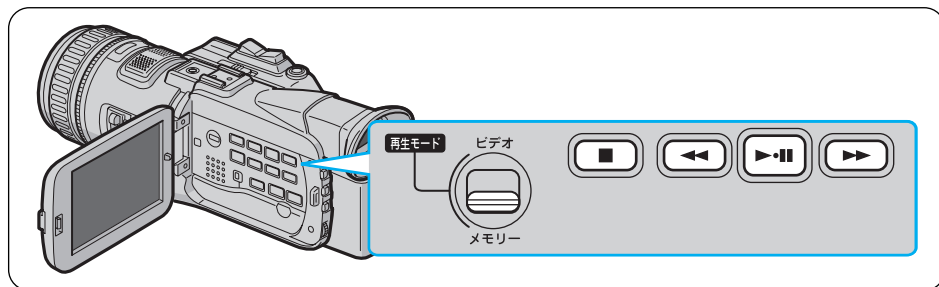
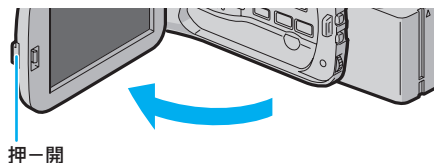
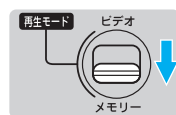
4 「ブランクサーチ」ボタンを押す

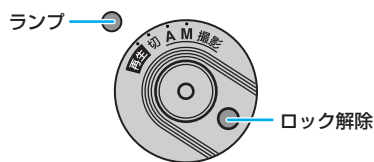
ブランクサーチがスタートします。

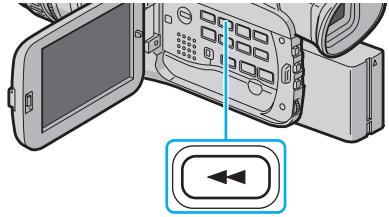
無記録部分の約３秒手前で自動的に停止します。

- ブランクサーチを中止するには、「■」ボタンを押します。

- ５秒間以上の無記録部分があると、その先に映像があっても停止します。停止した位置以降に映像が記録されていないか、録画を開始する前によく確認してください。
- ブランクサーチを映像の記録された部分からスタートすると早送り方向に、無記録部分からスタートすると巻き戻し方向にブランクサーチを行います。
- 無記録部分の約３秒手前で停止しますので、そこから録画をスタートすると、約３秒間映像が上書きされてしまいます。必要に応じて再生し、録画スタート位置を確認してください。

静止画を再生する

撮ったその場で静止画を確認できます。

1 **「押ー開」ボタンを押して液晶画面を開く**

2 **再生モード選択スイッチを「メモリー」の位置に合わせる**

3 **ロック解除ボタンを押したまま、「再生」をランプの位置に合わせる**

ランプが点灯し、液晶画面に最後に撮影した静止画が再生されます。

4 「◀◀」ボタンを押して、前の静止画を再生する

- 次の静止画を再生するには「▶▶」ボタンを押してください。

連続再生の操作方法について

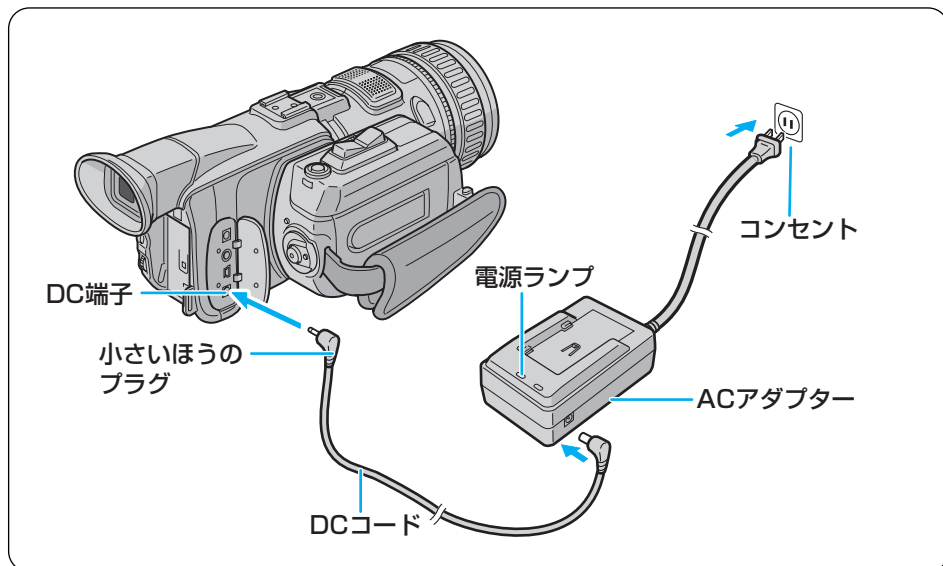
静止画を連続して再生するには、手順４で次の操作を行います。

連続再生（正方向）	▶•II を押す
連続再生（逆方向）	連続再生（正方向）中に◀◀を押す
停止	連続再生中に■を押す

リモコンでも操作できます。（☞ P.207）

- 静止画を再生したあとに撮影を行った場合、最後に撮影された画像の次に撮影されます。すでに撮影した画像に上書きされることはありません。
- メモリーカードに記録された静止画像ファイルはDCF（Design rule for Camera File systems）に対応しています。DCF対応していない機器との互換性はありません。

コンセントの電源で使う

室内で撮影または再生するときは、別売アクセサリーキット(VU-HD1K)のACアダプターを使ってコンセントから電源を取ると、バッテリーの消費を気にせず使用できます。

1 DC端子にDCコードを接続する

2 DCコードをACアダプターに接続する

3 ACアダプターの電源コードをコンセントに差し込む

ACアダプターの電源ランプが点灯します。

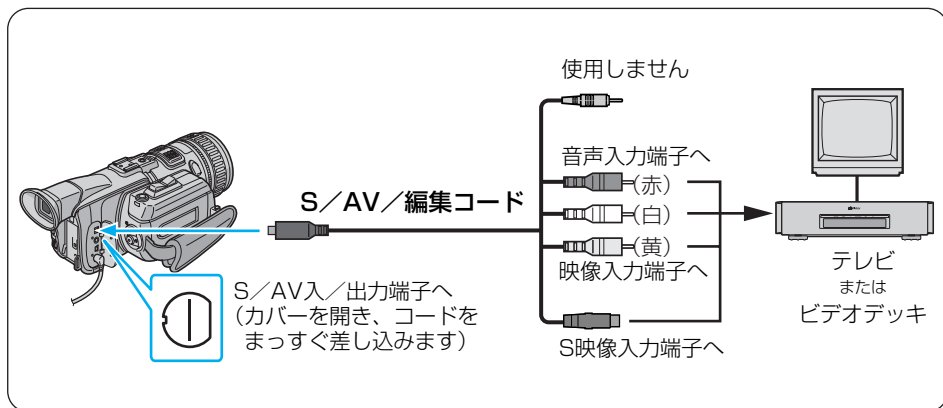
- 必ず別売アクセサリーキット（VU-HD1K）のDCコード、ACアダプターを使用してください。
- ACアダプターは、海外でも使用できます（☞ P.212）。

テレビで見る

みんな揃ってビデオを見たいときには、ご家庭のテレビなどにビデオカメラを接続すると便利です。
接続するテレビの種類によって接続方法や設定が異なります。

- **画面の縦横比が 4:3 のテレビやワイドテレビに接続するには（☞ P.71）**
- **D 端子付きのテレビ（主にテジタルハイビジョンテレビ）に接続するには（☞ P.74）**
- **コンポーネント接続のハイビジョンテレビ、または W-VHS に接続するには（☞ P.78）**

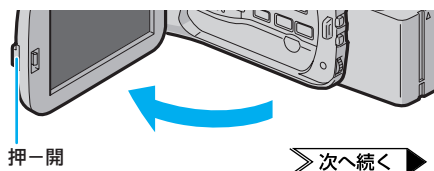
画面の縦横比が 4:3 のテレビやワイドテレビで映像を見る

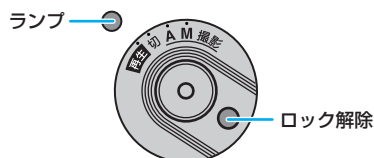
画面の縦横比が 4:3 のテレビやワイドテレビで D 端子が付いていない場合は、S／AV／編集コードでテレビとビデオカメラを接続します。

出力設定をする

ビデオカメラとテレビを接続する前に、接続するテレビの縦横比が 4:3 か 16:9（ワイドテレビ）かを設定します。

1 「押－開」ボタンを押して液晶画面を開く

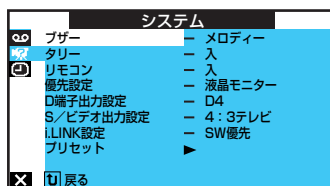
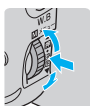
次へ続く

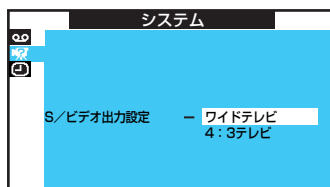
これだけは知っておこう編

再生する

2 再生モード選択スイッチを「ビデオ」の位置に合わせる

3 ロック解除ボタンを押したまま、「再生」をランプの位置に合わせる

4 「メニュー／決定」レバーを押して、メニューを表示する

5 レバーを上下に動かして「[icon]」を選び、押して決定する

システム設定メニューが表示されます。

6 レバーを上下に動かして「S／ビデオ出力設定」を選び、押して決定する

「ワイドテレビ」「4:3 テレビ」が表示されます。

7 レバーを上下に動かして接続するテレビを選び、押して決定する

8 レバーを 2 回押して、再生画面に戻る

接続する

ビデオカメラをテレビやビデオデッキに接続するには、別売アクセサリーキット(VU-HD1K)のS／AV／編集コードを使用します。

1 ビデオカメラの電源を切り、ACアダプターを接続する

- ACアダプターの取り付け（☞ P.70）

2 「S／AV入／出力」端子に、S／AV／編集コードを接続する

3 テレビやビデオデッキの映像入力端子と音声入力端子に、S／AV／編集コードを接続する

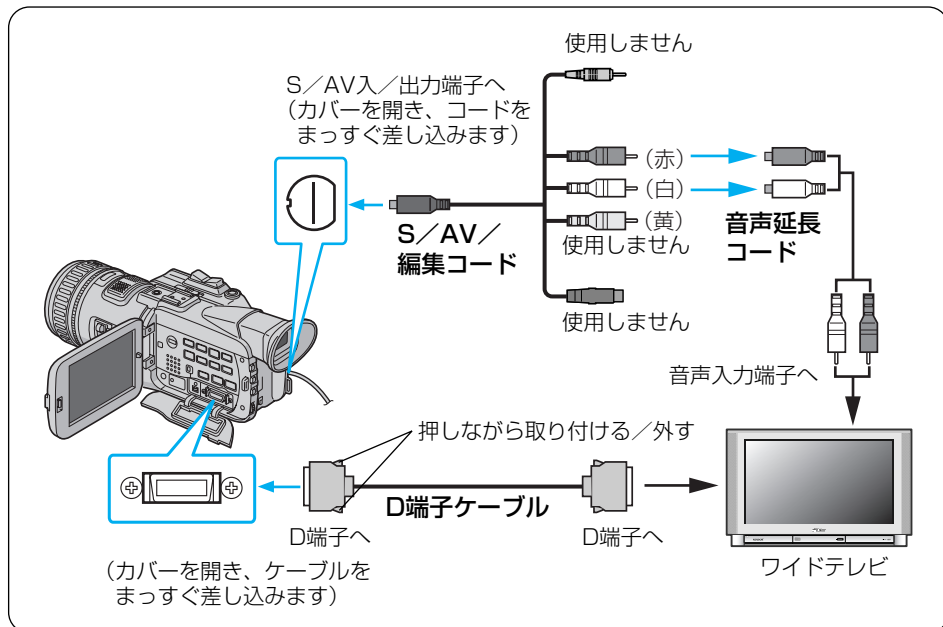
- テレビやビデオデッキにS入力端子があるときはS入力端子へも接続します。より高画質の映像をお楽しみいただけます。
- 接続が完了したら、「再生する」（☞ P.76）へ進んでください。

- D端子ケーブルを接続すると、S/AV入/出力端子から信号が出力されません。D端子出力設定が「D4」「D3」「HD端子」に設定されているときは、HD再生ができません。D出力端子設定が「HD端子」に設定されているときは、SD再生ができません。

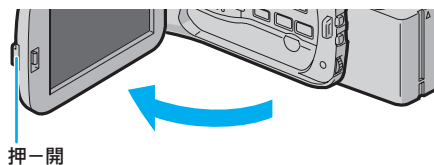
再生する

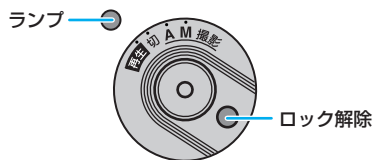
デジタルハイビジョンテレビで映像を見る

D 端子付きのテレビ（主にデジタルハイビジョンテレビ）の場合は、D 端子ケーブルでテレビとビデオカメラを接続します。
「HD」で撮影した映像を 750P（☞ P.48）で再生したい場合は、D4 端子付きのデジタルハイビジョンテレビに接続し、D 端子出力設定を「D4」に設定してください。

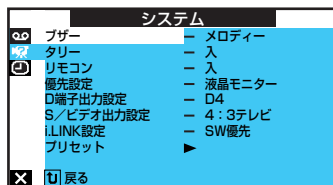
使用しません
S／AV入／出力端子へ
（カバーを開き、コードをまっすぐ差し込みます）
（赤）
（白）
（黄）
使用しません
S／AV／編集コード
音声延長コード
使用しません
音声入力端子へ
押しながら取り付ける／外す
D端子ケーブル
D端子へ
D端子へ
ワイドテレビ
（カバーを開き、ケーブルをまっすぐ差し込みます）

出力設定をする

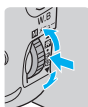
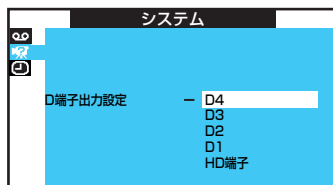
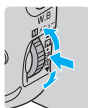
ビデオカメラとテレビを接続する前に、テレビに付いている D 端子の種類を設定します。

1 「押ー開」ボタンを押して液晶画面を開く

2 再生モード選択スイッチを「ビデオ」の位置に合わせる

3 ロック解除ボタンを押したまま、「再生」をランプの位置に合わせる

4 「メニュー／決定」レバーを押して、メニューを表示する

5 レバーを上下に動かして「 」を選び、押して決定する

システム設定メニューが表示されます。

6 レバーを上下に動かして「D端子出力設定」を選び、押して決定する

「D4」「D3」「D2」「D1」「HD端子」が表示されます。

7 レバーを上下に動かしてD端子の種類を選び、押して決定する

8 レバーを2回押して、再生画面に戻る

再生する

接続する

ビデオカメラをテレビに接続するには、別売アクセサリーキット(VU-HD1K)のＤ端子ケーブルと、Ｓ／AV／編集コード、音声延長コードを使用します。

1 ビデオカメラの電源を切り、ACアダプターを接続する

ACアダプターの取り付け（☞P.70）

2 ビデオカメラの「Ｄ端子」に、Ｄ端子ケーブルを接続する

3 テレビのＤ端子にＤ端子ケーブルを接続する

4 「Ｓ／AV入／出力」端子に、Ｓ／AV／編集コードを接続する

5 Ｓ／AV／編集コードに、音声延長コードを接続する

6 テレビやビデオデッキの音声入力端子に、Ｓ／AV／音声延長コードを接続する。

- 音声端子(赤、白)だけをテレビやビデオデッキの音声入力端子に接続します。

再生する

1 ロック解除ボタンを押したまま､｢再生｣をランプの位置に合わせる

2 テレビの電源を入れる

- ビデオデッキに接続している場合は、ビデオデッキの電源も入れます。

3 テレビのチャンネルやビデオデッキの入力モードを設定する

- テレビに接続したとき
  テレビの入力モードを、ビデオカメラを接続した端子に切り替えます（例えば「ビデオ 1、ビデオ 2、ビデオカメラ、D1」など）。
- ビデオデッキに接続したとき
  テレビを、ビデオを見るチャンネルに合わせ、ビデオデッキの入力モードを外部入力に設定します。

テレビ画面が青くなります。

4 再生する

- ビデオを再生するには（☞P.64）
- 静止画を再生するには（☞P.68）

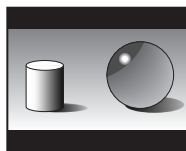
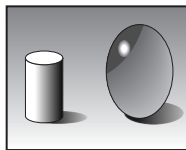
画面の文字や記号を隠すには

再生日時／表示設定メニューで、次のように設定してください（☞P.175）。

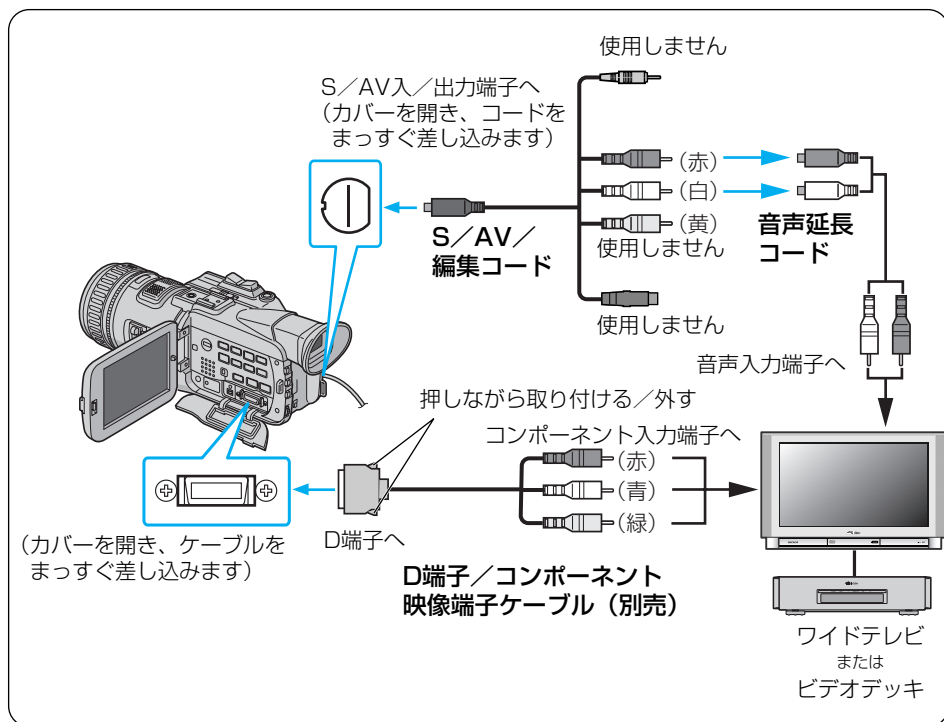
- 画面表示切替→モニター、または切
- 日時表示　　→切
- タイムコード→切

- ご使用になるテレビやビデオデッキによって、入力モードの設定方法は異なります。詳しくはテレビやビデオデッキの取扱説明書をご覧ください。
- 再生映像をズームしたい（☞P.133）
- 再生映像に変化を付けたい（☞P.134）

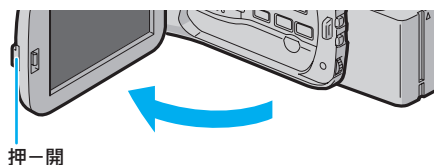
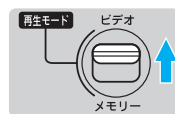
レターボックス

- 再生する映像と接続するテレビの関係によっては、映像が縦長（スクィーズ）や横長（レターボックス）になったりします。例えば、撮影モードをHDにして記録した映像を画面の縦横比4:3のテレビで見る場合は、画面の上下に黒い帯が入るレターボックスで再生されます。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- モザイク状のノイズが出たり、青い画面のまま映像が出ないときは、ビデオカメラのヘッドを清掃してください（☞ P.198）。

スクイーズ

ハイビジョンテレビで映像を見る

D 端子の付いていないハイビジョンテレビ、または W-VHS の場合は、それらの機器の HD 端子に別売の D 端子／コンポーネント映像端子ケーブルを接続してください。この場合、撮影モードを「SD」または「HD」にして撮影した映像は、1125i（☞ P.47）で再生されます。

使用しません
S／AV入／出力端子へ
（カバーを開き、コードを
まっすぐ差し込みます）
（赤）
（白）
（黄）
使用しません
S／AV／
編集コード
音声延長
コード
使用しません
音声入力端子へ
押しながら取り付ける／外す
コンポーネント入力端子へ
（赤）
（青）
（緑）
（カバーを開き、ケーブルを
まっすぐ差し込みます）
D端子へ
D端子／コンポーネント
映像端子ケーブル（別売）
ワイドテレビ
または
ビデオデッキ

出力設定をする

ビデオカメラとテレビを接続する前に、「D 端子出力設定」を「HD 端子」に設定します。

1 **「押－開」ボタンを押して液晶画面を開く**

2 再生モード選択スイッチを「ビデオ」の位置に合わせる

3 ロック解除ボタンを押したまま、「再生」をランプの位置に合わせる

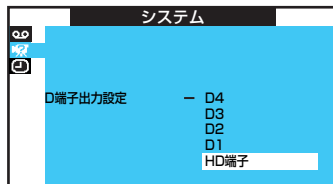
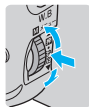
4 「メニュー／決定」レバーを押して、メニューを表示する

5 レバーを上下に動かして「[icon]」を選び、押して決定する

システム設定メニューが表示されます。

6 レバーを上下に動かして「D端子出力設定」を選び、押して決定する

「D4」「D3」「D2」「D1」「HD端子」が表示されます。

7 レバーを上下に動かして「HD端子」を選び、押して決定する

8 レバーを2回押して、再生画面に戻る

再生する

接続する

ビデオカメラをテレビやビデオデッキに接続するには、別売のＤ端子／コンポーネント映像端子ケーブルと、Ｓ／AV／編集コード、音声延長コードを使用します。

1 **ビデオカメラの電源を切り、ACアダプターを接続する**

ACアダプターの取り付け（☞P.70）

2 **ビデオカメラの「Ｄ端子」に、Ｄ端子／コンポーネント映像端子ケーブルを接続する**

3 **テレビやビデオデッキのコンポーネント映像入力端子にＤ端子／コンポーネント映像端子ケーブルを接続する**

4 **「Ｓ／AV入／出力」端子に、Ｓ／AV／編集コードを接続する**

5 **Ｓ／AV／編集コードに、音声延長コードを接続する**

6 **テレビやビデオデッキの音声入力端子に、音声延長コードを接続する。**

- 音声端子(赤、白)だけをテレビやビデオデッキの音声入力端子に接続します。

再生する

1 ロック解除ボタンを押したまま、「再生」をランプの位置に合わせる

2 テレビの電源を入れる

- ビデオデッキに接続している場合は、ビデオデッキの電源も入れます。

3 テレビのチャンネルやビデオデッキの入力モードを設定する

- テレビに接続したとき
  テレビの入力モードを、ビデオカメラを接続した端子に切り替えます（例えば「ビデオ 1、ビデオ 2、ビデオカメラ」など）。
- ビデオデッキに接続したとき
  テレビを、ビデオを見るチャンネルに合わせ、ビデオデッキの入力モードを外部入力に設定します。

テレビ画面が青くなります。

4 再生する

- ビデオを再生するには（☞P.64）
- 静止画を再生するには（☞P.68）

画面の文字や記号を隠すには

再生日時／表示設定メニューで、次のように設定してください（☞P.175）。

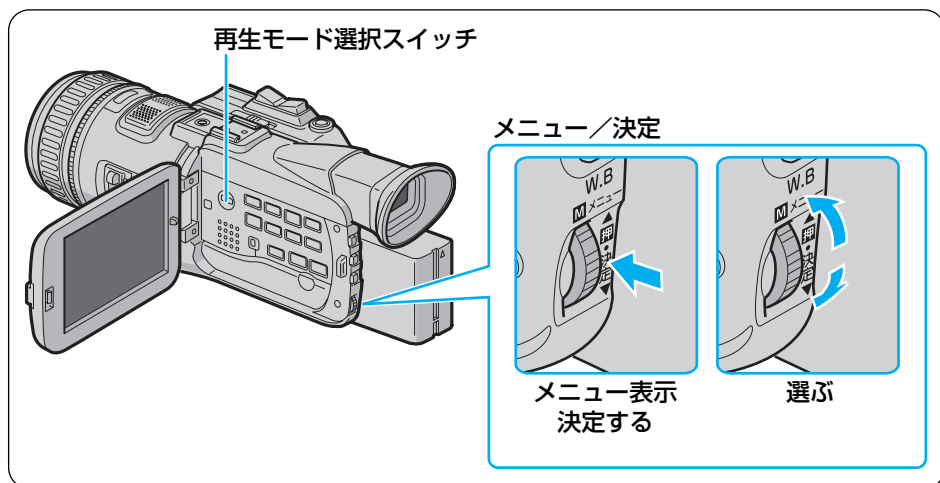
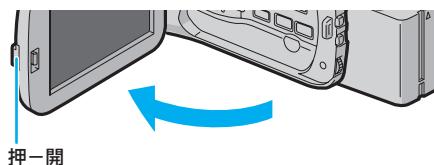
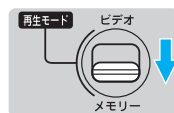
- 画面表示切替→モニター、または切
- 日時表示　　→切
- タイムコード→切

- ご使用になるテレビやビデオデッキによって、入力モードの設定方法は異なります。詳しくはテレビやビデオデッキの取扱説明書をご覧ください。
- 再生映像をズームしたい（☞P.133）
- 再生映像に変化を付けたい（☞P.134）

- モザイク状のノイズが出たり、青い画面のまま映像が出ないときは、ビデオカメラのヘッドを清掃してください（☞ P.198）。

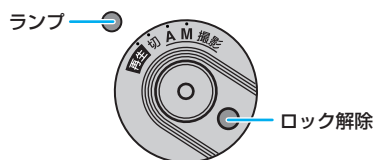
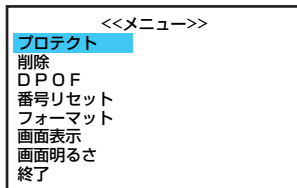
メモリーカードの静止画を削除する

静止画を選択して削除する

メモリーカードに空きがなくなると静止画を撮れなくなります。新しいメモリーカードと交換するか、不要な静止画を削除してください。
ここでは、静止画を削除してメモリーカードの空きを増やす方法を説明します。

1 「押ー開」ボタンを押して液晶画面を開く

2 再生モード選択スイッチを「メモリー」の位置に合わせる

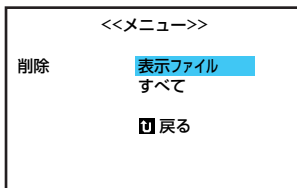
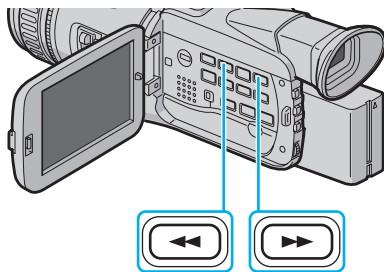
3 ロック解除ボタンを押したまま、「再生」をランプの位置に合わせる

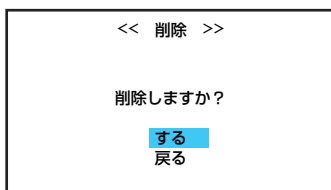
液晶画面に静止画が表示されます。

4 「メニュー／決定」レバーを押して、メニューを表示する

<<メニュー>>
プロテクト
削除
ＤＰＯＦ
番号リセット
フォーマット
画面表示
画面明るさ
終了

5 レバーを上下に動かして「削除」を選び、押して決定する

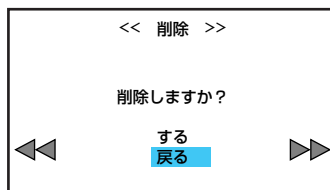
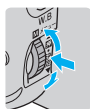
「表示ファイル」「すべて」が表示されます。

6 レバーをもう一度押して決定する

削除画面が表示されます。

7 「◀◀」または「▶▶」ボタンを押して、削除したい静止画を表示する

8 レバーを上下に動かして「する」を選び、押して決定する

表示されている静止画が削除されます。

次へ続く

メモリーカードの静止画を削除する

9 **他の静止画も削除したいときは、手順７～８を繰り返す**

10 **静止画の削除を終了するときは、「戻る」が選ばれていることを確認して、レバーを３回押す**

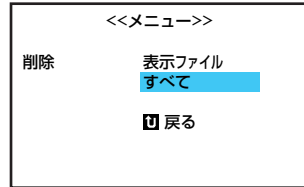
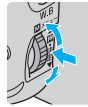
静止画の再生画面に戻ります。

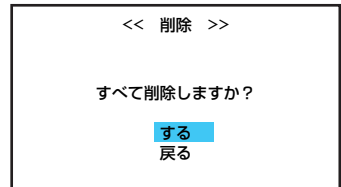
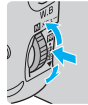
- メモリーカードのファイルを削除しないようにする（プロテクトをかける）こともできます（☞P.170）。

すべての静止画を削除する

ここでは、すべての静止画を削除してメモリーカードを空にする方法を説明します。

1 **「静止画を選択して削除する」(☞P.83)の手順６で「メニュー／決定」レバーを上下に動かして「すべて」を選び、押して決定する**

<<メニュー>>
削除　表示ファイル
すべて
戻る

削除画面が表示されます。

2 **レバーを上下に動かして「する」を選び、押して決定する**

静止画がすべて削除されます。

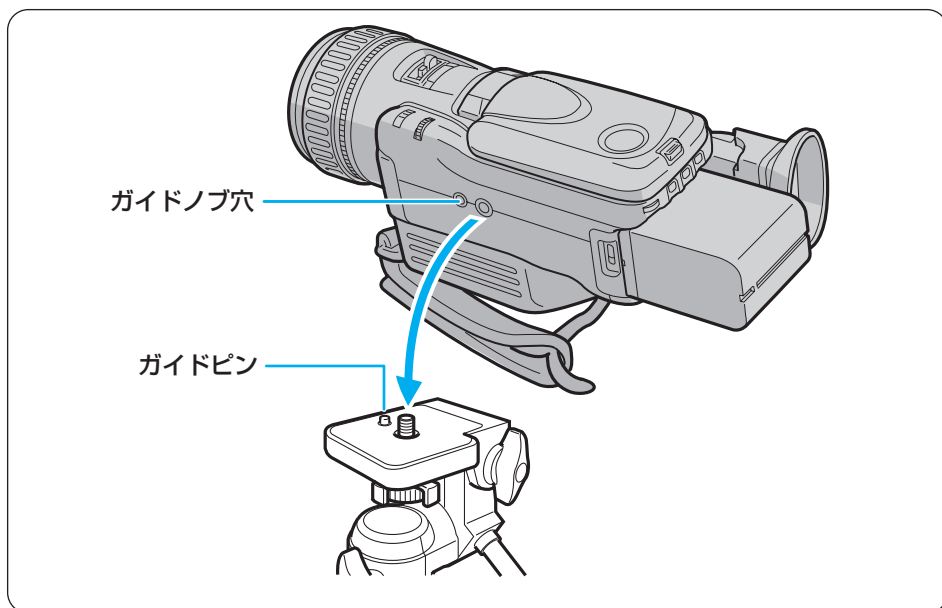
- 削除をやめるには「戻る」を選びます。

- SDカードのライトプロテクトスイッチを「LOCK」の位置に合わせていると、静止画は削除できません（☞P.36）。
- プロテクトした静止画は、上記の操作で削除されません（☞P.170）。プロテクトした静止画を削除するには、あらかじめプロテクトを解除しておきます（☞P.172）。

ご注意

- 削除中はメモリーカードを取り出したり、電源を切らないでください。故障などの原因となることがあります。
また、別売のACアダプターをお使いになることをお勧めします。途中でバッテリーがなくなると、故障の原因となります。
- 削除した静止画は元に戻せません。削除する前に内容を確認してください。

三脚を使って撮影する

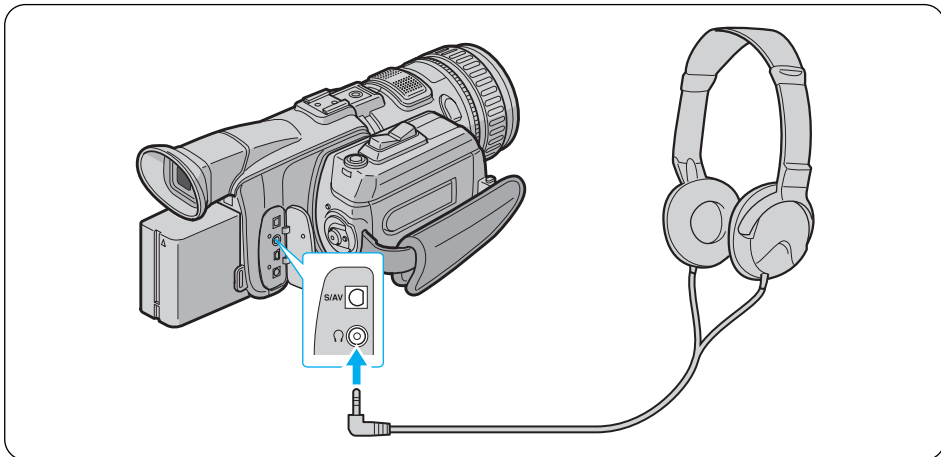
三脚を使用するとビデオカメラが安定し、記念撮影やズーム機能を使った撮影で役立ちます。

1 三脚のネジと本体底面のネジ穴を合わせる

2 三脚のネジを回して固定する

- ガイドピンのある三脚には、ビデオカメラのガイドノブ穴に合わせて取り付けます。

- ご使用になる三脚の取扱説明書もご覧ください。

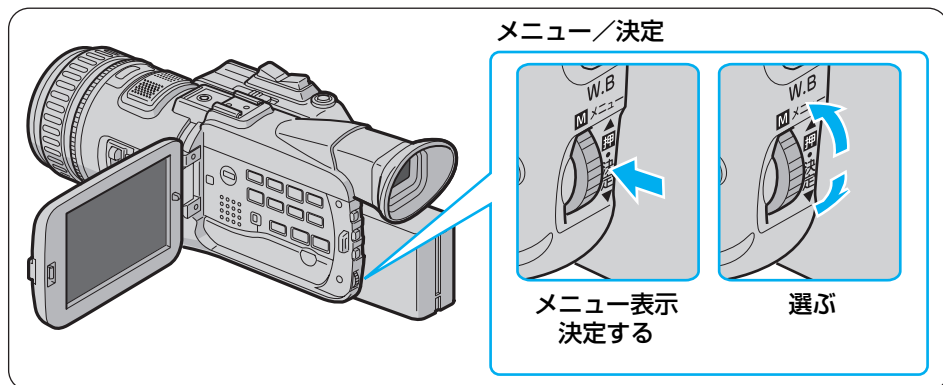
音声を確認しながら撮影する

別売のヘッドホンを接続すると、録音される音声を確認しながら撮影できます。

1 ヘッドホン端子カバーを開く

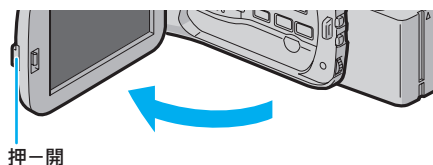
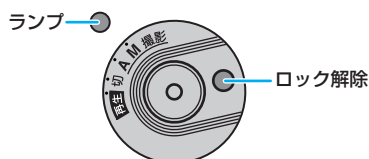
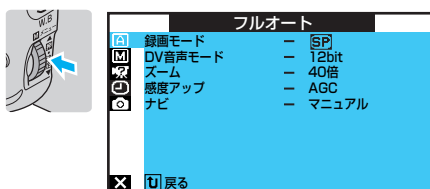
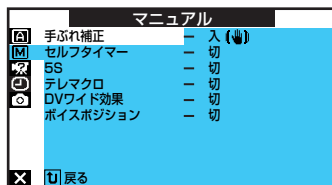
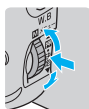
2 ヘッドホンを接続する

● 電源ダイヤルが「**A**」または「**M**」のときは、音量の調節ができません。

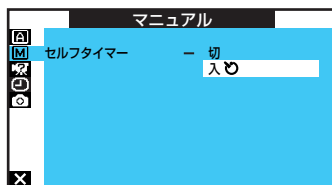
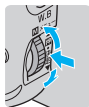
15 秒後に撮影をスタートする［セルフタイマー］

撮影者が一緒に写る場合などには、セルフタイマーを使います。みんなで写ったビデオや静止画を残したいときにご利用ください。

1 三脚などでビデオカメラを固定する

- 三脚を使うには（☞P.86）

2 「押ー開」ボタンを押して液晶画面を開く

3 ロック解除ボタンを押したまま、「M」をランプの位置に合わせる

4 「メニュー／決定」レバーを押して、メニューを表示する

5 レバーを上下に動かして「M」を選び、押して決定する

6 レバーを上下に動かして「セルフタイマー」を選び、押して決定する

「切」と「入」が表示されます。

7 レバーを上下に動かして「入」を選び、押して決定する

8 レバーを２回押して撮影画面に戻る

画面にセルフタイマーマーク（ ）が表示されます。

9 ボタンを押して、セルフタイマー撮影を開始する

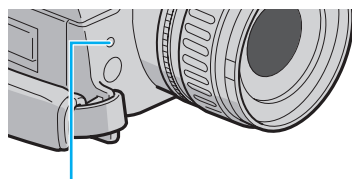
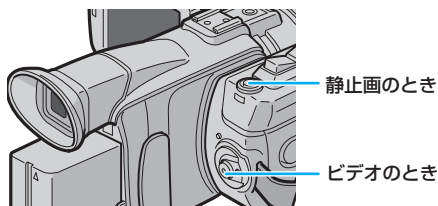
- ビデオ → 撮影ボタン
- 静止画 →「静止画」ボタン

撮影ランプが点滅します。

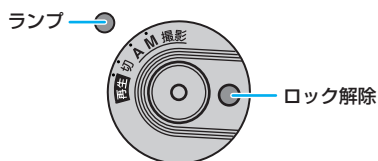
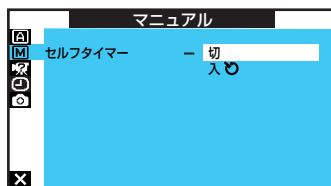
撮影ランプの点滅が早くなると、撮影がもうすぐ始まります。

- ランプ点灯 → ビデオの撮影開始
  → 静止画の撮影

次へ続く

撮影・初級テクニック編

15秒後に撮影をスタートする［セルフタイマー］

10 セルフタイマーを解除するには、手順７で「切」を選ぶ

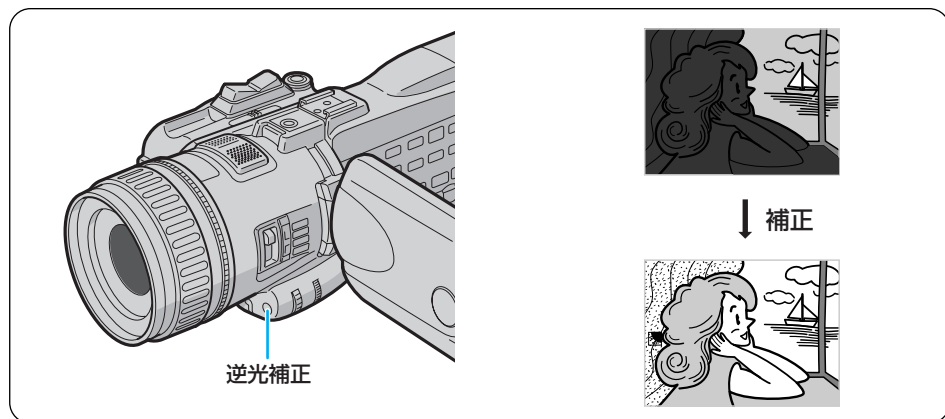
- 一時的に通常のフルオート撮影をするには、セルフタイマーを解除せずに電源ダイヤルを「**A**」に合わせます。この場合、電源ダイヤルを「**M**」に合わせると、ふたたびセルフタイマー撮影になります。

撮影が始まるまでにセルフタイマーを止めるには

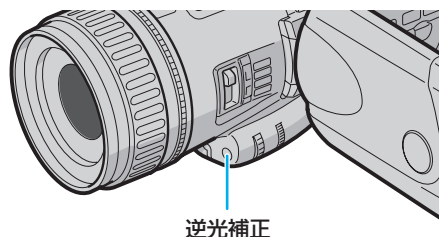
手順９でボタンを押したあとでもう一度ボタンを押すと、撮影が開始される前にセルフタイマーが止まります。

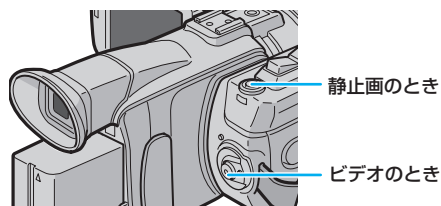
- ビデオ → 撮影ボタン
- 静止画 →「静止画」ボタン

- セルフタイマーで撮影ボタンまたは「静止画」ボタンを押してから撮影が始まるまでの時間は、約15秒間です。
- 撮影ランプはシステム設定メニューの「タリー」が「切」になっていると点灯しません（☞ P.182）。
- リモコンを使用すれば、撮影開始や停止の操作が、より手軽に行えます（☞ P.207）。
- 液晶画面を180度回転させると、撮影中の被写体を確認しながら撮影できて便利です（☞ P.63）。

被写体の後ろに太陽があるとき［逆光補正］

太陽に向かって撮影すると、太陽を背にした被写体（人物）が暗くなって撮影されます。このようなときに「逆光補正」ボタンを押すと、被写体が明るく補正されます。

1 「逆光補正」ボタンを押す

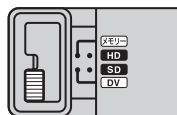
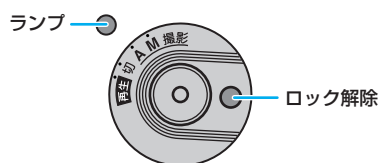
画面に逆光補正マーク（ ）が表示されます。

2 撮影ボタンまたは「静止画」ボタンを押して撮影する

3 逆光補正を解除するには、もう一度「逆光補正」ボタンを押す

- 「逆光補正」ボタンを使うと、被写体の周囲が明るくなりすぎて白くなることがあります。
- より適切な明るさに調節したいときは、明るさ補正で調節してください（☞P.104）。

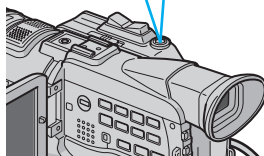
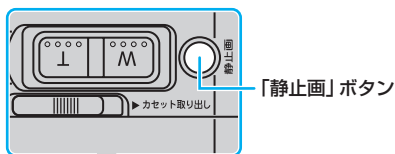
撮影・初級テクニック編

ビデオテープに静止画を撮る

ビデオの中に静止画を挿入できます。被写体の表情を印象的に撮影したいときなどに効果的です。

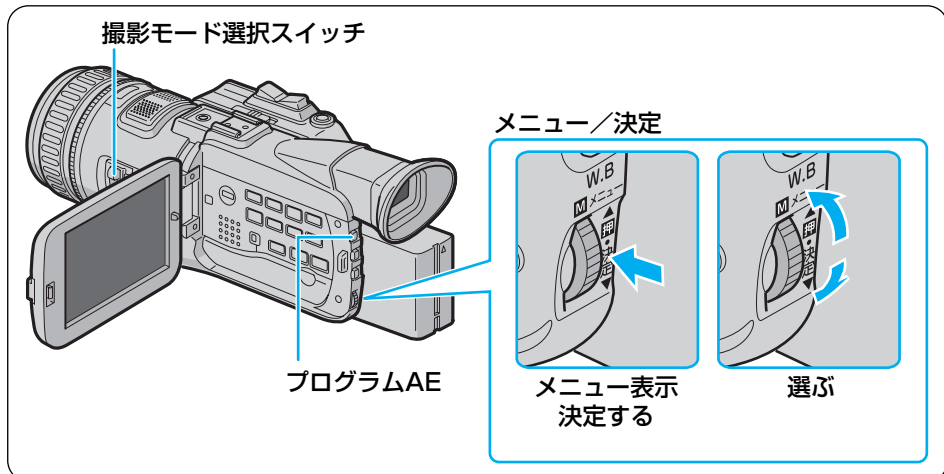
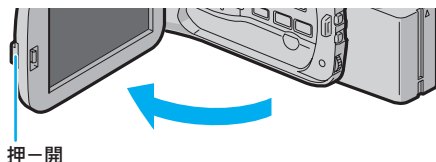
1 **撮影モード選択スイッチを「DV」、「SD」、「HD」のいずれかの位置に合わせる**

2 **ロック解除ボタンを押したまま、「A」または「M」をランプの位置に合わせる**

3 **「静止画」ボタンを押す**

液晶画面の映像が約6秒間停止し、指定したモードで音声とともにテープに記録されます。

- 押し続けると、約1秒ごとに連写します。
- ビデオの撮影停止中でも、ビデオテープに静止画を記録することができます。

- 記録選択設定を「➡ ／➡ 」に変更すると、ビデオテープへの記録と同時にメモリーカードにも静止画が記録されます（☞P.178）。
- 撮影モードによって、メモリーカードに記録される静止画のサイズは以下のようになります。
  「DV」の場合→ 640 × 480 ドット
  「SD」の場合→ 848 × 480 ドット
  「HD」の場合→ 1280 × 720 ドット

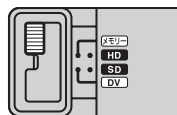
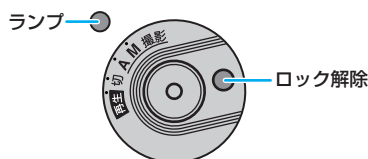
- 静止画撮影ができないときは、「静止画」ボタンを押したときに「PHOTO」が点滅します。
- プログラムAE（☞ P.116）の中には、静止画撮影時に働かないものがあります。このようなときは、プログラムAEアイコンが青く点滅してお知らせます。

動きの速いものを撮影する［スポーツモード］

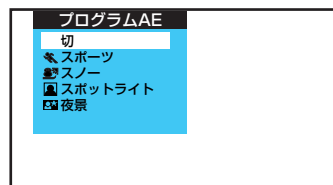
被写体の明るさに合わせてシャッター速度を自動的に調節して、走っている人物など動きの速い被写体をブレなく鮮明に撮る方法を説明します。
また、シャッタースピード／アイリス優先ボタンを使って、手動で細かくシャッタースピードを固定することもできます。(☞ P.106)

1 「押－開」ボタンを押して、液晶画面を開く

2 撮影モード選択スイッチを「メモリー」の位置に合わせる

3 ロック解除ボタンを押したまま、「M」をランプの位置に合わせる

撮影・初級テクニック編

次へ続く

動きの速いものを撮影する［スポーツモード］

4 「プログラム AE」ボタンを押す

プログラム AE メニューが表示されます。

5 「メニュー／決定」レバーを上下に動かして「スポーツ」を選び、押して決定する

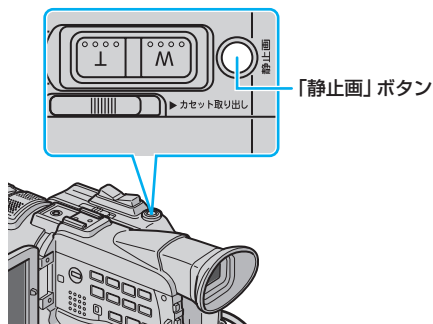
画面の左側に「 」と表示されます。

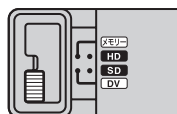
スポーツモードの設定を解除するには

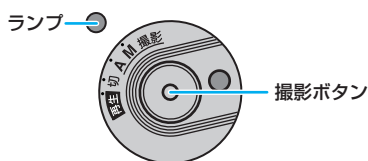
手順 5 で「切」を選んでください。
電源ダイヤルを「**A**」の位置に合わせると、スポーツモードは一時的に解除されます。

撮影する

静止画を撮る

1 「静止画」ボタンを押して、静止画を撮影する

ビデオを撮る

1 撮影モード選択スイッチを「DV」、「SD」、「HD」のいずれかの位置に合わせる

2 撮影ボタンを押して、ビデオを撮影する

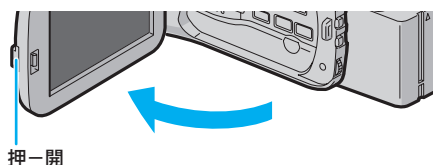
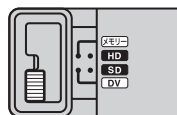
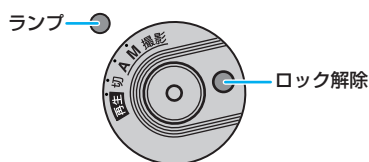
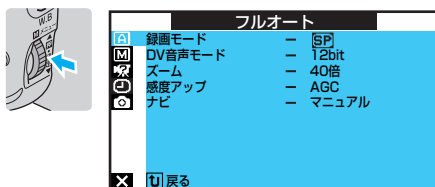
- ビデオの場合は、再生時に一時停止したときのブレが抑えられます。

- スポーツモードを使うときは、高速スピードで撮影するために、通常より画面が暗くなります。
明るい場所で撮影してください。

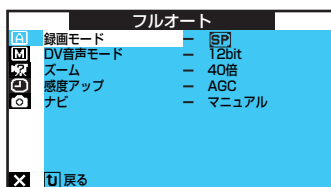
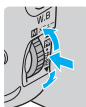
頭出しをするためのデータを記録する［ナビ］

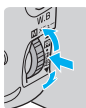
頭出しをするためのデータをメモリーカードに記録しておくと、再生時に撮影開始位置の頭出しが簡単にできます。頭出しするためのデータ（頭出しデータ）を記録するには、撮影時に自動的に記録する方法と、「ナビ書込み」ボタンを押して記録する方法があります。あとで再生しながら頭出しデータを追加することもできます（☞P.127）。
カセットテープとメモリーカードの両方が入っていないと、頭出しデータは記録できません。あらかじめ、両方が入っていることを確認してください。

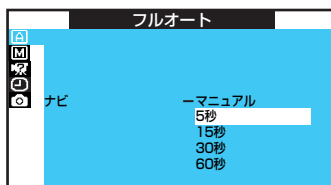
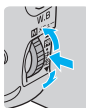
自動的に記録するように設定する

出荷時の設定では、撮影後に「ナビ書込み」ボタンを押したときだけ頭出しデータを記録します（☞P.99）。撮影時に自動的に記録するには、フルオート設定メニューで設定を変更します。

1 「押－開」ボタンを押して、液晶画面を開く

2 撮影モード選択スイッチを「DV」、「SD」、「HD」のいずれかの位置に合わせる

3 ロック解除ボタンを押したまま、「M」をランプの位置に合わせる

4 「メニュー／決定」レバーを押してメニューを表示する

5 レバーを上下に動かして「A」を選び、押して決定する

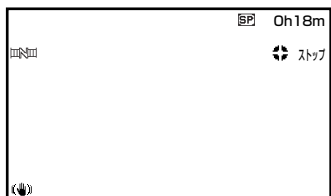
フルオート設定メニューが表示されます。

6 レバーを上下に動かして「ナビ」を選び、押して決定する

「マニュアル」「5 秒」「15 秒」「30 秒」「60 秒」が表示されます。

7 レバーを上下に動かして秒数を選び、押して決定する

- 詳しくは、次ページの「秒数の選びかた」をご覧ください。

8 レバーを 2 回押して撮影画面に戻る

画面上部に「 」マークが表示されます。

- マークが点滅している間は頭出しデータの記録ができません。点灯に変わるまでお待ちください。
- しばらくたってもマークが点滅しているときは、メモリーカードが入っていないことを示します。メモリーカードを入れてください（☞P.35）。

撮影・初級テクニック編

頭出しをするためのデータを記録する［ナビ］

秒数の選び方

撮影を開始しても頭出しデータはすぐには記録されず、手順７で設定した秒数よりも長く撮影したときにだけ記録されます。次の３つの例を参考に、使い方に合わせて選択してください。

例１：どの場面も頭出しできるようにしたいとき
「5 秒」に設定すると比較的短い場面でも頭出しデータが記録されます。そのため、ほとんどの場面をナビ機能で見つけだせます。
短い場面をたくさん撮影する場合は、大容量のメモリーカードを使用してください。

例２：メモリーカードの容量を節約したいとき
短い場面をたくさん撮影する場合、すべての場面の頭出しデータがメモリーカードに記録されると、頭出しデータでメモリーカードが一杯になることがあります。「60 秒」に設定すると記録時間が 60 秒以上の比較的長い場面の頭出しデータだけが記録され、メモリーカードの容量を節約できます。

例３：特定の場面だけ頭出しできれば良いとき
「マニュアル」に設定すると、場面の長さに関わらず、撮影停止の後に「ナビ書込み」ボタンを押した場面だけ頭出しデータを記録します。記録する場面を選べるので頭出しデータの数が少なくなり、再生するときに頭出しがより簡単になります。メモリーカードの容量の節約にもなります。

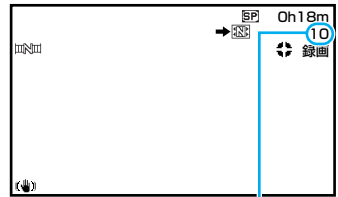
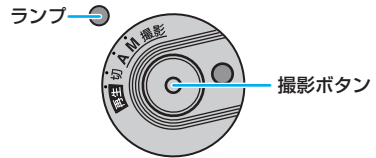
撮影する

自動的に記録する

「自動的に記録するように設定する」の手順7で「5秒」～「60秒」に設定した場合、撮影時に頭出しデータが自動的に記録されます。

1 **撮影ボタンを押して、ビデオを撮影する**

撮影を開始してから設定した秒数がたつと「▧」マークが画面に表示され、頭出しデータが記録されます。

- 撮影時間が設定した秒数に満たない場合、頭出しデータは記録されません。
- メモリーカードに記録できる頭出しデータが10以下になると、画面に残数が表示されます。

「ナビ書込み」ボタンで記録する（出荷時の状態）

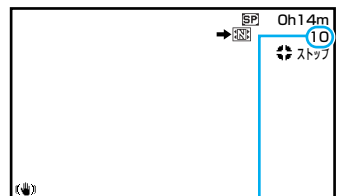
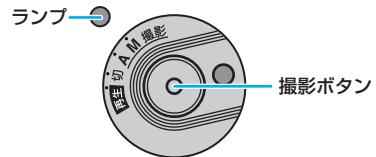
撮影後に「ナビ書込み」ボタンを押して頭出しデータを記録します。

1 **撮影ボタンを押して、ビデオを撮影する**

2 **もう一度撮影ボタンを押して、撮影を停止する**

3 **「ナビ書込み」ボタンを押す**

「▧」マークが表示され、頭出しデータが記録されます。

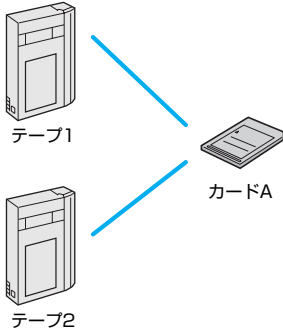
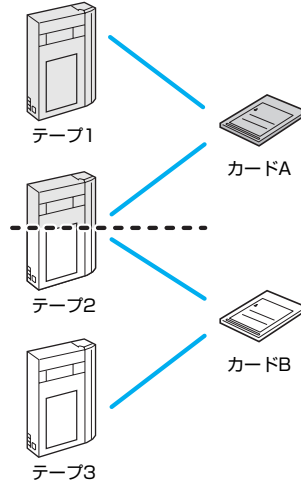
- メモリーカードに記録できる頭出しデータが10以下になると、画面に残数が表示されます。

頭出しをするためのデータを記録する［ナビ］

頭出しをする

テープの再生中または停止中に、「ナビ」ボタンを押します（☞P.126）。

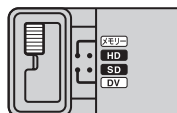
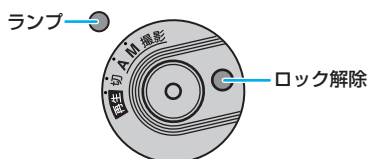
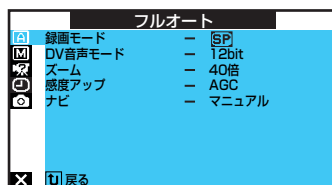
- 「5S」または「アニメ」に設定されているときは、頭出しデータは記録されません（☞P.179）。

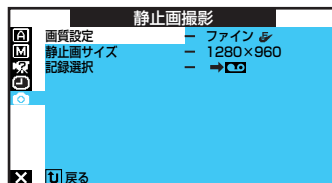
- 他社製のビデオカメラ、および DV ナビ機能がないビデオカメラで撮影されたビデオテープでは、頭出しを追加できません。
- ナビを使用するときは無記録部分（テープに何も記録されていない部分）を作らないようにしてください。誤動作の原因になります。
- 頭出しデータを記録されたテープの上に新しく撮影しても、前に撮影した頭出しデータはメモリーカードに残っています。頭出しデータ（ナビ情報）を削除してから撮影してください（☞P.128）。
- 液晶画面に「カード表示」（☞P.221）が点滅するときは、カード情報を読み込んでいます。このときは頭出しデータは記録されませんが、カード読み込み完了後のデータを記録します。
- 撮影後に、テープのお好きな位置を選んで頭出しデータを追加することもできます（☞P.127）。ただし、他社製のビデオカメラ、および DV ナビ機能がないビデオカメラで撮影されたビデオテープでは、頭出しをすることができません。
- 記録選択設定（☞P.178）を「➡／➡」に変更しているときは、静止画の撮影残枚数が表示されます。頭出しデータの残数は表示されません。
- 次ページの例 1 のように、1 本のテープには 1 枚のメモリーカードが対応するようにご使用になることをお勧めします。
  1 本のテープの撮影途中にメモリーカードを入れ替えると、例 2 のようにテープ 2 にカード A とカード B の 2 枚のメモリーカードが対応することになります。そのため、テープ 2 の前半を頭出しするときはビデオカメラにカード A を入れ、テープ 2 の後半を頭出しするときはカード B に入れ替えなくてはならなくなります。

例1（こちらをお勧めします）
テープ1
テープ2
カードA
例2
テープ1
カードA
テープ2
カードB
テープ3

静止画のサイズや画質を変更する

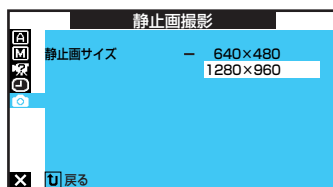
静止画のサイズには、640 × 480 ドット、1280 × 960 ドットの 2 種類があります。また、2 種類のどちらにも高画質のファインと、たくさんの枚数が撮影できるスタンダードがあります。
出荷時は 1280 × 960 ドットのファインに設定されていますので、静止画の用途や目的に合わせて設定を変更してください。

静止画のサイズを変更する

1 撮影モード選択スイッチを「メモリー」の位置に合わせる

2 「M」をランプの位置に合わせる

3 「メニュー／決定」レバーを押してメニューを表示する

4 レバーで「📷」を選び、決定する

静止画撮影設定メニューが表示されます。

5 「画像サイズ」を選び、決定する

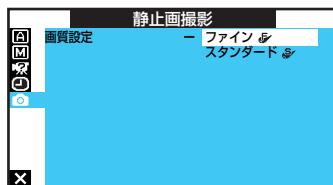
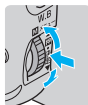
「640 × 480」「1280 × 960」が表示されます。

6 使用する静止画のサイズを選び、決定する

7 レバーを２回押して撮影画面に戻る

静止画の画質を変更する

1 「静止画のサイズを変更する」の手順５で「画質設定」を選び、決定する

「ファイン」「スタンダード」が表示されます。

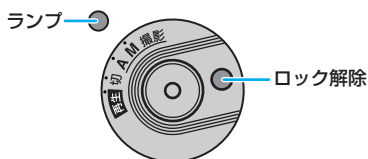
2 「メニュー／決定」レバーで使用する画質を選び、決定する

3 レバーを２回押して撮影画面に戻る

- 撮影画面では、ファインモードは 、スタンダードモードは と表示されます（☞ P.221）。

撮影方法を手動で設定する[マニュアル撮影]

画像の明るさを調節する [明るさ補正]

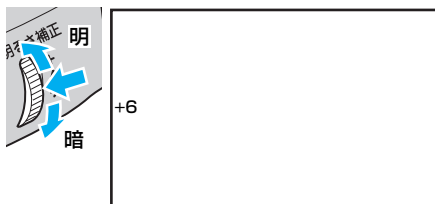
太陽が背景にあって被写体が暗くなったり、スポットライトなどがあたって被写体が明るくなりすぎるときは、「逆光補正」ボタン（☞P.91）やプログラムAEメニューの「スポットライト」機能（☞P.116）を使用すると簡単に明るさを調節できます。
しかし、周囲の明るさによっては、「逆光補正」ボタンや「スポットライト」機能では最適な結果を得られないことがあります。より詳細に調節したいときは、次の手順で設定してください。

1 「M」をランプの位置に合わせる

2 「明るさ補正」レバーを押す

明るさを示す数値が表示されます。

3 「明るさ補正」レバーで数値を変更する

明るくする → 「▲」側（＋10まで）
暗くする → 「▼」側（－10まで）

- 「＋3」は、「逆光補正」ボタンと同じ効果です。
- 「－3」は、プログラムAEメニューの「スポットライト」機能と同じ効果です。

一定の明るさで撮影するには

動きのある被写体を撮影するときやズーム操作を行うときには、画面の明るさを一定に保ちたいことがあります。このようなときは次の操作をしてください。

1 **前ページの手順３で数値を変更したあと、「明るさ補正」レバーを２秒以上押す**

画面に L と表示され、明るさが固定されます。

- ここで数値を変更することもできます。数値を変更した場合は、再び「明るさ補正」レバーを２秒以上押します。

2 **明るさの固定を解除するには、「明るさ補正」レバーを押す**

自動調節に戻すには

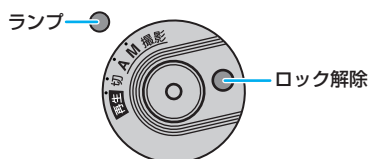
「明るさ補正」レバーを押してください。
電源ダイヤルを「撮影」の位置に合わせると、一時的に自動調節に戻ります。

撮影方法を手動で設定する［マニュアル撮影］

シャッタースピード／絞りを手動で調節する

シャッタースピードを調節すると、動きの速い被写体を止まって見えるように撮影したり、意図的に被写体をぶらして流動感ある映像を撮影することができます。絞りを調節すると、ピントの合う範囲を変えて撮影することができます。

シャッタースピードを調節する

1 「M」をランプの位置に合わせる

2 「シャッタースピード／アイリス優先」ボタンを押す

シャッタースピードを示す数値が表示されます。

3 「メニュー／決定」レバーで数値を変更する

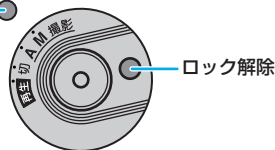
シャッタースピードを速くする
→「▲」側(1/1000まで)

シャッタースピードを遅くする
→「▼」側(1/15まで)

自動設定に戻すには

シャッタースピードを自動調節に戻すには、「シャッタースピード／アイリス優先ボタン」を２回押してください。
電源ダイヤルを「**A**」の位置に合わせると、シャッタースピードの調節を一時的に自動調節に戻すことができます。

絞りを調節する

1 「M」をランプの位置に合わせる

2 「シャッタースピード／アイリス優先ボタン」を２回押す

絞りを示す数値が表示されます。

3 「メニュー／決定」レバーで数値を変更する

絞り込む　→「▲」側(F 22.0まで)
絞りを開く→「▼」側(F 1.8まで)

- 絞りを開く(数値を小さくする)と、明るさが不足する条件でも必要な量の光を取り込めますが、ピントの合う範囲は狭くなります。
- 絞り込む(数値を大きくする)と、被写体と背景の両方にピントが合うように、ピントの合う範囲が広くなります。

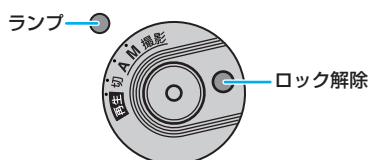
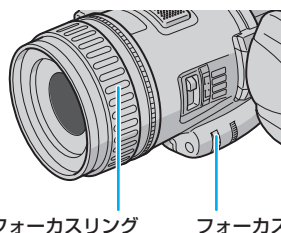
自動設定に戻すには

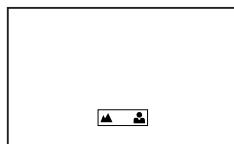
絞りを自動調節に戻すには、「シャッタースピード／アイリス優先ボタン」を１回押してください。
電源ダイヤルを「**A**」の位置に合わせると、絞りの調節を一時的に自動調節に戻すことができます。

撮影方法を手動で設定する［マニュアル撮影］

ピントを手動で合わせる［マニュアルフォーカス］

このビデオカメラは、約５センチ（☞P.57）から無限遠まで自動的にピントを合わせるオートフォーカス機能を備えています。ただし、画面中央の被写体にピントを合わせるため、被写体が画面端にいるときは間違った距離にピントが合ってしまうことがあります。また、被写体や周囲の条件によっては、オートフォーカス機能が正しく動作しないこともあります。
このようなときは、ピントを手動で合わせてください。

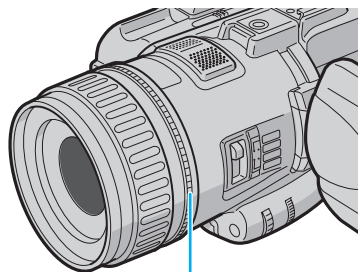
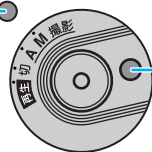
1 「M」をランプの位置に合わせる

2 「フォーカス」ボタンを押す

3 フォーカスリングを回して、ピントを合わせる

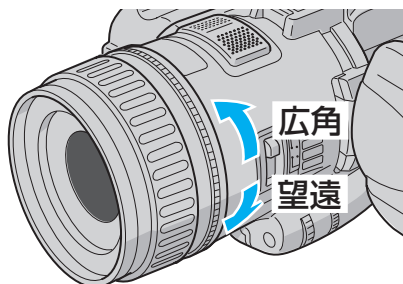
- ピントを合わせたい被写体が
  遠くにある　→反時計回り（▲）
  近くにある　→時計回り（👤）

マニュアルフォーカスを解除するには

「フォーカス」ボタンを押します。電源ダイヤルを「**A**」の位置に合わせると、ピントの調節を一時的に自動調節に戻すことができます。

- ズーム操作をするときは、ピントを合わせる前に望遠（T）側に設定しておき、ピントを合わせてから広角（W）側に調節するとピントがずれません。
- **こんなときに手動でピントを合わせます**
  - 平らな壁や青空など、コントラスト（明暗差）のほとんどない被写体を撮るとき
  - 金網などの障害物が被写体との間にあるとき
  - 細かい模様や同じ模様が規則正しく並んでいる被写体を撮るとき
  - 蛍光灯などのちらつきのある光源の下で撮影するとき

ズームリングで撮影する範囲を調節する［ズーム］

ズームボタンを使ったズーム操作では撮影する範囲を調節しにくい場合や撮影者が意図したスピードでズーミングする場合に、ズームリングを使います。被写体が小さく見えている場合は、反時計回り（望遠側）に回します。より広い範囲を画面に収めたい場合は、時計回り（広角側）に回します。

1 「M」をランプの位置に合わせる

2 ズームリングを回して、撮影する範囲を調節する

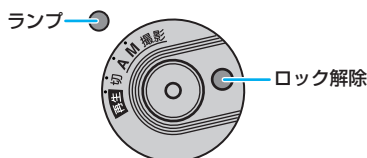
- 望遠にする→反時計回り
- 広角にする→時計回り

- 10倍以上のズームが使用できない：メモリーモードに設定すると使用できません。また、ビデオモードに設定していても、映像をデジタル処理する機能（デジタルワイドなど）との併用はできません。撮影モードを「HD」または「メモリー」に設定すると、使用できません。

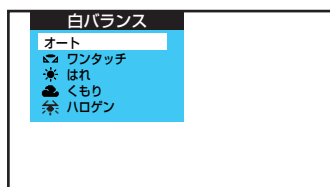
画像の色合いを調節する［白バランス］

ビデオカメラは、通常、色のバランスを自動的に調節し、最も自然な色合いを再現します。ただし、天候や撮影用ライトなど、光源の状態によっては自然な色合いを再現できないことがあります。
液晶画面やファインダーで色合いが不自然なときは、白バランスを変更して撮影してください。白バランスの設定は、５種類のモードから選択できます。

オート ･･････････自動的に色のバランスを調節します。
ワンタッチ ････被写体の色をより正しく撮影したいときに選択します（☞P.111）。
はれ ･･････････晴れた日に屋外で撮影するときに選択します。
くもり ････････曇りの日や日陰で撮影するときに選択します。
ハロゲン ･･････撮影用ライトなどで照明して撮影するときに選択します。

上記の設定は、電源ダイヤルを「**M**」に設定したときのみ有効です。「**A**」に設定しているときは「オート」と同じ動作をします。

1 「M」をランプの位置に合わせる

2 「ホワイトバランス」ボタンを押す

白バランスメニューが表示されます。

3 「メニュー／決定」レバーでモードを選び、決定する

- 「ワンタッチ」を選択するときは、次ページの「白バランスを正確に設定する」を参照してください。

白バランスを自動調節に戻すには

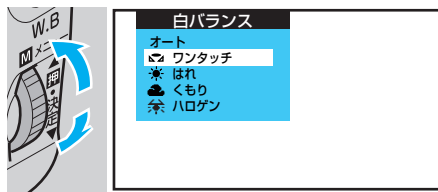
手順３で「オート」を選びます。
電源ダイヤルを「**A**」の位置に合わせると、一時的に自動調節（オート）に戻ります。

白バランスを正確に設定する

白バランスを調節すると、被写体をより正しい色で撮影できます。

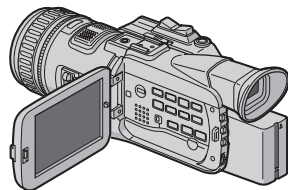
1 **「画像の色合いを調節する」**
（☞P.110）の手順１～２を行う

白バランスメニューが表示されます。

2 **「メニュー／決定」レバーで「ワンタッチ」を選ぶ**

3 **ビデオカメラと被写体の間に白い紙を置き、画面全体に表示する**

- 裏の透けない紙（コピー用紙など）をお使いください。

4 **レバーを押しつづけ、「」の点滅が止まったら指を離す**

白バランスが記憶されました。紙を外してください。

5 **レバーを押して、撮影画面に戻る**

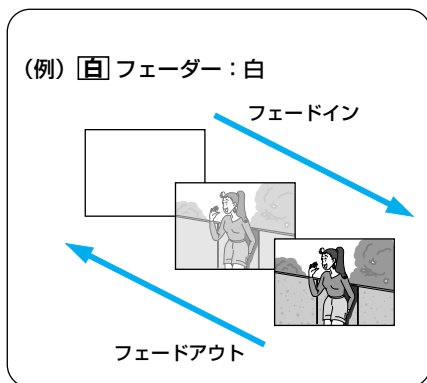
- 被写体に当たっている光源によって画像の色合いも変わります。被写体に当たっている光源が変わったときは、再度白バランスを調節してください。
- 設定した白バランスは、再度白バランスを設定するまで有効です。

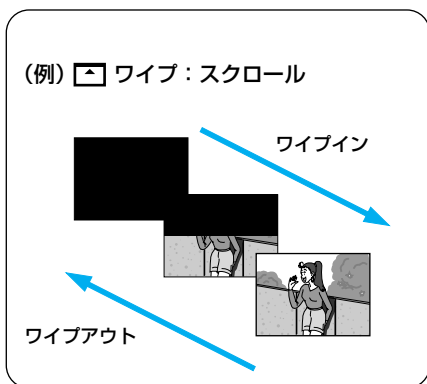
場面の切り替え部に効果を入れる

場面切替の種類［フェーダー］［ワイプ］

ビデオの場面と場面のつなぎ目に、効果を入れて変化をつける方法を説明します。まず、映像がどのようにつながるのかをイラストを使って説明します。

1）フェーダー効果

撮り始めは画面が徐々に浮かび上がり（フェードイン）、撮り終わりは徐々に消えていきます（フェードアウト）。

2）ワイプ効果

撮り始めは画面がある方向に向かってすべり込むように映し出され（ワイプイン）、撮り終わりは逆の方向に向かって消えていきます（ワイプアウト）。

場面切替には、次の９種類の効果があります。

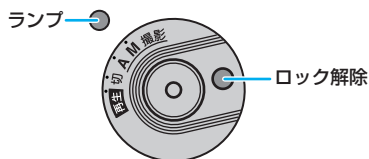
アイコン	機能名称	効　果
白	フェーダー：白	白い画面でフェードイン、フェードアウトします。
黒	フェーダー：黒	黒い画面でフェードイン、フェードアウトします。
白黒	フェーダー：白黒	白黒画面からカラー画面にフェードインし、カラー画面から白黒画面にフェードアウトします。
	ワイプ：コーナー	黒い画面の右上から左下に向かって映像が徐々にワイプインし、左下から右上に向かってワイプアウトします。
	ワイプ：ウィンドウ	黒い画面の中央から外に向かって映像が徐々にワイプインし、画面の外から中央に向かってワイプアウトします。
	ワイプ：スライド	黒い画面の右から左に向かって映像が徐々にワイプインし、左から右に向かってワイプアウトします。
	ワイプ：ドア	黒い画面の中央から左右にドアを開けるように映像が徐々にワイプインし、閉めるようにワイプアウトします。
	ワイプ：スクロール	黒い画面の下から上に向かって映像が徐々にワイプインし、上から下に向かってワイプアウトします。
	ワイプ：シャッター	黒い画面の中央から上下に向かって映像が徐々にワイプインし、上下から中央に向かってワイプアウトします。

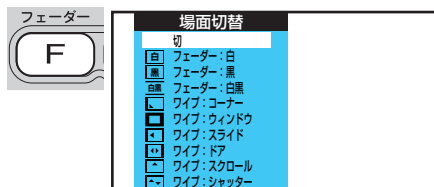
- **撮影モードを「HD」に設定したときは**
  フェーダー効果のみ使用できます。ワイプ効果は使用できません。

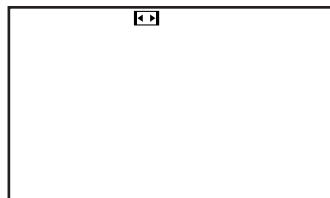
場面の切り替え部に効果を入れる

場面切替を設定する

場面切替の効果を設定する方法を説明します。

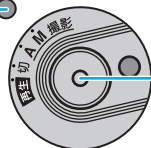
1 「M」をランプの位置に合わせる

2 「フェーダー」ボタンを押す

場面切替メニューが表示されます。

3 「メニュー／決定」レバーで使用する効果を選び、決定する

選択した効果のアイコンが画面の上部に表示されます。

撮影する

1 **撮影ボタンを押して、撮影を開始する**

設定した場面切替の効果が挿入されます。

- 違う場面切替の効果を使いたいときは、前ページの手順 2 から設定をし直してください。

場面切替を解除するには

前ページの手順 3 で「切」を選んでください。電源ダイヤルを「**A**」の位置に合わせると、一時的に場面切替が解除されます。

- **アイコンが青く点滅しているとき、またはアイコンが表示されないときは、その機能は動作しません（☞P.194）。**
- **場面切替設定とプログラム AE 設定（☞P.113、116）を一緒に使うと**
さらに効果的なビデオ撮影をお楽しみいただけます。

状況に合わせて撮影する［プログラムAE］

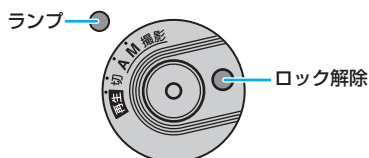
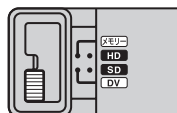
プログラムAEの種類

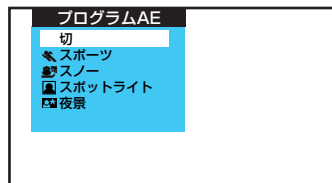
次の４種類のプログラムAEを使って、状況に合わせて撮影できます。

アイコン	機能名称	効　果
	スポーツ	被写体の明るさに合わせてシャッタースピードを1/250から1/1000まで自動的に調節して撮影します。スポーツをしている人物やモータースポーツなど、動きの速い被写体を1コマ1コマ鮮明に撮ることができます。
	スノー	晴れた日の雪原など周囲が明るい場所で撮影するときに、被写体を明るく補正することができます。効果としては「逆光補正」（☞P.91）と同じですが、こちらの方がやや弱い効果になるので「逆光補正」では効果が強すぎる場合に便利です。
	スポットライト	スポットライトなどがあたって被写体（人物）が明るく写りすぎるときに、被写体を暗く補正することができます。
	夜景	夜景などを撮るとき、映像がザラザラせず、自然な感じで記録することができます。「白バランス」は になりますが、お好みの設定に変えることができます（☞P.110）。ピントは、10m～無限遠の間では自動的に合います。10m以内の間では手動で合わせてください。

プログラム AE を設定する

プログラム AE を設定する方法を説明します。

1「M」をランプの位置に合わせる

2 必要に応じて撮影モード選択スイッチを「DV」、「SD」、「HD」、「メモリー」のいずれかの位置に合わせる

3「プログラム AE」ボタンを押す

プログラム AE メニューが表示されます。

4「メニュー／決定」レバーで使用するプログラム AE を選び、決定する

画面にプログラム AE の効果が加えられ、画面の左側にアイコンが表示されます。

プログラム AE を解除するには

手順４で「切」を選んでください。電源ダイヤルを「**A**」の位置に合わせると、一時的にプログラム AE が解除されます。

暗い場所で撮影する、いろいろな方法

このビデオカメラには、ほかにも暗い場所で撮影するための機能があります。

薄暗い場所にある被写体を撮影するときには

フルオート設定メニューの「感度アップ」を使用します。（☞P.177）。
「AGC」で撮影した画面は、デジタル映像を処理して実際よりも明るい映像を記録します。ただし、映像がザラザラした感じになります。

ビデオまたは静止画を撮影するときは

市販のビデオライトを点灯させると、被写体を明るく撮影できます。

- **アイコンが青く点滅しているとき、またはアイコンが表示されないときは、その機能は使用できません（☞ P.194）。**
- **プログラム AE 設定と場面切替設定（☞ P.113、116）を一緒に使うと**
  さらに効果的なビデオ撮影をお楽しみいただけます。
- **スポーツモードを使うときは**
  高速スピードで撮影するために、通常より画面が暗くなります。
  明るい場所で撮影してください。

映像に変化をつける［エフェクト］

エフェクトの種類

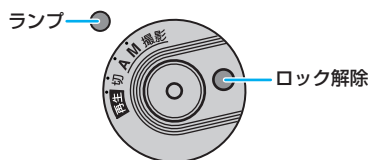
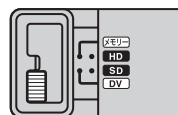
次の４種類のエフェクトを使って、映像に変化をつけて撮影できます。

アイコン	機能名称	効　果
	セピア	古い写真のようなセピア色で映像を記録します。「ワイド効果」の「ワイド」（☞ P.179）と合わせて使うと、古い白黒映画のような雰囲気をお楽しみいただけます。
B/W	白黒	映像を白黒で記録します。「ワイド効果」の「ワイド」と合わせて使うと、白黒映画のような雰囲気をお楽しみいただけます。
	映画効果	早いコマ落とし効果をつけて映像を記録します。 （ビデオモードのみ）
	ストロボ	コマ落としの効果で、連続写真のように記録します。 （ビデオモードのみ）

- 撮影モードを「HD」または「メモリー」にしたときは、「白黒」のみ選択できます。

エフェクトを設定する

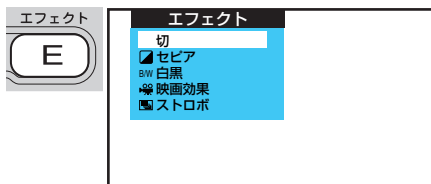
エフェクトを設定する方法を説明します。

1 「M」をランプの位置に合わせる

2 必要に応じて撮影モード選択スイッチを「DV」か「SD」に合わせる

- 「HD」または「メモリー」では使えない効果があります。

次へ続く

映像に変化をつける［エフェクト］

3 「エフェクト」ボタンを押す

エフェクトメニューが表示されます。

4 「メニュー／決定」レバーで使用するエフェクトを選び、決定する

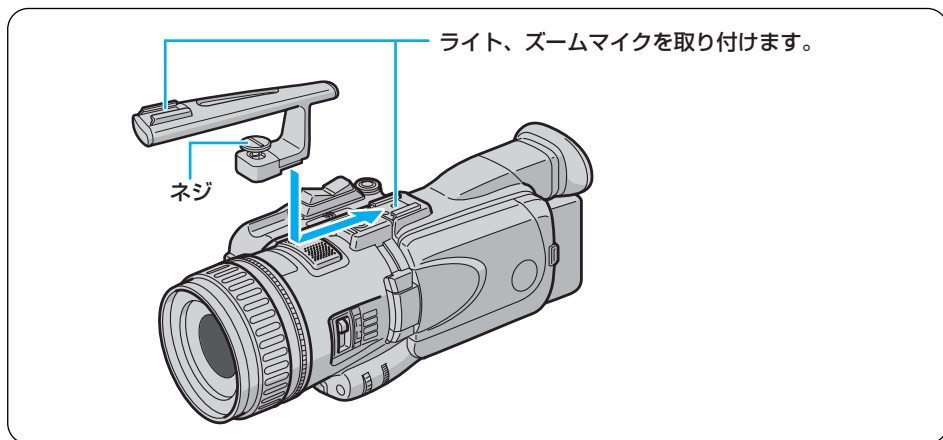
画面にエフェクトの効果が加えられ、画面の左側にアイコンが表示されます。

エフェクトを取り消すには

手順４で「切」を選んでください。電源ダイヤルを「**A**」の位置に合わせると、エフェクトの効果を一時的に取り消すことができます。

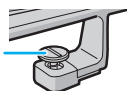
- **アイコンが青く点滅しているとき、またはアイコンが表示されないときは、その機能は使用できません（☞P.194）。**
- **エフェクト設定と場面切替設定（☞P.113、119）を一緒に使うと**
  さらに効果的なビデオ撮影をお楽しみいただけます。ただし、場面切替設定と一緒に使えないエフェクトがあります。エフェクト設定アイコンが青く点滅して、使えない機能であることをお知らせします。

ハンドル、マイク、ライトを使う

ビデオカメラのシューに市販のライトや、別売のズームマイク（MV-E100）、別売アクセサリーキット（VU-HD1K）のハンドルを取り付けることができます。また、マイク端子にマイクを接続することもできます。より本格的に撮影したい場合にお勧めします。

1 接続する機器をシューに差し込む

ハンドルを取り付ける

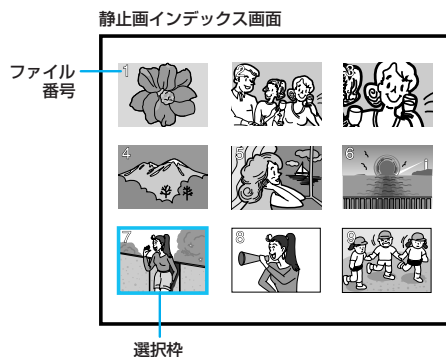
ハンドルをシューに差し込んだ後、ネジを回して取り付けます。ハンドル先端のシューに市販のライトや別売のズームマイク（MV-E100）を取り付けます。

- ネジはコインなどを使って回し、確実にハンドルをビデオカメラに取り付けてください。締めつけがゆるいと、ビデオカメラからハンドルが外れ、落下して危険です。

- ご使用になるライト、マイクの取扱説明書もご覧ください。

メモリーカードの内容を一覧表示する

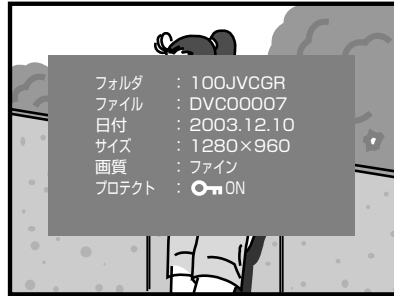
ここでは、メモリーカード内の静止画ファイルを一覧表示したり、ファイルの情報を表示したりする方法を説明します。カセットテープの頭出しデータを一覧表示するには「頭出しをする[ナビ]」(☞P.126)をご覧ください。

インデックス画面

メモリーカード内の静止画を一覧表示します。
インデックス画面は再生したい静止画を選ぶときに使用します。
表示方法と操作については「インデックス画面の使いかた」(☞P.124)をご覧ください。

ファイル番号：メモリーカードに記録した順に番号が表示されます。
選択枠：「メニュー/決定」レバーを上下に動かすと枠線が移動します。ファイルを選ぶときには、この枠線を目的の静止画に移動します。

ファイル情報

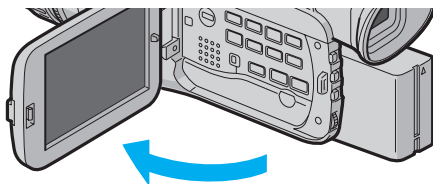
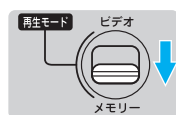
静止画を表示しているときには、ファイル情報（日付や画像サイズなど）を確認することができます。
表示方法と操作方法については、次の「インデックス画面の使いかた」をご覧ください。

静止画のファイル情報

フォルダ　：メモリーカード内のフォルダ名が表示されます。
ファイル　：ファイル名が表示されます
日付　：撮影した日付、またはファイルを作成した日付が表示されます。
サイズ　：画像サイズが表示されます。
画質　：記録した静止画の画質が表示されます。
画質モードには、画質の良い順にファインとスタンダードの２種類があります（☞P.102、178）。
プロテクト　：ファイルにプロテクトをかける（間違って削除しないようにする）と、「ON」と表示されます（☞P.170）。

- ほかのビデオカメラで撮影した静止画の場合、画質が「－－－」と表示されることがあります。

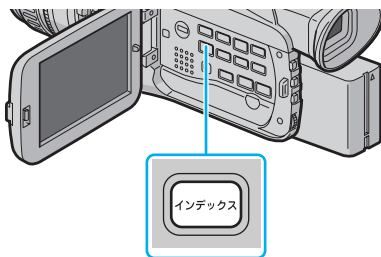
メモリーカードの内容を一覧表示する

インデックス画面の使いかた

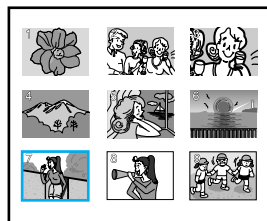
1 液晶画面を開く

2 再生モード選択スイッチを「メモリー」の位置に合わせる

3 「再生」をランプの位置に合わせる

液晶画面に静止画が表示されます。

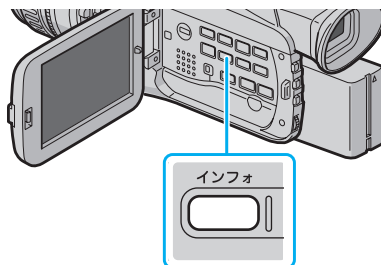
4 「インデックス」ボタンを押す

静止画インデックス画面が表示されます。

5 レバーで枠線を再生したい静止画に合わせ、決定する

選んだ静止画が画面全体に表示されます。

- 「◀◀」または「▶▶」ボタンを押すと、ページ単位で表示を切り替えられます。

6 ファイル情報を確認するには、「インフォ」ボタンを押す

ファイル情報が表示されます。

- ファイルの表示画面に戻るには、もう一度、「インフォ」ボタンを押します。
- インデックス画面でファイルを選んでいるときに「インフォ」ボタンを押すことでも、ファイル情報を表示できます。

ファイルを削除するには

削除するファイルを手順５で選び、「メニュー／決定」レバーを押します。以後の操作については「メモリーカードの静止画を削除する」（☞ P.82）をご覧ください。

再生を工夫しよう編

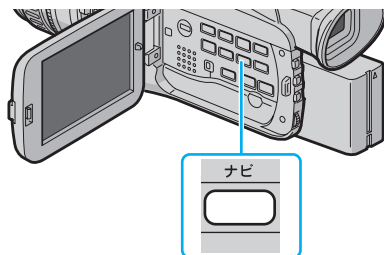
頭出しをする［ナビ］

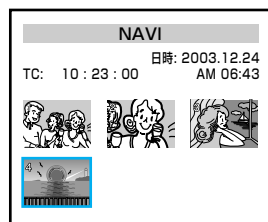
撮影時に記録した頭出しデータ（☞P.96）を使って、見たいシーンの頭出しをすることができます。

- 頭出しデータは、ビデオ撮影時にセットされていたメモリーカードに記録されています。頭出しおよび頭出しデータを追加するには、カセットテープに撮影したときにセットしていたメモリーカードが必要です。

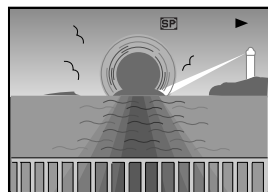
1 テープの再生中または停止中に、「ナビ」ボタンを押す

ナビインデックス画面が表示されます。

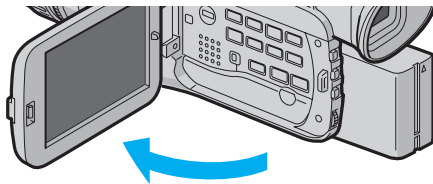
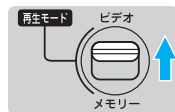
- 再生中の場合は、再生が自動的に停止します。

2 「メニュー／決定」レバーで頭出しをしたい場面を選ぶ

- 「◀◀」または「▶▶」ボタンを押すと、ナビインデックス画面のページを切り替えられます。
- 場面の選択をキャンセルするには、もう一度「ナビ」ボタンを押します。

3 レバーを押して決定する

自動的に頭出しを行い、再生を開始します。

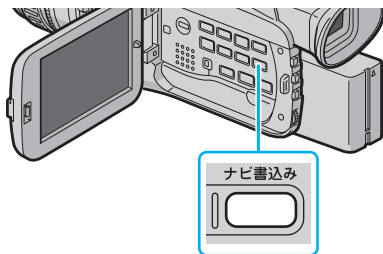
- 頭出しをキャンセルするには、「■」または「▶•▮▮」ボタンを押します。

- 記録した頭出しデータの位置と、頭出し再生したときの位置には、誤差がでることがあります。
- メモリーカード内の「NAVI」フォルダを、パソコンを使ってほかのメモリーカードにコピーしても、コピーしたメモリーカードでは頭出しはできません。

頭出しするためのデータを追加する

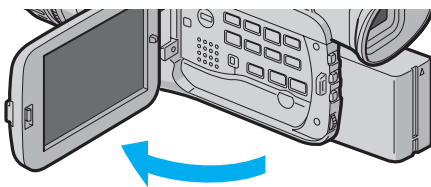
1 液晶画面を開く

2 再生モード選択スイッチを「ビデオ」の位置に合わせる

3 「再生」をランプの位置に合わせる

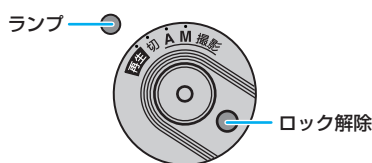
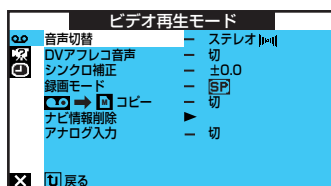
4 ビデオを再生し、頭出しを行いたい場面で「ナビ書込み」ボタンを押す

- ビデオを再生するには（☞P.64）

選択した場面が頭出しをするためのデータとしてメモリーカードに記録されます。

- 他社製のビデオカメラ、およびDVナビ機能がないビデオカメラで撮影されたビデオテープでは、頭出しを追加できません。
- D端子出力設定が「HD端子」に設定されていて、D端子ケーブルで映像を出力している場合は、頭出しを追加できません。
- D端子出力設定が「D3」に設定されていて、HD再生し、D端子ケーブルで映像を出力している場合は、頭出しを追加できません。

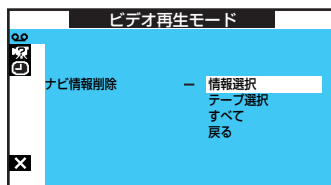
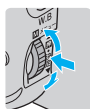
頭出しデータを削除する

1 液晶画面を開く

2 再生モード選択スイッチを「ビデオ」の位置に合わせる

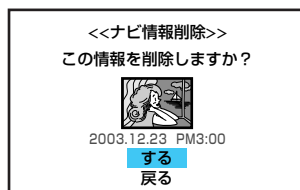
3 「再生」をランプの位置に合わせる

4 「メニュー／決定」レバーを押してメニューを表示し、もう一度押して決定する

5 「ナビ情報削除」を選び、決定する

6 「情報選択」を選び、決定する

削除画面が表示されます。

- 「情報選択」のかわりに「テープ選択」を選ぶと、同じビデオテープから作成したデータをすべて削除できます。

7 「◀◀」または「▶▶」ボタンを押して、削除する画像を選択する

8 「する」を選び、決定する

選択した画像のデータが削除されます。

9 他のデータも削除したいときは、手順７～８を繰り返す

10 「戻る」が選ばれていることを確認して、レバーを４回押す

再生画面に戻ります。

すべての頭出しデータを削除したいときは

手順６で「すべて」を選びます。表示された画面で「する」を選んで、「メニュー／決定」レバーを押すと、メモリーカードの中にあるすべての頭出しデータが削除されます。

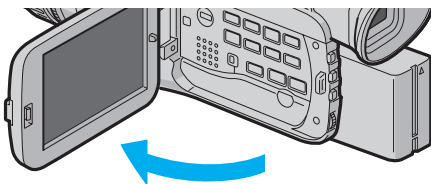
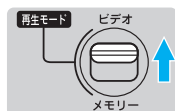
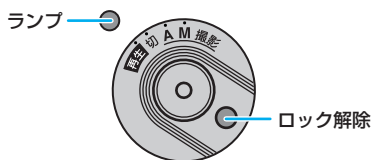
ご注意

- SDカードのライトプロテクトスイッチを「LOCK」の位置に合わせていると、頭出しデータを削除できません（☞P.36）。
- 削除中はメモリーカードを取り出したり、電源を切らないでください。故障の原因となることがあります。
  また、別売のACアダプターをお使いになることをお勧めします。途中でバッテリーがなくなると、故障の原因となります。
- 削除した頭出しデータは元に戻せません。間違えて削除した場合は「頭出しするためのデータを追加する」（☞P.127）の手順でもう一度設定してください。

映像をコピーする

テープからメモリーカードに映像をコピーする

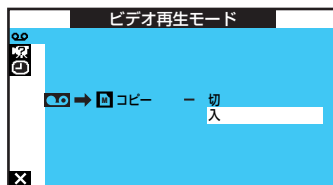
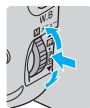
ビデオの映像から好みの場面を選び、メモリーカードに静止画としてコピーできます。

1 液晶画面を開く

2 再生モード選択スイッチを「ビデオ」の位置に合わせる

3 「再生」をランプの位置に合わせる

4 「メニュー／決定」レバーを押してメニューを表示し、もう一度押して決定する

5 「 ➡M コピー」を選び、決定する

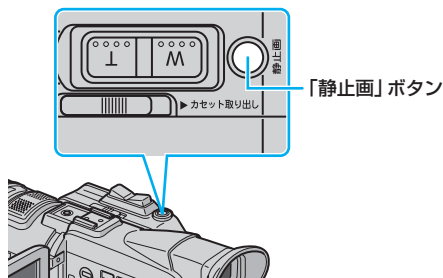
「切」「入」が表示されます。

6 「入」を選び、決定する

7 レバーを２回押して再生画面に戻る

8 ビデオを再生し、コピーしたい場面で一時停止する

- ビデオを操作するには（☞P.64）
- 再生中に「静止画」ボタンを押しても、メモリーカードにコピーできます。

9 「静止画」ボタンを押す

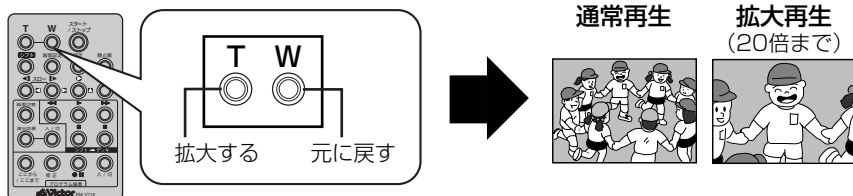
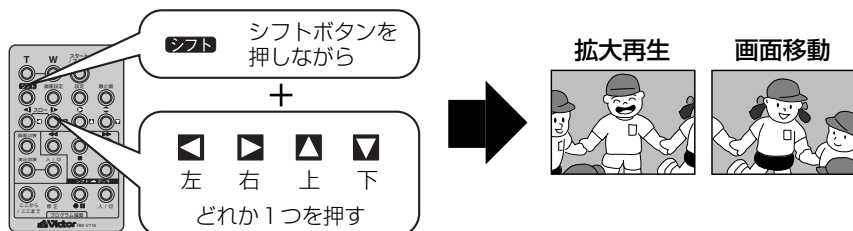
選択した場面がメモリーカードにコピーされて静止画になります。

- メモリーカードに記録される静止画のサイズは以下のようになります。
  「DV」で撮影した映像の場合　→　640 × 480 ドット
  「SD」で撮影した映像の場合　→　848 × 480 ドット
  「HD」で撮影した映像の場合　→　1280 × 720 ドット
- メモリーカードには画面に表示されている画像がコピーされます。
- コピーするときに、映像をセピア色や白黒に変化させることもできます。手順９の前にリモコンを使って再生効果を加えてください（☞ P.134）。
- D 端子出力設定が「HD 端子」に設定されていて、D 端子ケーブルで映像を出力している場合は、選択した場面をコピーできません。
- D 端子出力設定が「D3」に設定されていて、HD 再生し、D 端子ケーブルで映像を出力している場合は、選択した場面をコピーできません。

静止画やビデオの映像を加工する

静止画の一部を拡大する［静止画再生ズーム］

静止画の再生中に画面を拡大するには、別売アクセサリーキット（VU-HD1K）のリモコンを使用します。

1 拡大するには、静止画再生中にリモコンの「T」ボタンを押す

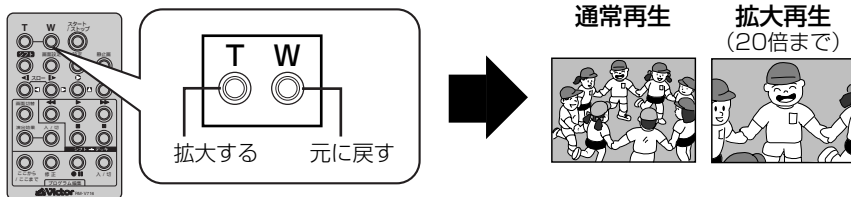
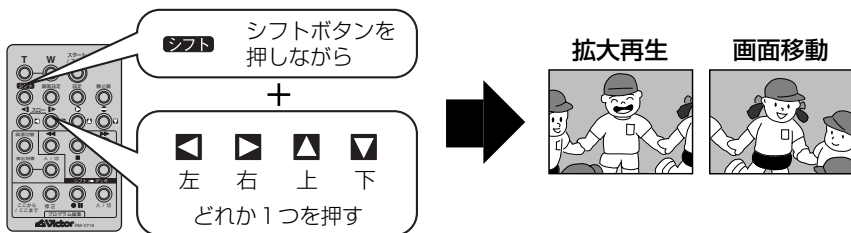
- 元に戻す　→「W」ボタン

2 拡大した状態で画面を移動するには、シフトボタンを押したまま「◀」「▶」「▲」「▼」ボタンを押す

- 拡大をやめたいときは通常の静止画の大きさに戻るまで「W」を押します。「◀◀」または「▶▶」ボタンを押して、違う画像にいったん切り換えて、拡大をやめることもできます。

- 拡大すると、画像は少し粗くなります。

ビデオの映像の一部を拡大する［ビデオ再生ズーム］

ビデオの再生中に画面を拡大するには、別売アクセサリーキット（VU-HD1K）のリモコンを使用します。拡大できるのは、「DV」で撮影した映像のみです。「SD」または「HD」で撮影した映像は、拡大できません。

1 拡大するには、ビデオ映像の再生中にリモコンの「T」ボタンを押す

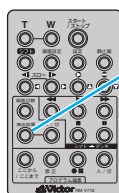
- 元に戻す　→「W」ボタン
- 一時停止中やスロー再生中も拡大できます。

2 拡大した状態で画面を移動するには、シフトボタンを押したまま「◀」「▶」「▲」「▼」ボタンを押す

- 拡大をやめたいときは通常の再生画面の大きさに戻るまで「W」を押します。または、リモコンの停止ボタンを押したあとに再生ボタンを押します。

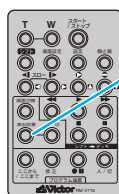
- 拡大すると、映像は少し粗くなります。

再生時の映像に変化をつける［再生演出効果］

撮影モードを「DV」にして撮影した映像の場合、ビデオ映像の再生中に変化をつけることができます。
再生中のビデオ映像にエフェクトの効果を加えるには、別売アクセサリーキット（VU-HD1K）のリモコンを使用します。再生時にエフェクトの効果を加えて楽しむほか、画像をセピア色や白黒に変えてメモリーカードにコピーできます（☞P.130）。

1 ビデオ映像の再生中にリモコンの「演出効果」ボタンを押す

再生効果メニューが表示されます。

2 「演出効果」ボタンを押して効果を選ぶ

- ボタンを押すたびにカーソルが移動します。目的の効果に合わせてください。

選んで約２秒後にメニューが消えます。再生中の映像には効果が加わっています。

- リモコンの演出効果「入／切」ボタンで、選んだ再生効果をいつでも入れたり切ったりできます。

日時の表示を切り替える

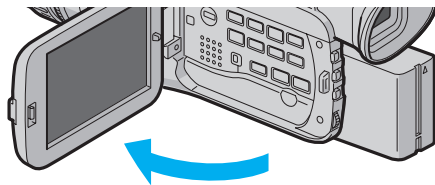
ビデオを撮影すると、撮影した日時がテープに記録されます。ビデオを再生するときに、撮影した日時を表示させることができます。

日時表示の種類

次の３種類から選択できます。お買い上げ時は、「切」に設定されています。

	撮影	再生
オート	電源オンから５秒間表示	●再生開始から５秒間表示 ●日付が変わると５秒間表示
入	常に表示	
切	な し	

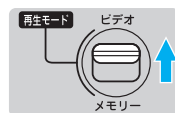
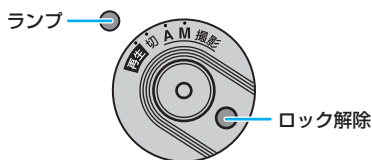
ここでは、撮影した日時を再生時に常に表示するように設定します。

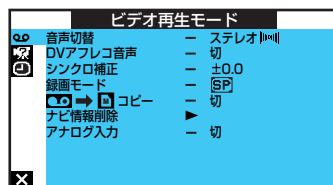
1 液晶画面を開く

2 再生モード選択スイッチを「ビデオ」の位置に合わせる

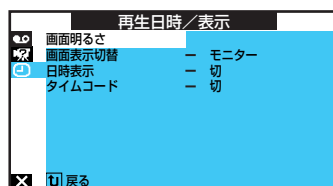
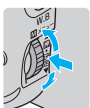
3 「再生」をランプの位置に合わせる

- 「M」の位置に合わせても設定できます。
- 「再生」の位置に合わせたときの内容と別々に設定されます。

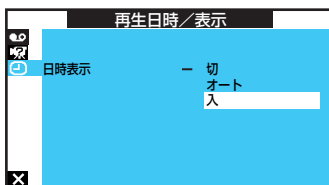
ビデオを編集してみよう編

次へ続く

日時の表示を切り替える

4 「メニュー／決定」レバーを押して、メニューを表示する

5 「」を選び、決定する

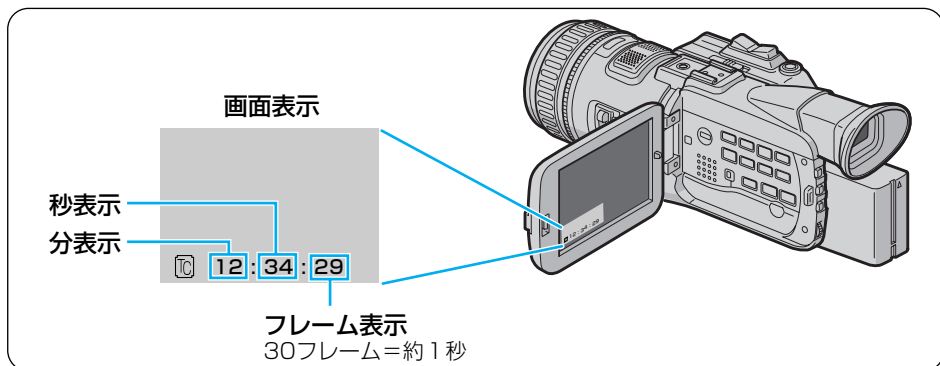
再生日時／表示設定メニューが表示されます。

6 「日時表示」を選び、決定する

「切」「オート」「入」が表示されます。

7 「入」を選び、決定する

8 レバーを２回押して再生画面に戻る

タイムコード表示を設定する

タイムコードとは

撮影中、１コマ１コマに「タイムコード」と呼ばれる数字を記録します。ビデオの撮影、再生、編集の際にタイムコードを表示すると、映像の位置を確かめる目安になります。

- 早送り、巻き戻し時のタイムコード表示は、ビデオカメラがテープの位置を確認するため、タイムコードが数秒間前後することがあります。
- 撮影中は分と秒のみ表示されます。

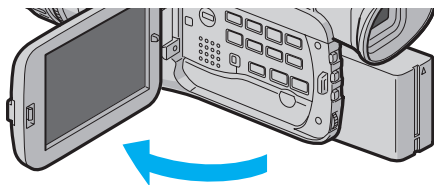
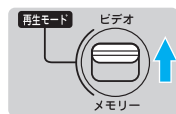
タイムコード表示を切り替える

ビデオ再生時にタイムコードを表示する方法を説明します。

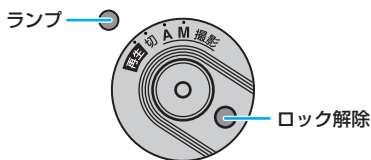
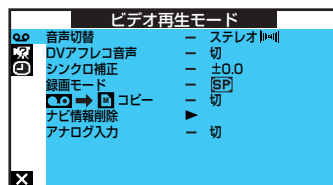
1 液晶画面を開く

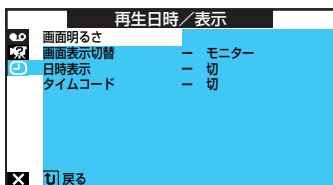
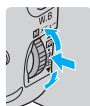
2 再生モード選択スイッチを「ビデオ」の位置に合わせる

ビデオを編集してみよう編

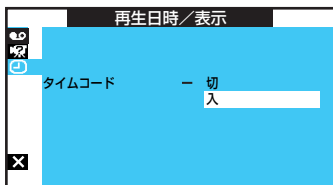
次へ続く

タイムコード表示を設定する

3 「再生」をランプの位置に合わせる

- 「M」の位置に合わせても設定できます。
- 「再生」の位置に合わせたときの内容と別々に設定されます。

4 「メニュー／決定」レバーを押して、メニューを表示する

5 レバーで「」を選び、決定する

再生日時／表示設定メニューが表示されます。

6 「タイムコード」を選び、決定する

「切」「入」が表示されます。

7 「入」を選び、決定する

8 レバーを２回押して再生画面に戻る

画面左下にタイムコードが表示されます。

タイムコードと無記録部分

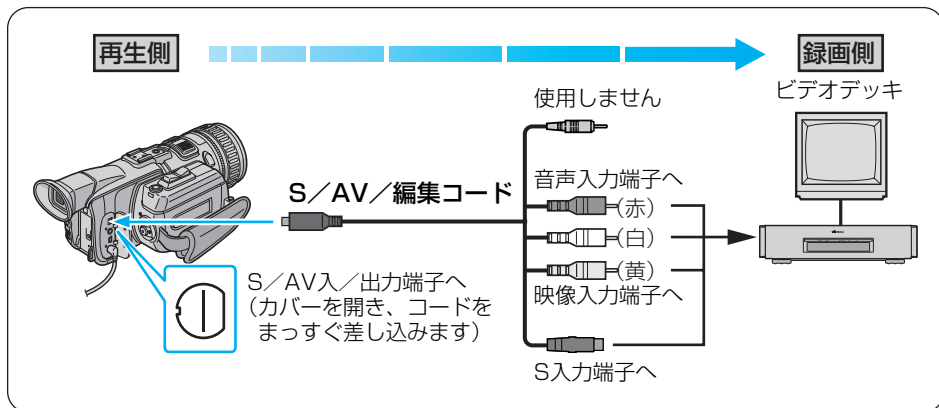
「無記録部分」とは、テープに何も録画されていない部分のことです。ここから撮影を開始すると、タイムコードは必ず「00:00:00」から記録されます。
同じタイムコードが２カ所以上に存在すると、自動編集時に誤動作する原因となります。
また、無記録部分からナビで頭出しすることはできません。

次の状態のときは、無記録部分から撮影しないように、前に撮影した映像の終わりを確かめてから撮影してください。

- 途中まで撮影したテープを使うとき
- 再生したことのあるテープを使うとき
- カセットカバーを開閉したとき
- 撮影の途中で電源やバッテリーが切れたとき

ビデオをダビングする

ビデオデッキへダビングする（アナログダビング）

ビデオカメラで撮影したテープから、ビデオデッキのテープへダビングできます。S入力端子付きのビデオデッキに接続すると、より高画質の映像をダビングできます。
「SD」や「HD」で撮影した映像は、DVフォーマット（525i、NTSC信号）に変換されます。

ダビングする

1 **ビデオカメラの電源を切り、ACアダプターを接続する**

- ACアダプターの取り付け（☞P.70）

2 **ビデオデッキとビデオカメラをS／AV／編集コードで接続する**

- ビデオデッキにS入力端子があるときは、S入力端子も接続します。
- 必ず、別売アクセサリーキット(VU-HD1K)のコードを使用してください。

3 **ビデオカメラでビデオを再生する**

- ビデオを再生するには（☞P.64）

4 **ダビングを開始したいところで、ビデオデッキの録画ボタンを押す**

録画を開始します。

5 ダビングを終了したいところで、ビデオデッキの停止ボタンを押す

録画を終了します。

画面の文字や記号を隠すには

再生日時／表示設定メニューで、次のように設定します（☞ P.173）。

- 画面表示切替 →モニター、または切
- 日時表示 →切
- タイムコード →切

- ACアダプターの代わりにバッテリーを使用すると、ダビング中にバッテリーが切れて失敗することがあります。ACアダプターを使って操作することをお勧めします。
- ご使用になるビデオデッキの取扱説明書もご覧ください。
- カットしたい映像があるときはビデオデッキの一時停止ボタンを押してダビングを一時停止させ、ダビングしたい場面がテレビや液晶画面に現われたら録画を再開してください。

ビデオをダビングする

デジタルでダビングする

i.LINK 端子付きビデオ機器をお持ちの場合、i.LINK ケーブルを使ってダビングできます。
デジタル信号でダビングするため、画質と音質はほとんど劣化しません。
他社製の DV 端子付きビデオカメラや、当社製の DV 端子付きビデオカメラ（GR-DVP7 など）で録画できるのは、撮影モードを「DV」にして撮影した映像のみです。「SD」や「HD」で撮影した映像は、HS モード付き D-VHS ビデオデッキか GR-HD1 で録画できます。

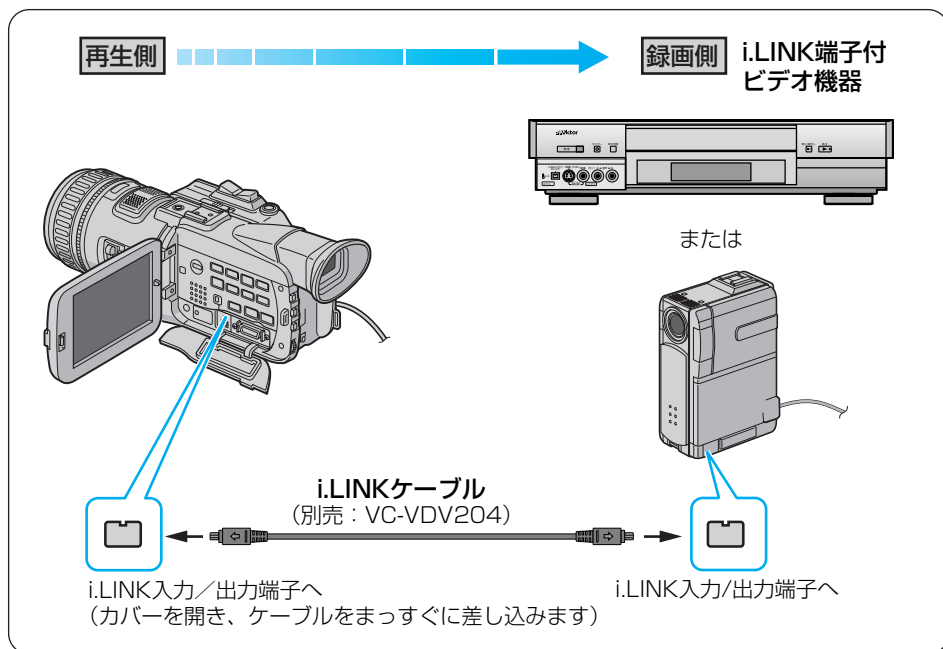
再生側

録画側　i.LINK端子付
ビデオ機器

または

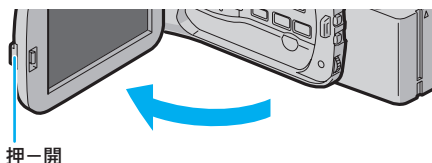
i.LINKケーブル
（別売：VC-VDV204）

i.LINK入力／出力端子へ
（カバーを開き、ケーブルをまっすぐに差し込みます）

i.LINK入力/出力端子へ

●i.LINK ケーブルを使用してパソコンに映像を取り込むこともできます。詳しくは、別売アクセサリーキット(VU-HD1K)のソフトウェア取扱説明書をご覧ください。

出力設定をする

ビデオカメラとi.LINK端子付きビデオ機器を接続する前に、出力する映像の種類を設定します。

1 **「押ー開」ボタンを押して液晶画面を開く**

2 **電源ダイヤルの「再生」をランプの位置に合わせ、システム設定メニューの「i.LINK 設定」を「SW優先」または「自動」に設定する(☞ P.182)**

- 通常は、「SW優先」に設定します。将来的にDVフォーマット、MPEG2フォーマットの信号を自動で判別できる機器に映像を出力する場合は、「自動」に設定し、「ダビングする」(☞ P.144)に進んでください。

3 **「DV」で撮影した映像を出力する場合は、i.LINK出力選択スイッチを「DV」の位置に合わせる「SD」、または「HD」で撮影した映像を出力する場合は、i.LINK出力選択スイッチを「MPEG2」の位置に合わせる**

「DV」の場合

「SD」、「HD」の場合

ビデオをダビングする

ダビングする

1 ビデオカメラの電源を切り、AC アダプターを接続する

- AC アダプターの取り付け（☞ P.70）

2 i.LINK 端子付きビデオ機器とビデオカメラを i.LINK ケーブルで接続する

3 ビデオカメラでビデオを再生する

- ビデオを再生するには（☞ P.64）

4 ダビングを開始したいところで、i.LINK 端子付きビデオ機器の録画ボタンを押す

録画を開始します。

5 ダビングを終了したいところで、i.LINK 端子付きビデオ機器の停止ボタンを押す

録画を終了します。

本機を録画側として使うには

i.LINK 端子付きのデジタル機器から映像を取り込んでビデオカメラのテープにダビングできます。

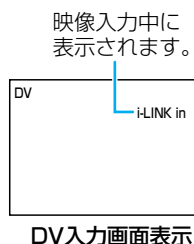
1 電源ダイヤルの「再生」をランプの位置に合わせ、ビデオ再生モード設定メニューの「アナログ入力」を「切」に設定する(☞ P.219)。

2 録画モードを選ぶ（☞ P.177）。

3 再生側の DV 機器を「再生」モードにする。

4 撮影ボタンを押すと、画面上に「i-LINK in」表示が出て録画停止状態になります。

映像入力中に表示されます。

DV入力画面表示

5 録画停止状態で撮影ボタンを押すと、録画を開始して、⁜表示が回転します。

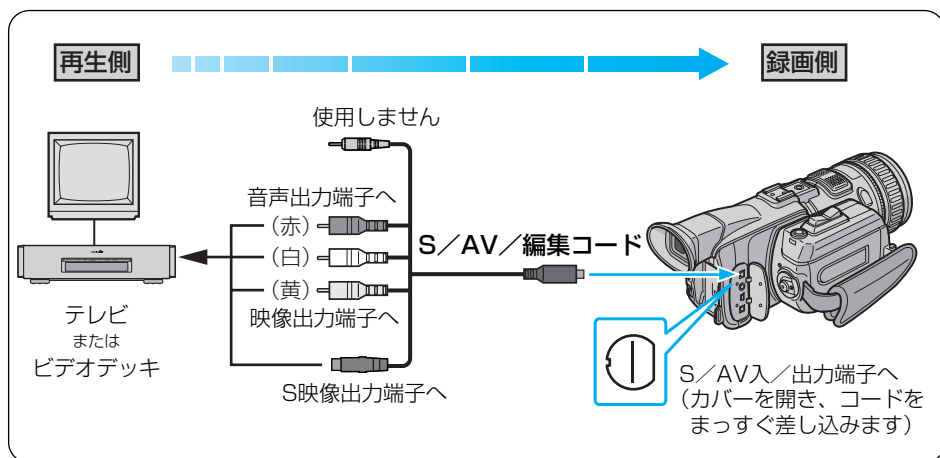
6 再び撮影ボタンを押すと、録画停止状態になり、⁜表示の回転が停止します。

7 通常の再生モードに戻るには「■」ボタンを押します。

- 再生側が映像の乱れた部分や無記録部分を再生すると、異常な映像が記録されたり、ダビングが停止することがあります。
- 本機を録画用として使う場合、液晶画面に再生側の映像が表示されないときは、ビデオ再生モード設定メニューの「アナログ入力」を「切」にしてください。(☞ P.219)
- i.LINK 入力／出力端子から MPEG 映像を取り込んでつなぎ撮りすると、つなぎの部分が乱れます。

- AC アダプターの代わりにバッテリーを使用すると、ダビング中にバッテリーが切れて失敗することがあります。AC アダプターを使って操作することをお勧めします。
- ご使用になる i.LINK 端子付きビデオ機器の取扱説明書もご覧ください。
- 再生時に「場面切替」「再生演出効果」「再生ズーム」「タイムコード」を設定していても i.LINK 出力端子からは、テープの通常再生映像しか出力しません。
  これらの演出を録画したいときは、S ／ AV ／編集コードを使ってダビングしてください(☞P.140)。
- MPEG2 映像を取り込んで録画する場合、ビデオカメラの液晶画面、またはファインダーに映像が表示されないときがあります。映像が表示されない場合でも、録画は行われています。録画終了後、録画した映像を見るには、D-VHS と本機を i.LINK ケーブルで接続した状態で再生してください。詳しくは、D-VHS の取扱説明書をご覧ください。
- コピーガードがかかっている MPEG2 映像などの場合、ビデオカメラで録画できないことがあります。

ビデオ機器やテレビからダビングする

ビデオデッキなどのi.LINK端子を持たないビデオ機器やテレビから、映像を取り込んでビデオカメラのテープにダビングできます。S／AV／編集コードで接続した場合、取り込まれた映像は、すべてDVフォーマットでダビングされます。

1 ビデオカメラの電源を切り、ACアダプターを接続する

- ACアダプターの取り付け（☞P.70）

2 ビデオ機器やテレビと、ビデオカメラをS／AV／編集コードで接続する

- ビデオ機器やテレビにS出力端子があるときは、S出力端子も接続します。
- 必ず、別売アクセサリーキット(VU-HD1K)のコードを使用してください。

3 再生モード選択スイッチを「ビデオ」の位置に合わせる

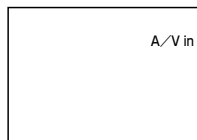
4 電源ダイヤルの「再生」をランプの位置に合わせ、ビデオ再生モード設定メニューの「アナログ入力」を「A／V入力」または「S入力」に設定する（☞ P.219）

- ビデオ機器やテレビにのS出力端子に接続したときは「S入力」に、その他のときは「A／V入力」に設定します。

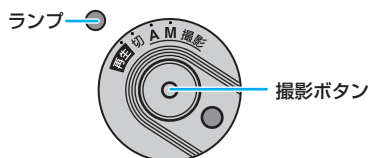
5 ビデオ機器の電源を入れる

- 画面に映像を出します。

6 ビデオカメラの撮影ボタンを押す

画面に「A／V in」または「S in」と表示され、録画停止状態になります。

7 ビデオデッキでビデオを再生する

8 ダビングを開始したいところで、ビデオカメラの撮影ボタンを押す

録画を開始して、表示が回転します。

9 ダビングを終了したいところで、もう一度撮影ボタンを押す

録画を終了して、表示の回転が停止します。

10 通常の再生モードに戻るには「■」ボタンを押す

ビデオを編集してみよう編

ダビングしたテープを再生するには

電源ダイヤルを「再生」の位置に合わせ、再生ボタンを押します。

- AC アダプターの代わりにバッテリーを使用すると、ダビング中にバッテリーが切れて失敗することがあります。AC アダプターを使って操作することをお勧めします。
- ご使用になるビデオ機器の取扱説明書もご覧ください。
- ダビングしたビデオテープをテレビで見るには（☞P.71）。

- アナログ入力時、ご使用のビデオ機器や再生するテープにより、映像が乱れることがあります。
- 「アナログ入力」を「A ／ V 入力」または「S 入力」に設定したまま再生すると、ご使用のビデオ機器や再生するテープにより映像が乱れることがあります。

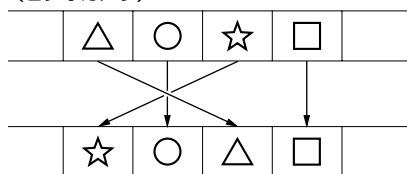
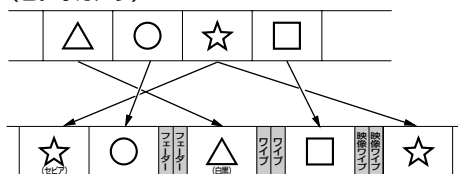
ビデオを編集する

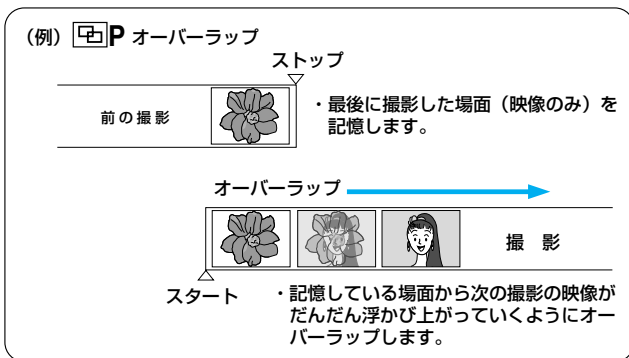
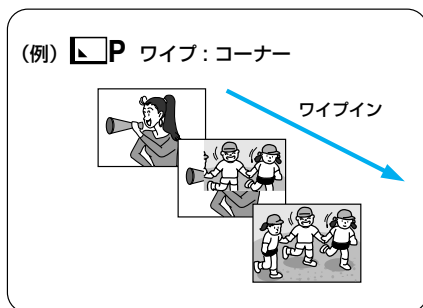
自動で編集する

撮影済みのビデオからお好きな場面を８つまで選び、ビデオデッキのテープに自動的にダビングできます。次の機能と合わせて使うと、テレビドラマや映画のようなビデオを作成できます。自動編集でダビングできるのは、撮影モードを「DV」にして撮影した映像のみです。「SD」や「HD」で撮影した映像は自動編集できません。

アフレコ編集　：ナレーションや音声を追加します（☞P.164）。
場面切替効果　：場面と場面のつなぎ目に効果を加えます（☞P.112）。
また、自動編集では撮影時に使用できる場面切替効果に加えて、場面の終わりに次の場面を重ねる効果も使用できます（☞P.150）。
エフェクト　：映像に変化をつけます（☞P.116、119）。

知っておきたい自動編集のしくみ

普通に自動編集したときは
撮影済みのビデオの中から最大８つまでの場面を指定して、お好きな順番に並べ替えてダビングすることができます。普通に自動編集すると、ビデオは次のようにダビングされます。

場面切替やエフェクトの効果を入れて自動編集したときは
自動編集するビデオの最初と終わりに場面切替を入れたり、映像そのものにエフェクトの効果をつけてダビングすることができます。場面切替やエフェクト効果を入れて自動編集すると、ビデオは次のようにダビングされます。

自動編集のみで使える場面切替

1）オーバーラップ
これから撮影する映像が、直前に撮影した映像から徐々に浮かび上がります。

2）Pの付いているワイプ効果
直前に撮影した映像に、これから撮影する映像をワイプインでつなぎます。

アイコン	機能名称	効　果
P	オーバーラップ	これから撮影する映像が、直前に撮影した映像から徐々に浮かび上がります。
P	ワイプ：コーナー	これから撮影する映像が、直前に撮影した映像の右上から左下に向かって徐々にワイプインします。
P	ワイプ：ウィンドウ	これから撮影する映像が、直前に撮影した映像の中央から外に向かって徐々にワイプインします。
P	ワイプ：スライド	これから撮影する映像が、直前に撮影した映像の右から左に向かって徐々にワイプインします。
P	ワイプ：ドア	これから撮影する映像が、直前に撮影した映像の中央から左右にドアを開けるように徐々にワイプインします。
P	ワイプ：スクロール	これから撮影する映像が、直前に撮影した映像の下から上に徐々にワイプインします。
P	ワイプ：シャッター	これから撮影する映像が、直前に撮影した映像の中央から上下に徐々にワイプインします。

ビデオを編集する

ビデオデッキのメーカーをリモコンに登録する

自動編集では、別売アクセサリーキット(VU-HD1K)のリモコン（☞P.207）でご家庭のビデオデッキを操作します。ここでは、ご家庭のビデオデッキのメーカーをリモコンに登録する方法を説明します。

1 ビデオデッキの電源を切る

2 ご使用のビデオデッキのメーカー名を確認する

3 「リモコンメーカー設定表」（次ページ）とメーカー名を対応させる

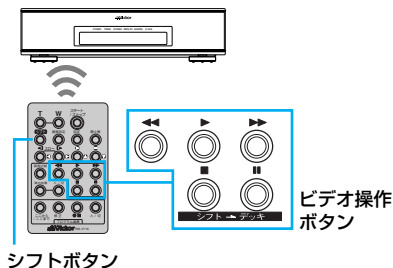
4 リモコンの「設定」ボタンを押したまま、設定表の「①」に書かれているボタンを押す

- 「設定」ボタンを押したまま、「リモコンのボタン 1」を押し、「設定」ボタンの指を離さずに「リモコンのボタン 2」を押します。

ビデオデッキの電源が入り、登録が完了します。

5 ビデオデッキの電源が入らない場合は、「②」「③」…の組み合わせのボタンを押す

リモコンでビデオデッキを操作するには

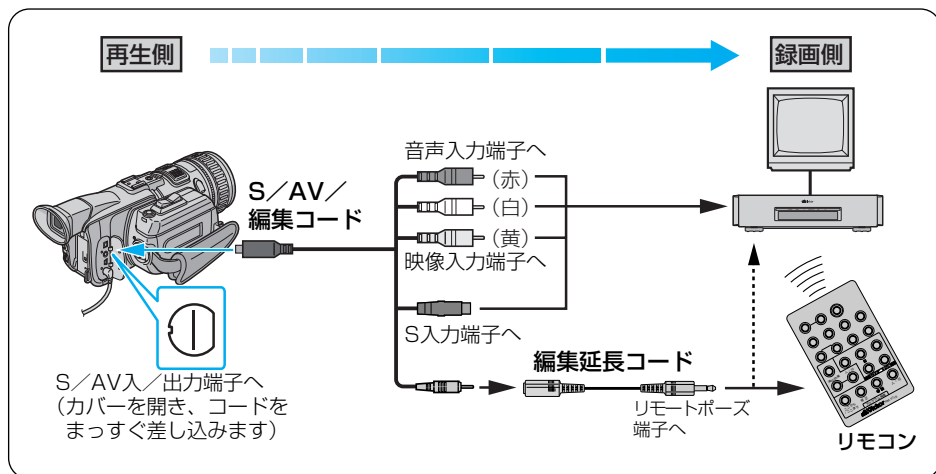
「シフト」ボタンを押したまま、各操作ボタンを押します。
ビデオデッキのリモコン受光部に向けて操作してください。

リモコンメーカー設定表

メーカー名	リモコン信号	リモコンのボタン1	リモコンのボタン2
ビクター	①	●❚❚（ビデオ準備）	◀◀（巻戻し）
	②	●❚❚（ビデオ準備）	■（停止）
	③	●❚❚（ビデオ準備）	（シフト）
アカイ	①	■（停止）	▶▶（早送り）
	②	■（停止）	▶（再生）
	③	（ここから/ここまで）	（ここから/ここまで）
サンヨー	①	■（停止）	▶（再生）
	②	（シフト）	❚❚（一時停止）
	③	（シフト）	（プログラム編集入/切）
	④	（ここから/ここまで）	●❚❚（ビデオ準備）
シャープ	①	◀◀（巻戻し）	❚❚（一時停止）
	②	◀◀（巻戻し）	（プログラム編集入/切）
ソニー	①	■（停止）	❚❚（一時停止）
	②	■（停止）	（プログラム編集入/切）
	③	（シフト）	●❚❚（ビデオ準備）
	④	（シフト）	◀◀（巻戻し）
東芝	①	■（停止）	●❚❚（ビデオ準備）
	②	■（停止）	◀◀（巻戻し）
NEC	①	（シフト）	（ここから/ここまで）
	②	（シフト）	（修正）
日立	①	■（停止）	■（停止）
	②	■（停止）	（シフト）
フナイ	①	（ここから/ここまで）	（シフト）
松下	①	◀◀（巻戻し）	（シフト）
	②	◀◀（巻戻し）	（ここから/ここまで）
	③	◀◀（巻戻し）	◀◀（巻戻し）
	④	●❚❚（ビデオ準備）	▶（再生）
	⑤	◀◀（巻戻し）	（修正）
三菱	①	■（停止）	（ここから/ここまで）
	②	■（停止）	（修正）
LG	①	◀◀（巻戻し）	◀◀（巻戻し）
SAMSUNG	①	●❚❚（ビデオ準備）	▶（再生）

- **リモコンの乾電池がなくなったときは**
  設定したビデオデッキのメーカー設定も消えてしまいます。乾電池を交換してメーカー設定をやり直してください。
- **リモコンでビデオデッキを操作できないときは**
  機種によってはリモコンでのビデオデッキのメーカー設定ができないものや、特定のボタンだけ操作できないものもあります。ご了承ください。

ビデオを編集する

好きな場面を選んでダビングする

ここでは、ビデオから編集したい場面を選び、ビデオデッキのテープへ自動的にダビングする方法を説明します。
場面と場面の間に場面切替の効果を使う方法と、場面にエフェクトの効果を使う方法については、操作手順の間の メモ で説明します。自動編集に慣れてからお読みください。

1 **ビデオカメラの電源を切り、ACアダプターを取り付け、S／AV／編集コードでビデオデッキと接続する**

- ACアダプターの取り付け（☞P.70）
- ビデオデッキと接続するには（☞P.140、142）

2 **S／AV／編集コードの編集端子を編集延長コードに接続し、編集延長コードをリモコンに接続する**

- 別売アクセサリーキット(VU-HD1K)の編集延長コードを使用してください。

3 **「押－開」ボタンを押して液晶画面を開く**

4 ビデオカメラでビデオを再生する

- ビデオを再生するには（☞P.64）

液晶画面とテレビに映像が表示されます。

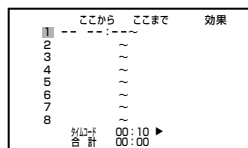
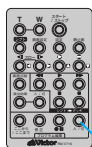
●画面に表示されるメッセージを消して自動編集してください
テレビの画面に表示されるメッセージは、自動編集でもそのまま記録されます。再生日時／表示設定メニューで次のように設定して、メッセージを消してから自動編集してください（☞ P.173）。
（自動編集表示は自動編集をスタートすると消え、ビデオには記録されません）。

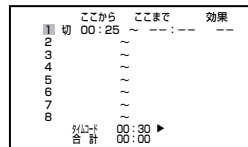
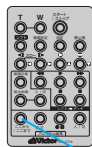
●画面表示切替 →モニター、または切

●日時表示　　→切

●タイムコード →切

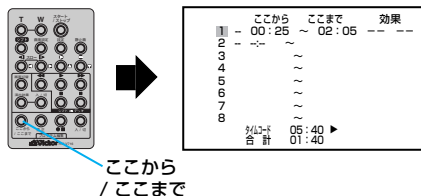
5 リモコンをビデオカメラのリモコン受光部に向け、「入／切」ボタンを押す

液晶画面に自動編集表示画面が表示されます。自動編集表示画面を消すには「入／切」ボタンを押します。

6 ダビングを開始したい場面が表示されたときに、「ここから／ここまで」ボタンを押す

開始場面のタイムコードが表示されます。

●場面の撮り始めに変化を付けたいときは（☞ P.112、150）
リモコンの「場面切替」ボタンを押します。ボタンを押すたびに液晶画面やテレビに表示される場面切替アイコンが変わります。利用したい場面切替アイコンが表示されるまでボタンを押してください。フェーダーやワイプを使用できます。
ただし、デジタルダビングでは変化を付けることはできません。

次へ続く

7 ダビングを終了したい場面が表示されたときに、「ここから／ここまで」ボタンを押す

終了場面のタイムコードが表示されます。

- **場面の撮り終わりに変化を付けたいときは（☞P.112、150）**
  リモコンの「場面切替」ボタンを押します。ボタンを押すたびに液晶画面やテレビに表示される場面切替アイコンが変わります。利用したい場面切替アイコンが表示されるまでボタンをくり返し押してください。
  ただし、デジタルダビングでは変化を付けることはできません。
- **映像そのものに変化を付けたいときは（☞P.119）**
  リモコンの「演出効果」ボタンを押します。ボタンを押すたびに液晶画面やテレビに表示される効果アイコンが変わります。ただし、デジタルダビングでは変化を付けることはできません。

8 手順６～７を繰り返して、場面を登録する

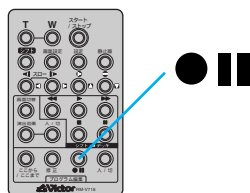
- ８つまで登録できます。

- 場面の始めに場面切替を設定したときは、設定した効果のアイコンがカウンターの左側に表示されます。場面の終わりに場面切替を設定したときは、設定した効果のアイコンがカウンターの右側に表示されます。場面に再生効果を設定したときは、設定した効果のアイコンが「効果」に表示されます。何も設定していないときは「－－」が表示されます。

9 ビデオカメラのテープを巻き戻し、タイムコード（例 00:25より前）付近まできたら一時停止する

10 リモコンをビデオデッキのリモコン受光部に向け、「●Ⅱ」ボタン（ビデオ準備ボタン）を押す

ビデオデッキが録画一時停止の状態になります。

- リモコンで録画一時停止の状態にならないときは、ビデオデッキ本体を操作してください。

11 ビデオカメラの撮影ボタンを押す

自動編集が始まり、ビデオデッキのテープに映像がダビングされます。ダビングが終わると、ビデオカメラが停止の状態になり、ビデオデッキは録画一時停止の状態になります。

12 ビデオカメラとビデオデッキを停止する

自動編集が終了します。

- **各場面のタイムコードとタイムコードの合計時間は**
  編集開始場面と終了場面のタイムコードには1秒以下の数値（フレーム）が表示されないため、各場面のタイムコードの時間と合計時間が合わないことがあります。
- **自動編集の登録場面を修正したいときは**
  リモコンの「修正」ボタンを押します。ボタンを押すたびに最後から登録場面が消去されます。
- **ダビング中のリモコンの位置は**
  ビデオデッキのリモコン受光部に向けてください。障害物があるとうまくダビングできません。
- **ビクターのリモートポーズ端子付ビデオデッキをお使いのときは**
  S／AV／編集コードの編集端子をビデオデッキのリモートポーズ端子に接続してお使いになることができます（☞P.154）。このとき、リモコンは使用しません。
- **ご使用になるビデオデッキの取扱説明書もご覧ください。**

- こんなときは自動編集できません
  - 同じタイムコード（☞P.137）が２つ以上存在するテープでは、タイムコードを指定しても、どのタイムコードかわからないため誤動作することがあります。
  - 編集終了場面のタイムコードの値が編集開始場面の値より小さいときは自動編集できません。
  - 編集終了場面と開始場面までの早送り時間がビデオデッキの一時停止可能時間（当社製ビデオデッキの場合約５分以内）を超えるときは、自動編集できません。
  - リモコンのプログラム編集「入／切」ボタンを押して「切」にしたときは、自動編集に登録した内容がすべて消えてしまいます。
  - 編集開始場面や終了場面の前後に無記録部分があるときは、ブルーバック（青い画面）を記録してしまうことがあります。
  - 自動編集中にビデオカメラを操作すると、ビデオデッキが録画一時停止状態になり、自動編集を中止します。

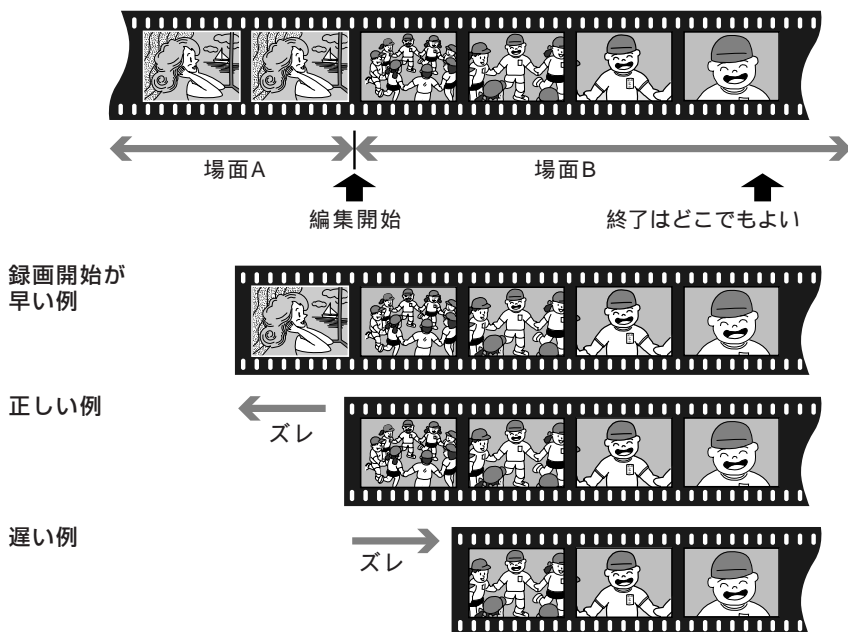
より正確に自動編集する［シンクロ補正］

ビデオデッキには反応の早いものと遅いものがあります。自動編集でビデオカメラの再生とビデオデッキの録画を同時に開始しても、録画開始のタイミングがズレたために前の場面が残っていたり、場面の最初が欠けていたりすることがあります。
ズレを防ぐには、録画のタイミングをあらかじめ補正します。

録画タイミングのズレを確認する

映像の区切りと時間の経過が判りやすいビデオを用意し、これを自動編集してみます。編集後にビデオデッキのテープを再生して、指定したタイミングからどの程度ズレてダビングが開始されているか確認します。

1 場面を１つだけ自動編集する

- 自動編集するには（☞P.149）
- 編集を開始する場面には、映像の変化が判りやすいところを選んでください。

次へ続く

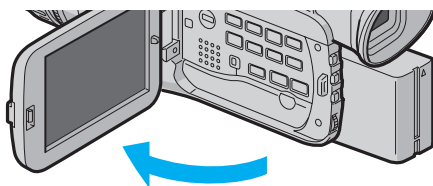
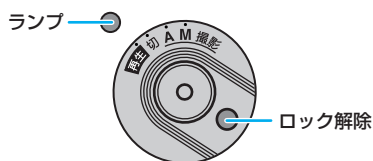
2 ビデオデッキのテープを巻き戻し、再生する

3 録画のタイミングのズレ（秒）を確認する

- **自動編集を行う前に**
  数回自動編集のテストを行って補正値が適切であることを確認してから、最終的な自動編集を行ってください。

録画タイミングのズレを補正する

録画のタイミングがズレていたときは、ビデオカメラでタイミングのズレを補正します。

1 液晶画面を開く

2 再生モード選択スイッチを「ビデオ」の位置に合わせる

3 「再生」をランプの位置に合わせる

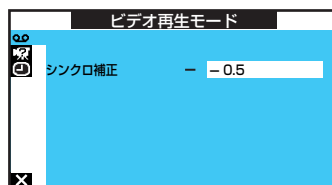
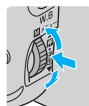
4 「メニュー／決定」レバーを押してメニューを表示し、もう一度押して決定する

ビデオ再生モード設定メニューが表示されます。

5 「シンクロ補正」を選び、決定する

6 レバーで数値を設定し、決定する

- ビデオデッキの録画開始が
  早い → －値にする
  遅い → ＋値にする

  （例）ビデオデッキの録画が 0.5 秒早く開始している場合、▼側に動かして「– 0.5」に設定します。
- 設定範囲は－ 1.3 〜＋ 1.3 秒です。

7 レバーを 2 回押して再生画面に戻る

- **補正しても録画タイミングが合わないときは**
  ビデオデッキによっては、録画タイミングのズレを補正しきれないことがあります。ご了承ください。

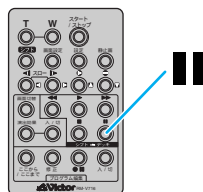
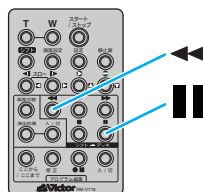
ビデオに映像を追加する[インサート編集]

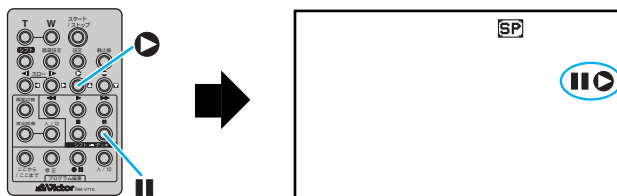
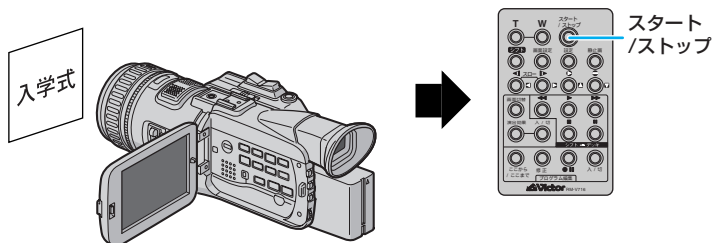
録画モードSPで録画済のテープに、あとでタイトルなど別の場面を挿入できます。インサート編集を行う前に、タイトルを書いた紙などを用意してください。
インサート編集ができるのは、撮影モードを「DV」にして撮影した映像のみです。「SD」や「HD」で撮影した映像はインサート編集できません。
インサート編集には、別売アクセサリーキット（VU-HD1K）のリモコンを使用します（☞P.207）。

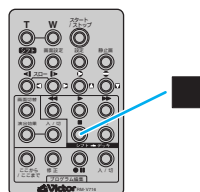
1 ビデオカメラでビデオを再生する

- ビデオを再生するには（☞P.64）

2 インサート編集を終える場面で一時停止する

- 終える場面のタイムコードを確認してください。
- タイムコード表示が出ていないときは（☞P.137）

3 「◀◀」ボタンを押してインサート編集を開始する場面まで巻き戻し、「❚❚」ボタンを押す

4 「❚❚」ボタンを押したまま、「▶」ボタンを押す

液晶画面に「❚❚▶」アイコンが表示されます。

5 インサートするタイトルなどをカメラに映るようにして「スタート／ストップ」ボタン（またはビデオカメラの撮影ボタン）を押す

6 手順2で確認したタイムコードの位置で、「スタート／ストップ」ボタンを押してインサートを終了する

7 「■」ボタンを押して、インサート編集を終了する

- **インサート編集するときは**
  撮影モード選択スイッチを「DV」の位置に合わせてください。「SD」または「HD」の位置に合っていると、インサート編集できません。
- **挿入する画面にエフェクトの効果を加えたいときは**
  インサート編集を行う前に、エフェクトを設定してください（☞P.116、119）。
- **インサート編集したあとの映像と日時は**
  新しい映像と日時が上書きされます。

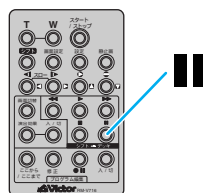
- **画面に「インサート録画できません」と表示されたときは（☞P.224）**
  LPモードで撮影したテープ、誤消去防止用ツマミが「SAVE」側になっているテープ、およびテープの無記録部分ではインサート編集できません。

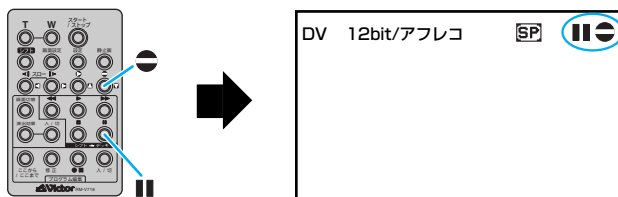
ビデオに音声を追加する［アフレコ編集］

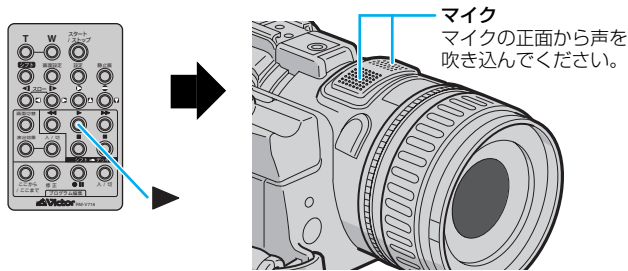
撮影したビデオには、あとでナレーションを追加したり、吹き替え音声を録音したりできます。「SD」または「HD」で撮影した映像はアフレコ編集できません(☞ P.224)。
アフレコ編集には、別売アクセサリーキット（VU-HD1K）のリモコンを使用します（☞P.207）。

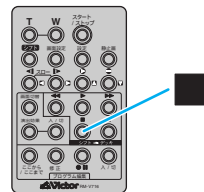
1 ビデオカメラでビデオを再生する

- ビデオを再生するには（☞P.64）

2 アフレコ編集をしたいところで一時停止する

3 「❚❚」ボタンを押したまま、「⊖」ボタンを押す

液晶画面に「❚❚⊖」アイコンが表示されます。

4 「▶」ボタンを押し、ビデオカメラのマイクに向かって音声を吹き込む

アフレコ編集が始まり、音声が記録されます。

5 「■」ボタンを押して、アフレコ編集を終了する

- 再生時にアフレコした音声を聞くには、「音声切替」の設定を変更してください（☞P.166）。

●別の場面からアフレコ編集を再開したいときは
リモコンの「❚❚」ボタンを押します。ビデオが一時停止状態になります。リモコンの「■」ボタンを押してアフレコ編集を終了し、アフレコ編集を再開したい場面を表示させてから編集を再開してください。

●外部機器を使ってアフレコ編集したいときは
外部機器をS／AV入／出力端子に接続して、ビデオ再生モード設定メニューの「アナログ入力」を「A／V入力」または「S入力」に設定してください（☞ P.219）。外部機器の音をヘッドホンで聞くには、ビデオ再生モード設定メニューの「DVアフレコ音声」を「入」に設定します（☞ P.166）。

●画面に「音声アフレコできません」と表示されたときは
DVフォーマットで記録した場合、LPモードで撮影した映像、または16bitの音声を記録した映像にはアフレコ編集できません。

●MPEG2フォーマットで記録した場合、アフレコ編集できません。

●テレビから「ピー」「ウワーン」というノイズ音が出るときは
テレビからビデオカメラを離すか、テレビの音量を下げてください。

再生時の音声を切り替える

音声切替とアフレコ音声

アフレコ編集したビデオでは、撮影時の音声とアフレコ時に録音した音声（アフレコ音声）の再生を選択できます。また、ビデオカメラは常にステレオ音声で録音しますが、左右どちらかの音声のみを再生することもできます。

アフレコ音声の切り替え［DV アフレコ音声］

撮影時の音声を再生するか、アフレコ音声を再生するか設定します。

- **切**　：撮影時の音声
- **入**　：アフレコ音声
- **ミックス**　：撮影時の音声とアフレコ音声（同時に再生）

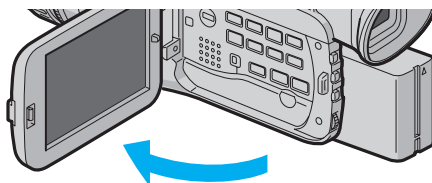
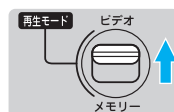
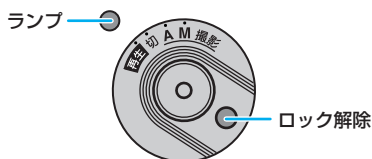
ステレオ音声の切り替え［音声切替］

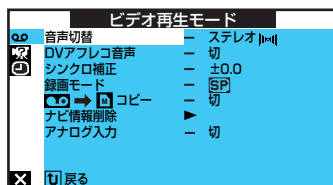
ビデオの音声をステレオまたは左右どちらかのみで再生するか設定します。

- **ステレオ**　：ステレオ（左右どちらも再生）
- **音声 L**　：左の音声のみ
- **音声 R**　：右の音声のみ

音声切替の操作

ここでは、アフレコ音声をステレオで再生するように設定してみます。

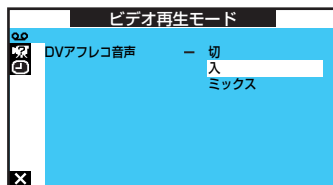
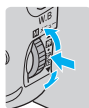
1 液晶画面を開く

2 再生モード選択スイッチを「ビデオ」の位置に合わせる

3 「再生」をランプの位置に合わせる

4 「メニュー／決定」レバーを押してメニューを表示し、もう一度押して決定する

ビデオ再生モード設定メニューが表示されます。

5 「音声切替」が「ステレオ」に設定されていることを確認する

- 「音声L」または「音声R」になっている場合は、「ステレオ」に変更してください。

6 レバーで「DVアフレコ音声」を選び、決定する

「入「切」などが表示されます。

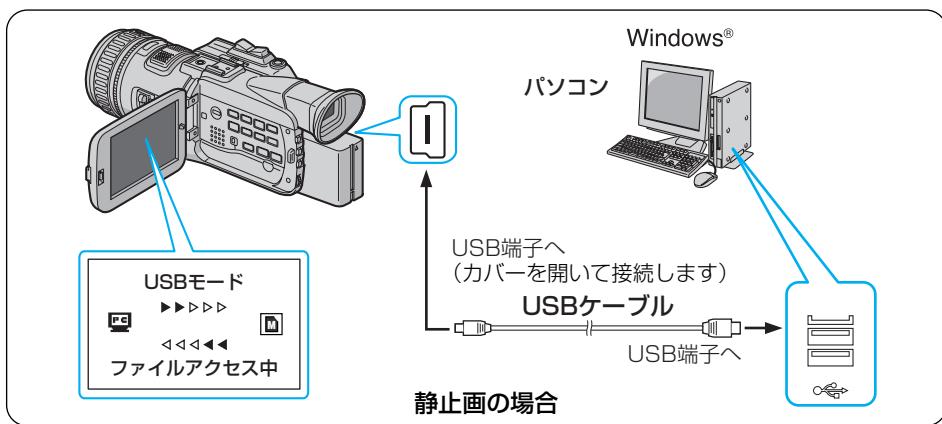
7 「入」を選び、決定する

8 レバーを2回押して再生画面に戻る

- ビデオカメラは、ビデオの音声モードを自動判別して再生します。ビデオを再生すると、画面の左上に再生中の音声モードが表示されます（早送り/巻戻し再生中は自動判別できません）。

映像をパソコンで利用する

USB ケーブルなどで接続する

別売アクセサリーキット（VU-HD1K）のソフトウェア CD-ROM からお使いのパソコンにソフトウェアをインストールすると、メモリーカードに記録した静止画を USB ケーブルを使ってパソコンに取り込んだり、MPEG フォーマットの映像を別売の i.LINK ケーブルを使用してパソコンに取り込むことができます。

- パソコンの操作については、パソコン付属の取扱説明書をご覧ください。
- ソフトウェア CD-ROM やケーブルの取り扱い、および接続時の本機の操作については、別売アクセサリーキット（VU-HD1K）に付属の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

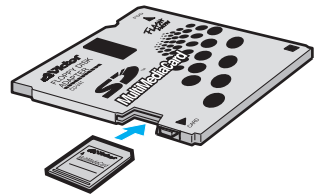
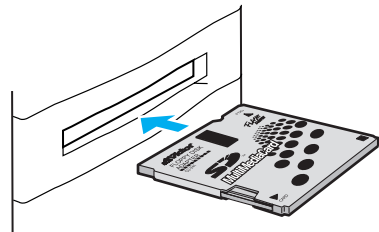
- 本機の電源には、AC アダプターをお使いになることをお勧めします。
- 画面に「ファイルアクセス中」と表示されている間は USB ケーブルや DV ケーブルを抜かないでください。故障の原因になります。
- USB ケーブルを USB ハブに接続して正常に動作しないときは、パソコン本体の USB 端子と接続してください。
- USB ケーブルの延長ケーブルは使用しないでください。
- 新たに購入したメモリーカード（別売： VU-HD1K 付属のメモリーカードを除く）をご使用になる場合は、ご使用の前に本機でメモリーカードを初期化（フォーマット）してください（☞ P.192）。ビデオカメラとパソコンを USB ケーブルで接続したときに、ファイルのコピーができないことがあります。
- USB ケーブルでパソコンと接続してビデオを再生するときは、次の機能をご利用になれません。
  ナビ機能(☞ P.126)、テープからメモリーカードへのコピー(☞ P.130)

フロッピーアダプターまたはPCカードアダプターで読み込む

別売のPCカードアダプター（CU-V51）やフロッピーディスクアダプター（CU-V41）、USBリーダー／ライター（CU-V70）を使うとメモリーカードに記録した静止画をパソコンに取り込むことができます（3種類ともにSDメモリーカード・マルチメディアカードに対応しています）。
ここでは、フロッピーディスクアダプターを使ってパソコンに取り込む方法を説明します。

1 メモリーカードを取り出す

- メモリーカードを取り出すには（☞P.36）

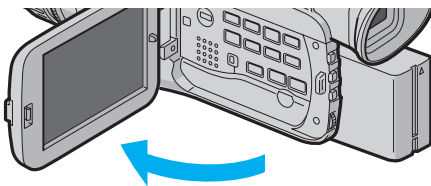
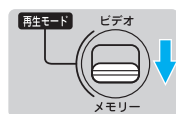
2 メモリーカードをフロッピーディスクアダプターに差し込む

3 パソコンのフロッピーディスクドライブに差し込む

4 パソコンで、フロッピーディスクからハードディスクへファイルをコピーする

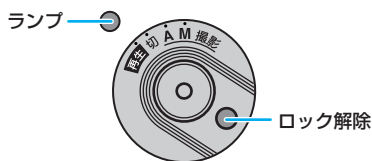
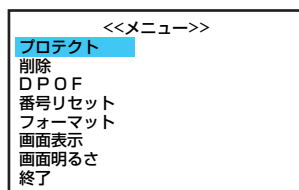
- パソコンの操作については、パソコン付属の取扱説明書をご覧ください。
- PCカードアダプター、フロッピーディスクアダプター、USBリーダー／ライターの取り扱いについては、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

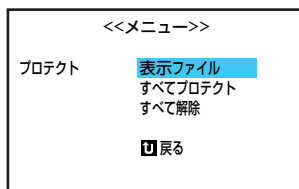
ファイルを削除できないようにする[プロテクト]

メモリーカードのファイルにプロテクトをかける

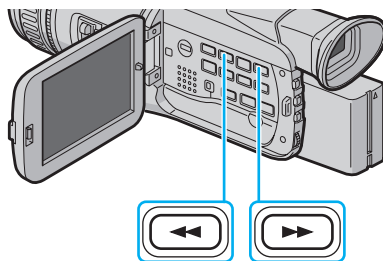
間違えて削除しないように、大切なファイルにはプロテクトをかけることをお勧めします。プロテクトをかけたファイルは削除されません。メモリーカードに保存されている静止画にプロテクトをかけることができます。

1 液晶画面を開く

2 再生モード選択スイッチを「メモリー」の位置に合わせる

3 「再生」をランプの位置に合わせる

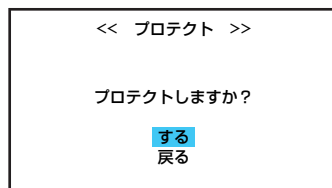
液晶画面に静止画が表示されます。

4 「メニュー／決定」レバーを押して、メニューを表示する

5 もう一度レバーを押す

「表示ファイル」「すべてプロテクト」「すべて解除」が表示されます。

6 もう一度レバーを押す

プロテクト画面が表示されます。

7 「◀◀」または「▶▶」ボタンを押してプロテクトをかける静止画を選ぶ

8 レバーで「する」を選び、決定する

静止画がプロテクトされ、静止画中央に「O┳」マークが表示されます。

- 他の静止画もプロテクトしたいときは、手順７～８を繰り返します。

9 レバーを３回押す

再生画面に戻ります。

すべての静止画をプロテクトしたいときは

手順５で「すべてプロテクト」を選び、決定します。表示された画面で「する」を選び、決定すると、すべての静止画がプロテクトされます。

設定を変えて使いこなそう編

- SD カードのライトプロテクトスイッチを「LOCK」の位置に合わせていると、ファイルにプロテクトをかけることはできません（☞ P.36）。

- ファイルにプロテクトをかけていても、フォーマットした場合は削除されます。必要なファイルはパソコンに転送して保存してください。

ファイルを削除できないようにする［プロテクト］

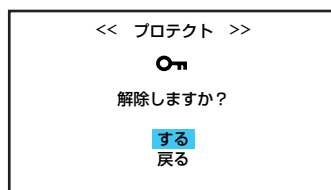
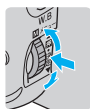
ファイルのプロテクトをはずす

1 「メモリーカードのファイルにプロテクトをかける」（☞ P.170）の手順1～6を行う

プロテクト画面が表示されます。

2 プロテクトをはずしたい静止画を選び、決定する

静止画中央の「🔑」マークが消えます。

- 他の静止画もプロテクトをはずしたいときは、手順2を繰り返します。

3 「メニュー／決定」レバーを３回押す

再生画面に戻ります。

- SDカードのライトプロテクトスイッチを「LOCK」の位置に合わせていると、ファイルのプロテクトをはずすことはできません（☞ P.36）。

画面の表示方法を変更する

ダビングや編集をするときには、画面の文字や記号を隠すことをお勧めします。ここでは、画面の日時表示やメニュー表示を隠す方法と、そのほかの日時／表示設定メニューの項目について説明します。

撮影日時／表示設定メニュー

電源ダイヤルを「**M**」に合わせ、「メニュー／決定」ボタンで設定する。

項　目	設定項目	機　能
画面明るさ		液晶画面やファインダーの明るさを調節する（☞P.51）
画面表示切替	モニター	ＴＶやビデオデッキに、文字や記号を出力しない
	モニター/TV	ＴＶやビデオデッキに、画面と常に同じ表示を出力する
日時表示	切	表示しない
	オート	電源を入れたときなどに５秒間表示する
	入	常に表示する（☞P.135）
タイムコード	切	表示しない
	入	表示する（☞P.137）
年月日時計合わせ	年月日、時刻	日時を設定する（☞P.43）

※：最初の設定値は、▇▇ で表示してあります。

再生日時／表示設定メニュー

電源ダイヤルを「再生」に合わせ、「メニュー／決定」ボタンで設定する。

項　目	設定項目	機　能
画面明るさ		液晶画面やファインダーの明るさを調節する（☞P.51）
画面表示切替	切	画面、TV、ビデオデッキに、文字や記号を出力しない
	モニター	ＴＶやビデオデッキに、文字や記号を出力しない
	モニター/TV	ＴＶやビデオデッキに、画面と常に同じ表示を出力する
日時表示	切	表示しない
	オート	電源を入れたときなどに５秒間表示する
	入	常に表示する（☞P.135）
タイムコード	切	表示しない
	入	表示する（☞P.137）

※：最初の設定値は、▇▇ で表示してあります。

次へ続く

画面の表示方法を変更する

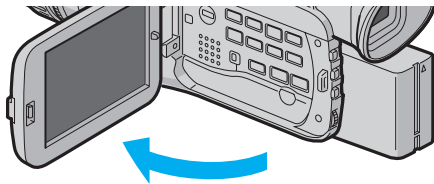
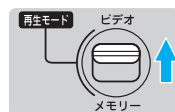
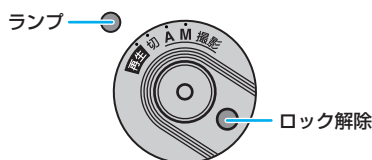
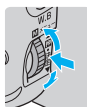
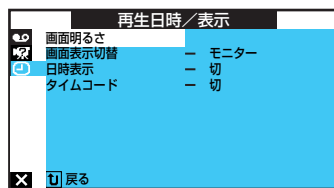
- 「画面表示切替」と「日時表示」と「タイムコード」の設定は、電源ダイヤルを「**A**」、「**M**」に合わせたときと「再生」に合わせたときの内容が、別々に保存されます。
- 「日時表示」の設定はリモコンの「画面表示」ボタンでも切り替えることができます（☞ P.207）。ダビング中に日時表示を隠すのに便利です。

- 画面表示切替が「モニター」または「切」に設定されていても、「日時表示」や「タイムコード」が「入」に設定されていると、日時やタイムコードは画面に表示されます。

  これらをダビングしたくないときは、再生日時／表示設定メニューで「日時表示」や「タイムコード」の設定を「切」にしてください（☞ P.173）。

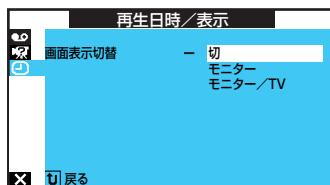
日時／表示設定メニューの設定方法

メニューの操作方法を説明します。例として、再生中に「画面表示切替」の設定を「切」に変更します。

1 液晶画面を開く

2 再生モード選択スイッチを「ビデオ」の位置に合わせる

3 「再生」をランプの位置に合わせる

4 「メニュー／決定」レバーを押してメニューを表示し、「[時計アイコン]」を選んで決定する

再生日時／表示設定メニューが表示されます。

5 「画面表示切替」を選び、決定する

「切」「モニター」「モニター／TV」が表示されます。

次へ続く

6 「切」を選び、決定する

7 レバーを２回押して撮影画面に戻る

撮影設定を変更する

フルオート用の設定を変更する

ここでは、撮影用の設定のなかで、「**A**」と「**M**」の両方で効果がある項目について説明します。

フルオート設定メニュー

電源ダイヤルを「**M**」に合わせ、「メニュー／決定」レバーで設定する。

項　目	設定項目	特　徴	参　照
録画モード テープの撮影時間を1.5倍にする	SP	アフレコ編集・インサート編集可能	P.162 P.164
	LP	撮影時間がSPモードの1.5倍	
DV音声モード アフレコ可能なモードで録音する	12bit	アフレコ編集可能	P.164
	16bit	高音質で録音	
ズーム ズーム倍率の上限を設定する	10倍	光学ズーム（画質が劣化しない）	P.57
	40倍	デジタルズーム	
	200倍	デジタルズーム	
感度アップ 撮影の感度を設定する	切	自然のままの明るさ	P.178
	AGC	電気的に感度アップ	
ナビ 頭出しデータを記録する	マニュアル	「ナビ書込み」ボタンを押したときに記録する	P.96 P.99
	5秒、15秒、30秒、60秒	設定した秒数がたつと自動的に記録する	

※:最初の設定値は、　　　表示してあります。

各項目の補足説明

録画モード

- 本機の「LP」モードで撮影したテープは本機で再生することをお勧めします。他のデジタルビデオではうまく再生できない場合があります。

音声モード

- アフレコ編集をするには、あらかじめ「12bit」に設定して撮影してください。一方、「16bit」に設定すると、より高音質で録音できます。
- どちらのモードでも、ステレオで録音されます。
- 従来のビクター製ビデオカメラでは、12bit 音声を 32KHz 音声、16bit 音声を 48KHz 音声と表現しています。

次へ続く

撮影設定を変更する

ズーム

● 10 倍まではレンズの機能で映像をズームしますが、10 倍以上は映像をデジタル処理するため、映像品質が少し劣化します。

感度アップ

●「AGC」で撮影した画面は、デジタル映像を処理して実際よりも明るい映像を記録します。ただし、映像がザラザラした感じになります。

ナビ

●メモリーカードに記録される頭出しデータは、 1 件につき約 4 KB です。

静止画撮影設定メニュー

電源ダイヤルを「**M**」に合わせ、「メニュー／決定」レバーで設定する。

項　目	設定項目	特　徴	参　照
画質設定 静止画の画質を設定する	ファイン	高画質（撮影枚数が少ない）	P.102
	スタンダード	撮影枚数が多い	
静止画サイズ 静止画の画像サイズを設定する	640×480		P.102
	1280×960		
記録選択 静止画の記録方法を設定する	➡テープ	テープのみに記録する	P.92
	➡テープ／➡カード	テープとカード両方に記録する	

※：最初の設定値は、■■■ で表示してあります。

各項目の補足説明

画質設定

● ファインモードでは、画像の圧縮率が低いため、高画質になります。スタンダードよりもデータサイズが大きくなります。

静止画サイズ

● 1280 × 960 ドットの方がきれいに印刷できますが、メモリーカードに記録できる枚数は少なくなります。印刷を目的としない場合は、640 × 480 ドットに設定することをお勧めします。

記録選択

● ビデオテープに静止画を撮るときに、静止画をメモリーカードにも記録するかどうかを選択できます（☞P.92）。

●「➡テープ／➡カード」に設定し、ビデオカメラにテープが入っていないときには、メモリーカードにのみ記録されます。

マニュアル用の設定を変更する

ここでは、撮影用の設定のなかで、「**M**」を選択したときに効果がある項目について説明します。

マニュアル設定メニュー

電源ダイヤルを「**M**」に合わせ、「メニュー／決定」レバーで設定する。

項　目	設定項目	特　徴	参　照
手ぶれ補正 手ぶれ補正を設定する	切		P.180
	入	手ぶれによる映像のブレを低減する	
セルフタイマー セルフタイマーを設定する	切	セルフタイマーを動作させない	P.88
	入	15秒後に撮影する	
5S 5秒撮影のモードを設定する 撮影モード選択スイッチを「DV」にしているときのみ有効です。	切		P.180
	5S	5秒間だけ撮影する （スナップショットムービー）	
	アニメ	1/8秒間だけ撮影する （アニメーション制作）	
テレマクロ 接写を設定する	切	1mまで接近して撮影できる	P.57
	入	T側で60cmまで接近可能	
DVワイド効果 ワイドテレビに合わせた画面にする	切		P.180
	ワイド	ワイドテレビと同じ横長の画面になる	
	デジタルワイド	撮影できる範囲が広がる	
ボイスポジション 録音される雑音を軽減する	切	自然な音声を録音する	P.218
	入	風による雑音を軽減して録音する	

※：最初の設定は、　　　で表示してあります。
※：電源ダイヤルが「**A**」のときは　　　設定で動作します。

設定を変えて使いこなそう編

撮影設定を変更する

各項目の補足説明

手ぶれ補正

- 手ぶれが大きいとき、映像をデジタル処理するときは補正できないことがあります。
- 手ぶれ補正が働かないときは､液晶画面の「(手ぶれマーク)」表示が消えます。

5S

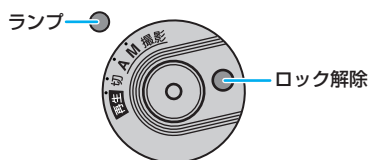
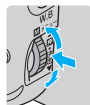
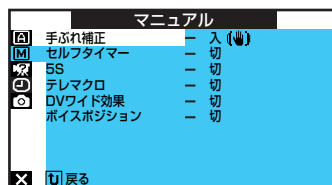
- 撮影モード選択スイッチを｢DV｣にしているときのみ有効です。
- 「5S」では、撮影ボタンを押してから 5 秒たつと自動的にテープが一時停止します。短いカットの連続したビデオを撮影したいときに便利です。
- 「アニメ」では、撮影ボタンを押すと 1/8 秒分だけ撮影されます。人形や切り絵などを少しずつ動かして 1 コマアニメーションを制作するときに使用します。

DV ワイド効果

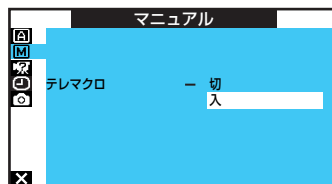
- **普通のテレビ（画面比率 4:3）で見るときは**
  縦長の映像が映ります。
- **ワイドテレビで再生するときは**
  ワイドで撮った映像には、ワイド用の識別信号が記録されています。ビデオカメラの S ／ AV 入／出力端子とワイドテレビを S ／ AV ／編集コードで接続してください。テレビの S2 または S1 端子に接続すると、ワイドをテレビが自動判別します。テレビ側に S2 または S1 端子がないときは、S 端子に接続してください。自動判別はできません。ワイドテレビで見やすい映像に調節してください。（詳細はお使いのワイドテレビの取扱説明書をご覧ください)。
- **ビデオデッキでダビングしたワイド映像を再生するときは**
  ワイド映像になるようにテレビ側でモードを切り替えてください（詳細はお使いのワイドテレビの取扱説明書をご覧ください)。
- **デジタルワイド**
  デジタルワイドに設定したあと､ズームスイッチを｢W｣側にスライドさせてください。ワイドコンバーションレンズを使用しなくても広角側 0.7 倍のワイド撮影ができます。室内などの狭いところでも、撮影範囲が広がります。またズームが 14 倍（画面表示 0.7 ～ 10 まで）になり、シャッター速度が 1/30 秒になります。

設定のしかた

例として、テレマクロの設定を「入」に変更します。

1 「M」をランプの位置に合わせる

2 「メニュー／決定」レバーを押してメニューを表示し、「M」を選んで決定する

マニュアル設定メニューが表示されます。

3 「テレマクロ」を選び、決定する

「切」と「入」が表示されます。

4 「入」を選び、決定する

5 レバーを２回押して撮影画面に戻る

操作音やランプを消す

システム設定メニュー

電源ダイヤルを「**M**」「再生」のいずれかに合わせ、「メニュー／決定」レバーで設定します。

項　目	設定項目	特　徴	参　照
ブザー	切	操作音を消す	P.218
操作音を消す	ブザー	一部の操作のみブザー音	
	メロディー	操作するごとにメロディー音	
タリー	切		P.183
撮影ランプを消す	入	撮影中にランプが点灯する	
リモコン	切	リモコン操作を無効にする	P.207
リモコンの信号を受け付けないようにする	入	リモコンで操作する	
優先設定	液晶モニター	液晶画面に優先的に表示	P.51
優先的に表示する	ファインダー	ファインダーに優先的に表示	
	同時	液晶画面とファインダーの両方に表示	
D端子出力設定	D4	525i〜750Pまで出力	P.74
D端子の種類を設定する	D3	525i〜1125iまで出力	P.78
	D2	525i／525Pまで出力	
	D1	525iのみ出力	
	HD端子	1125i固定で出力	
S／ビデオ出力設定	ワイドテレビ	16：9の映像を表示	P.183
テレビの種類を設定する	4:3テレビ	4：3の映像を表示	
i.LINK設定 DV、MPEG2の出力条件を設定する	SW優先	映像出力時、「DV」「MPEG2」切り替えを出力モード選択スイッチ優先にする	P.142
	自動	映像出力時、「DV」「MPEG2」切り替えを自動にする	
プリセット	実行	メニュー表示を初期値に戻す	—
すべての設定をもとに戻す	戻る		

※：最初の設定は、　　　で表示してあります。

各項目の補足説明

タリー

- 「入」では、撮影中であることを撮影ランプを点灯させてお知らせします。セルフタイマー使用時の撮影タイミングの確認などに使用します。
- 「切」では、撮影ランプを点灯させません。

優先設定

- 液晶画面が開いていて、ファインダーを引き出したとき、どちらが優先して映像や記号、文字を表示するかを設定します。

D 端子出力設定

- 接続するD端子付きテレビのD端子の種類を設定します。ご使用のテレビのD端子表示に合わせて設定します。

S／ビデオ出力設定

- 接続するテレビがワイドテレビか4:3のテレビかを設定します。

i.LINK 設定

- i.LINK出力選択スイッチの状態を優先するか、DVフォーマット、MPEG2フォーマットの信号をそのまま出力するかを設定します。通常は、「SW優先」に設定します。将来的にDVフォーマット、MPEG2フォーマットの信号を自動で判別できる機器に映像を出力する場合は、「自動」に設定します。

操作音やランプを消す

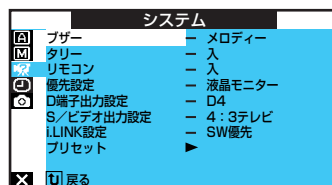
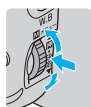
設定のしかた

例として、優先設定を「ファインダー」に変更します。

1 「M」をランプの位置に合わせる

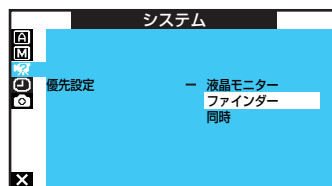
- 「再生」の位置に合わせても設定できます。

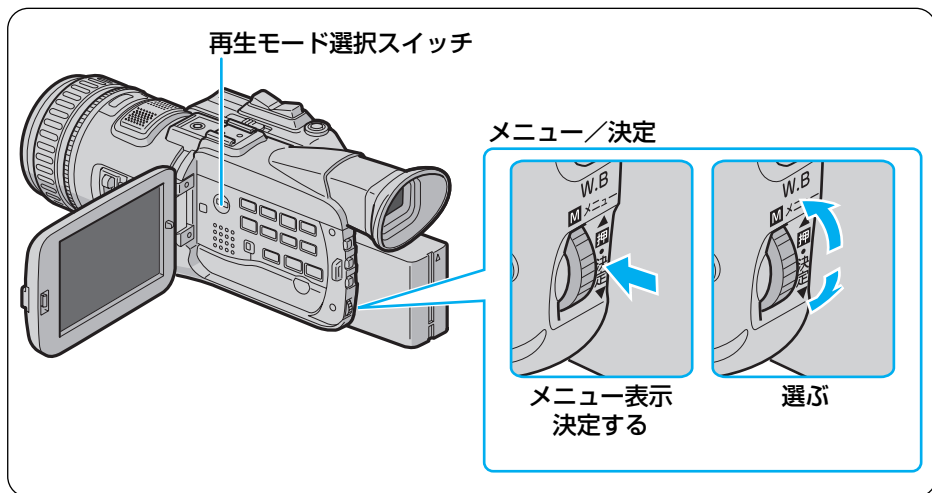
2 「メニュー／決定」レバーを押してメニューを表示し、「 」を選んで決定する

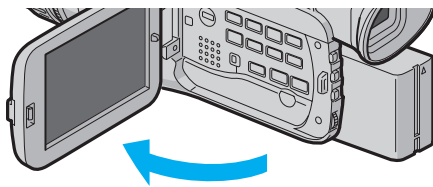
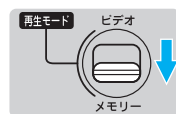
システム設定メニューが表示されます。

3 「優先設定」を選び、決定する

「液晶モニター」、「ファインダー」、「同時」が表示されます。

4 「ファインダー」を選び、決定する

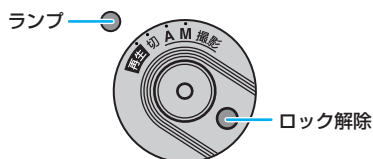
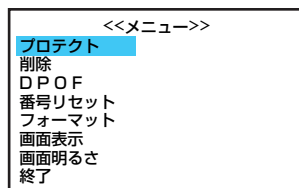
5 レバーを２回押して撮影画面に戻る

プリント情報を設定する［DPOF 設定］

自動プリントするための情報を記録するDPOF(Digital Print Order Format)規格に対応しています。
DPOF 設定で自動プリントの指定ができるのは、メモリーカードに記録された静止画のみです。ビデオの映像をDPOF 設定によってプリントしたいときは、プリントしたい場面をあらかじめ静止画としてメモリーカードにコピーしておきます（☞P.130）。

すべての静止画を１枚ずつプリントするよう設定する

1 液晶画面を開く

2 再生モード選択スイッチを「メモリー」の位置に合わせる

次へ続く

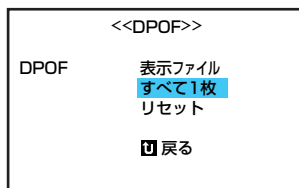
プリント情報を設定する［DPOF 設定］

3 「再生」をランプの位置に合わせる

液晶画面に静止画が表示されます。

4 「メニュー／決定」レバーを押して、メニューを表示する

5 レバーで「DPOF」を選び、決定する

「表示ファイル」「すべて１枚」「リセット」などが表示されます。

6 「すべて１枚」を選び、決定する

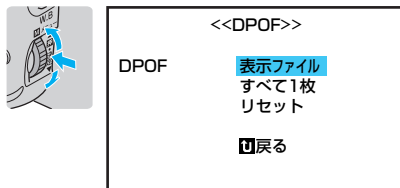
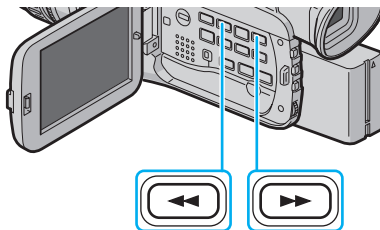
DPOF 画面が表示されます。

7 「する」を選び、決定する

再生画面に戻ります。

静止画とプリント枚数を選んで設定する

1 **「すべての静止画を1枚ずつプリントするよう設定する」(☞P.186)の手順6で「表示ファイル」を選び、決定する**

<<DPOF>>
DPOF　表示ファイル
すべて1枚
リセット
戻る

DPOF画面が表示されます。

2 **「◀◀」または「▶▶」ボタンを押してプリントしたい静止画を選ぶ**

3 **「メニュー／決定」レバーで「00」を選び、決定する**

枚数設定を変更できるようになります。

- すでに枚数が設定されている場合は、「00」のかわりに設定されている枚数が表示されています。

4 **枚数を設定し、決定する**

- 最大15枚まで設定できます。

5 **他の静止画もプリントしたいときは、手順2〜4を繰り返す**

次へ続く

プリント情報を設定する［DPOF 設定］

6「戻る」が選ばれていることを確認して、決定する

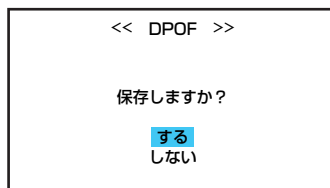
設定の保存を確認する画面が表示されます。

7「する」を選び、決定する

設定が保存され、再生画面に戻ります。

<< DPOF >>

保存しますか？

する
しない

枚数をすべて 0 枚に戻すには

「すべての静止画を 1 枚ずつプリントするよう設定する」の手順 6 で「リセット」を選びます。すべての静止画が 0 枚に設定されます。

ご注意

- 操作中は電源を抜かないでください。静止画像ファイルが壊れる場合があります。安全のため、DPOF 設定の実行中は電源ダイヤルを含むすべてのボタンが働きません。

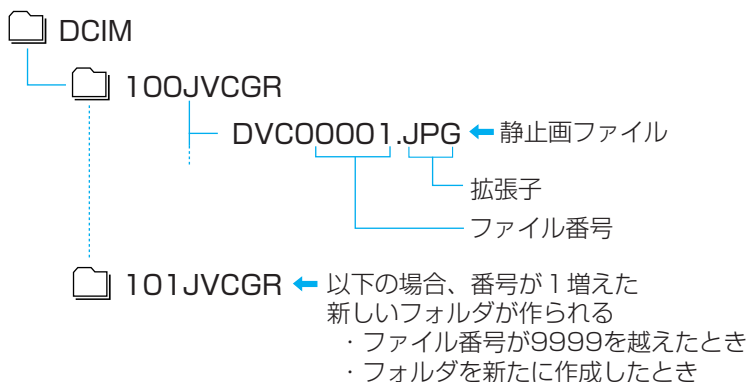
- 静止画が 1000 枚以上あると DPOF 設定ができません。

- SD カードのライトプロテクトスイッチを「LOCK」の位置に合わせていると、DPOF 設定を実行することはできません（☞ P.36）。
- DPOF 対応プリンターを使用する場合、上記の操作をしたメモリーカードを入れると選択した静止画だけを自動的に印刷できます。
- テープの映像を印刷するには、あらかじめメモリーカードへコピーしてください（☞ P.130）。

静止画のファイル名をリセットする

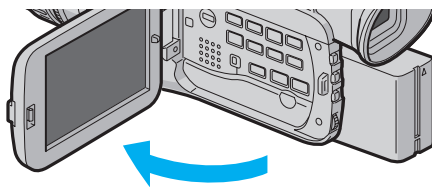
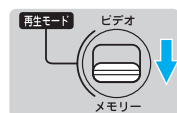
静止画は、撮影した順に「0001」から「9999」までの番号を持ったファイル名がつけられます。リセットを行うと、新たにフォルダを作成し、その中に「0001」から始まるファイル名をつけて保存するようになります。例えば、これまでの静止画とこれから撮影する静止画の区別をつけやすくしたいときに便利です。

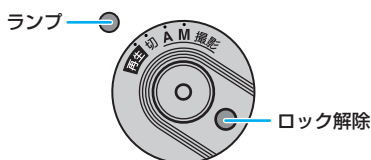
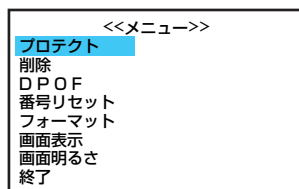
静止画のファイル名とフォルダ名について

静止画のファイル名は「DVC00001.JPG」「DVC00002.JPG」…の順につけられます。「DVC09999.JPG」を越えると、自動的に新しいフォルダが作成され、その中に「DVC00001.JPG」として保存されます。

- ファイル名とフォルダ名を確認するには、「インフォ」ボタンを押してファイル情報を表示します（☞ P.123）。静止画の場合は、画面右上のフォルダ番号とファイル番号から確認することもできます。

- 途中の番号の静止画を削除したときは、その番号は使用されません。撮影した最新の静止画は、常にフォルダ内で一番大きな番号を持ったファイル名がつけられます。

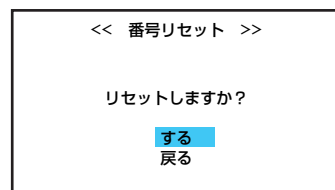
静止画のファイル名をリセットする

1 液晶画面を開く

2 再生モード選択スイッチを「メモリー」の位置に合わせる

3 「再生」をランプの位置に合わせる

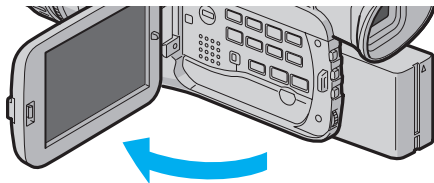
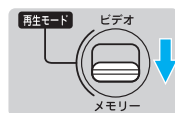
液晶画面に静止画が表示されます。

4 「メニュー／決定」レバーを押してメニューを表示する

5 レバーで「番号リセット」を選び、決定する

番号リセット画面が表示されます。

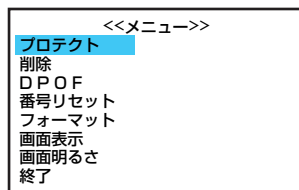
6 「する」を選び、決定する

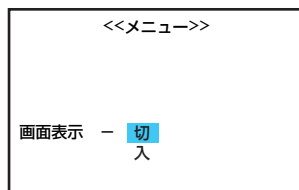
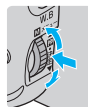
静止画の再生画面に戻ります。

静止画の再生画面表示を変更する

静止画の再生時に表示されるモード表示（▶）やフォルダ番号とファイル番号（100-0001 など)、バッテリー表示（▭）を消すことができます。

1 液晶画面を開く

2 再生モード選択スイッチを「メモリー」の位置に合わせる

3 「再生」をランプの位置に合わせる

液晶画面に静止画が表示されます。

4 「メニュー／決定」レバーを押してメニューを表示する

5 「画面表示」を選び、決定する

6 「切」を選び、決定する

設定を変えて使いこなそう編

メモリーカードを初期化する

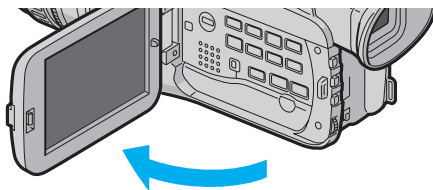
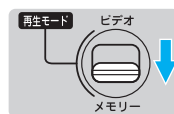
万一、一部のファイルが読み書きできなくなったなどの不具合が生じた場合は、メモリーカードを初期化（フォーマット）することで機能を回復できることがあります。必要に応じて、下記の手順でフォーマットを行ってください。
フォーマットするとメモリーカード内のファイル（静止画）はすべて消去されます。

1 ACアダプターを取り付ける

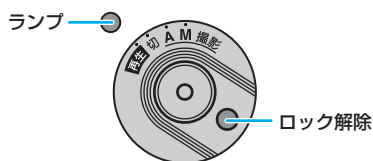
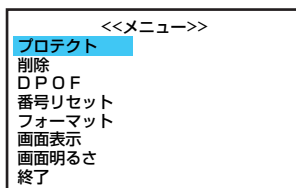
- ACアダプターを取り付けるには
（☞P.70）

2 保存したいファイルがあればコピーする

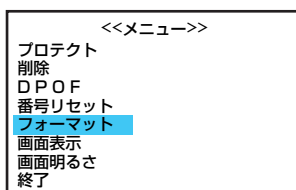
- パソコンにファイルを取り込むには
（☞P.168）
- ファイルが壊れているときは、コピーできないこともあります。

3 液晶画面を開く

4 再生モード選択スイッチを「メモリー」の位置に合わせる

5 「再生」をランプの位置に合わせる

液晶画面に静止画が表示されます。

6 「メニュー／決定」レバーを押してメニューを表示する

<<メニュー>>
プロテクト
削除
DPOF
番号リセット
フォーマット
画面表示
画面明るさ
終了

7 レバーで「フォーマット」を選び、決定する

フォーマット画面が表示されます。

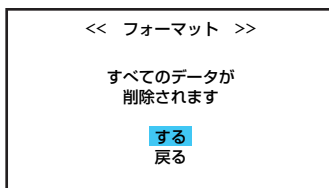
<<メニュー>>
プロテクト
削除
DPOF
番号リセット
フォーマット
画面表示
画面明るさ
終了

8 「する」を選び、決定する

- フォーマットをやめるには「戻る」を選びます。

メモリーカードがフォーマットされます。フォーマットが終了すると、再生画面に戻ります。

<<　フォーマット　>>

すべてのデータが
削除されます

する
戻る

ご注意

- フォーマット中は電源を切ったり、ほかの操作をしないでください。故障の原因となります。
- 本機でフォーマットしてください。パソコンでフォーマットしないでください。
- ファイルにプロテクトをかけていても、フォーマットした場合は消去されます。必要なファイルはパソコンに転送して保存してください。

- SD カードのライトプロテクトスイッチを「LOCK」の位置に合わせていると、フォーマットすることはできません（☞ P.36）。

- メモリーカードは精密機器です（☞ P.202）。フォーマットしても、メモリーカードの機能が回復しない場合は、新しいメモリーカードを購入してください。

故障かな？と思ったら

このビデオカメラはマイコンを使用しています。

雑音や妨害ノイズにより正常に動作しないことがあります。そんなときはビデオカメラから電源（バッテリー、ACアダプターなど）をはずし、あらためてご使用ください。それでも不具合があり、以下の処置をしても改善されない場合は、お買い上げ販売店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。

	こんなとき	ご確認ください	参照
電源	**電源が入らない**	● 電源コードを正しく接続してください。 ● バッテリーを充電してください。 ● 液晶画面を開くか、ファインダーを引き出してください。	P.70 P.28 P.41
	「日時を設定して下さい」が表示される	● 内蔵の時計用電池がなくなっています。最寄りの「ビクターサービス窓口」にご相談ください。	P.210
撮影中	**撮影できない**	● 撮影モード選択スイッチを正しく設定してください。 ● テープの誤消去防止用つまみを「REC」側にしてください。 ●「テープ終り」と表示されていませんか？表示されているときは、テープを交換してください。 ● 電源ダイヤルを「**A**」または「**M**」にしてください。 ● カセットカバーを閉じてください。	P.45 P.202 P.32 P.41 P.34
	映像が出ない	● 電源をもう一度入れ直してください。	P.41
	メニューの機能が使えない	● 電源ダイヤルを「**M**」にしてください。	P.41
	自動でピントが合わない	● 電源ダイヤルを「**A**」にしてください。「**M**」のまま撮影するときは、「フォーカス」ボタンを押して手動フォーカスを解除してください。 ● 暗いところや明暗差のないものを撮影していませんか？ ● レンズにゴミや水滴などが付いていませんか？	P.108 P.199
	撮影中、液晶画面に日時が出ない	●「日時表示」を「入」にしてください。 ● 対面撮影していませんか？	P.135 P.63
	撮影中、映像の縦に明るい線が出る	● 強い光の当たる被写体を撮影しませんでしたか？　被写体に強い光が当たると、コントラストの違いで線が出ることがあります。故障ではありません。	–
	太陽光が映ると、画面が一瞬赤くなったり、黒くなったりする	● 故障ではありません。	–
	撮影中の被写体が暗い	●「逆光補正」ボタンを押してください。	P.91
	撮影中の被写体が明るい	●「プログラムAE」の「スポットライト」を選択してください。 ● 逆光補正を使っているときは、解除してください。 ● 明るさ補正が「＋」側に設定されているときは、明るさ補正を解除してください。	P.116 P.91 P.104
	撮影中の被写体の色がおかしい	● 照明の色や被写体に白い部分がない場合、または被写体の背後にいろいろな光源がある場合に色がおかしくなるときがあります。白い被写体を画面内に入れて撮影してください。	P.110
	デジタルズームできない	●「メモリー」モードでは、ズームは10倍までしか使えません。 ●「ズーム」が「10倍」に設定されているときは、ズームは10倍までしか使えません。	P.57 P.177

	こんなとき	ご確認ください	参照
撮影中	手ぶれ補正が働かない	●「手ぶれ補正」を「入」にしてください。	P.179
	「プログラム AE」や「場面切替」機能が使えない	● 電源ダイヤルを「**M**」にしてください。	P.112 P.116
	「場面切替」の「フェーダー：白黒」が使えない	●「エフェクト」の「セピア」や「白黒」を選択しているときは使えません。	P.119
	液晶画面の映像が暗い、または白くなる	● 液晶画面の角度や明るさを調節してください。 ● 液晶画面の寿命が短くなっている可能性があります。お買い上げの販売店、またはお近くのビクターサービス窓口にご相談ください。	P.51 P.210
	液晶画面の裏側が熱くなる	● 液晶画面を長時間使用していませんか？　長時間使用すると、液晶画面裏の蛍光管が熱くなります。液晶画面を切るか電源を切ってしばらく放置しておくと元に戻ります。	–
	液晶画面に表示ムラが出る	● 液晶画面やそのまわりを押しませんでしたか？　液晶画面を圧迫すると映像ムラが生じます。手を離してしばらく放置しておくと元に戻ります。	–
	液晶画面のアイコン表示が点滅または消える	●「場面切替」「プログラム AE」「手ぶれ補正」機能のうち、同時に使用できない機能を選択しているときは各機能のアイコンが点滅またはアイコンが消えます。	P.112 P.116 P.179
	「露が付きました」と表示される	● メッセージが消えてから使用してください。	P.199
	「ヘッドが汚れています」と表示される	●ミニ DV ヘッドクリーナーでヘッドを清掃してください。	P.198
再生中	液晶画面の映像が乱れる	● テープの無記録部分の再生、高速再生、および静止画再生中は液晶画面の映像が乱れることがあります。故障ではありません。	–
	テープの巻戻し、早送りができない	● 電源ダイヤルを「再生」にしてください。	P.64
	メモリーカードの再生ができない	● 再生モード選択スイッチを「メモリー」に合わせてから、電源ダイヤルを「再生」にしてください。	P.68
	テープは回っているが再生されない	● テレビのチャンネルをビデオ用に設定してください。	P.76
	映像にモザイク状のノイズが出る	● ミニ DV ヘッドクリーナーでヘッドを清掃してください。	P.198
	映像が映らず 青い画面になる	● ミニ DV ヘッドクリーナーでヘッドを清掃してください。	P.198
	ヘッドホンから音が出ない	● S/AV/編集コードを取りはずしてください。	P.24
	液晶画面に「E01」 または「E02」、「E06」 と表示される	● なんらかのエラーが発生しています。この間ビデオカメラは操作できません。バッテリーと電源を取り外してつけなおし表示が消えてからお使いください。2、3 度くり返しても表示が消えないときはお買い上げの販売店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。また、テープに傷が付きますのでテープは取り出さないでください。	P.210

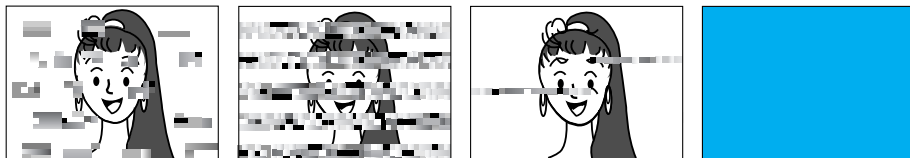
故障かな？と思ったら

	こんなとき	ご確認ください	参照
再生中	液晶画面に「E03」または「E04」と表示される	● なんらかのエラーが発生しています。この間ビデオカメラは操作できません。テープを取り出していれなおし表示が消えてからお使いください。２、３度くり返しても表示が消えないときはお買い上げの販売店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。	P.210
	「HD」または「SD」で記録した映像が再生されない	● 「HD」または「SD」で記録した映像は、他のビデオカメラやミニ DV デッキでは再生できません。本機で再生してください。	P.65
その他	液晶画面の映像が暗い	● 寒い場所でビデオを再生していませんか？　寒い場所では、多少液晶画面が暗く見えます。故障ではありません。 ● 液晶画面の明るさを調節してみてください。	― P.51
	液晶画面が見にくい	● 直射日光下など周囲が明るいところでは液晶画面が見にくくなります。ファインダーの使用をお勧めします。	P.53
	液晶画面に映像が表示されない	● システム設定メニューの「優先設定」を「ファインダー」に設定した状態で、ファインダーを引き出していませんか？ ● 液晶画面の明るさを調節してみてください。 ● 液晶画面を 180°回転しているときは、液晶画面を一度確実に開いてください。	P.53 P.51 ―
	液晶画面やファインダーに黒い点、赤、青、緑の光る点が出る	● 故障ではありません。	P.201
	ファインダー内にゴミが入っている	● 市販のレンズブロワーでごみを取ってください。	P.200
	AC アダプターの充電ランプがつかない	● 低温（10℃以下）や高温（35℃以上）で充電していませんか？ 10～35℃の環境で充電してください。周囲の温度が低すぎたり高すぎたりすると、バッテリー保護のため充電が中止されることがあります。	P.29
	テープが入らない	● テープの向きを確かめてください。 ● バッテリーの残量を確かめてください。	P.32 P.50
	メモリーカードが入らない	● メモリーカードの向きを確かめてください。	P.35
	メモリーカードの画像を削除できない	●プロテクトを解除してください。	P.172
	通信時エラー表示が出る	● パソコンケーブルを正しく接続してください。 ● ソフトを正しくインストールしてください。	P.168
	i.LINK ケーブルで接続しているとき、操作ができない	● 電源が入った状態で i.LINK ケーブルを抜き差ししませんでしたか？一度電源を切り、接続をやり直してから操作してください。	P.142 P.168
	リモコンがきかない	● システムメニューの「リモコン」が「切」になっていませんか？ ● リモコンをビデオカメラのリモコン受光部に向けていますか？ ● 電池が消耗していませんか？	P.182 P.207
	ファインダーに映像が表示されない	● システムメニューの「優先設定」を「液晶モニター」に設定した状態で、液晶画面を開いていませんか？	P.182
	つなぎ撮りができない	● i.LINK 入力からのつなぎ撮りはできません。（画像が乱れます。）	P.144

	こんなとき	ご確認ください	参照
その他	つなぎ撮り時に音声がミュートされる	● MPEG2 フォーマットでつなぎ撮りをする場合は、音声がミュートされます。	–
	「HD」で撮影している映像を 750P で出力できない	● 「HD」で撮影しているときは、525P の映像しか出力できません。750P で出力したい場合は、i.LINK ケーブルでデコーダー付きの D-VHS に接続します。D-VHS の設定を D4 出力にすると、デジタルハイビジョンテレビで 750P の映像を映すことができます。	–
	液晶画面または S ／ AV ／編集ケーブルで接続したテレビに映像が表示されない	● D 端子ケーブルと S ／ AV ／編集ケーブルを同時に接続していませんか？　この場合、再生時には、液晶画面または接続したテレビに映像は表示されません。	–
	D-VHS に「SD」または「HD」で撮影した映像を出力しても、HS モードで録画できない	● 初めて D-VHS と本機を接続したときに、「i.LINK 出力選択スイッチ」を「DV」にしていた場合、D-VHS が本機を DV 機器と認識するため HS モードで記録できなくなります。D-VHS のメニューで i.LINK の番号をリセットしてから、「i.LINK 出力選択スイッチ」を「MPEG2」にして接続してください。	P.142 P.182
	映像を変換して出力できない	● MPEG2 フォーマットと DV フォーマット間の変換はできません。撮影したモードと同じ信号しか出力できません。	P.46 P.47
	i.LINK ケーブルで接続したビデオカメラ（GR-HD1 以外）または DV デッキで、映像をダビングできない	● 「SD」または「HD」で撮影した映像のダビングはできません。また、「i.LINK 出力選択スイッチ」はフォーマット変換できませんので、撮影したモードと同じ信号しか出力できません。	P.142 P.143

映像にノイズが出たり音声が途切れたら

ビデオヘッドが汚れると、撮影時や再生時に以下の症状が出ます。汚れがひどくなると、正常な録画や再生ができなくなりますので、ヘッドをクリーニングしてください。大切な撮影をするときは、クリーニングカセットを持ち歩かれることをお勧めします。

- 再生すると映像にモザイク画（ブロック状のノイズ）が出たり、音声が途切れる。
- 再生すると映像に黒色やモザイク画の横しまが出る。
- 再生しても音や映像（青い画面になる）が出ない。
- 撮影や再生をすると「✖ ヘッドが汚れています　クリーニングカセットをためして下さい」と表示される。

クリーニングが終わったら、撮影・再生して上記の症状が消えていることを確認してください。

ミニ DV ヘッドクリーナー M-DVSCL を長時間繰り返し再生すると、ヘッド摩耗の原因になりますのでご注意ください。（ビデオカメラで M-DVSCL を再生すると、20 秒後に自動的に再生を停止します）

ミニ DV ヘッドクリーナー
M-DVSCL

詳しくは M-DVSCL の取扱説明をご覧ください。

- **クリーニングを数回しても正常に再生ができない場合**

  撮影時にヘッドが汚れていたために正常に記録できなかったと考えられます。撮影時、液晶画面やビューファインダーには記録前の映像が表示されるため、記録時の映像ノイズや音声の途切れは確認できません。新たに撮影してみて、正常に再生ができれば、ヘッドはきれいになっています。大切な撮影をするときは、必ず試し撮りをお勧めします。

- **定期点検を行ってください**

  1 か月に 1 度程度は、電源を入れてお使いになることをお勧めします。また、ビデオカメラの性能を維持し、いつも美しい画面をご覧いただくために、およそ使用時間 1000 時間を目安に定期点検に出されることをお勧めします。定期点検は、お買い上げの販売店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。

「露が付きました」と表示されたら

よく冷えたビールをコップに注ぐと、コップのまわりに徐々に水滴が付着します。この状態を「つゆつき」といいます。ビデオカメラでつゆつきが発生すると、心臓部のヘッドドラムのまわりに水滴が付着し、テープが貼り付いてしまいます。

■ つゆつきはこんなときに起こります

- ビデオカメラを寒いところから暖かいところに急に移動したとき。
- 湿気の多い場所でビデオカメラを使用しているとき。
- 暖房した直後の部屋や、エアコンなどの冷風がビデオカメラに直接当たるとき。

■ つゆつきが発生すると

- 液晶画面に「💧露が付きました」と「💧しばらくお待ち下さい」が交互に表示され、ビデオカメラが停止します。この間、カセットの出し入れはしないでください。
- 通常、つゆつきは徐々に発生するため、10～15分間はメッセージが表示されないことがあります。メッセージが表示される前でもレンズや保護ガラスに水滴が付いているときはヘッドドラムにも水滴が付着している可能性があります。カセットカバーを開けないでください。
- つゆつきはレンズの内側にも発生します。レンズに水滴が付着しているときれいに撮影できませんので、つゆつきがなくなってから撮影してください。

■ 再び使い始めるときは

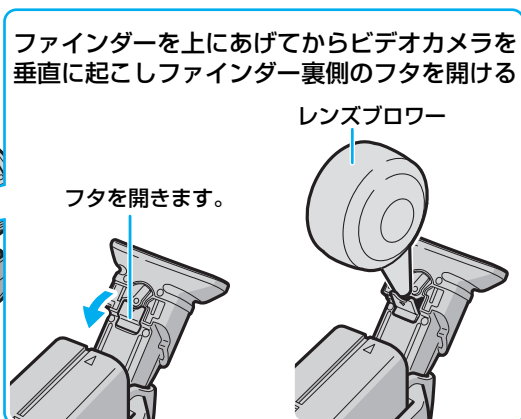
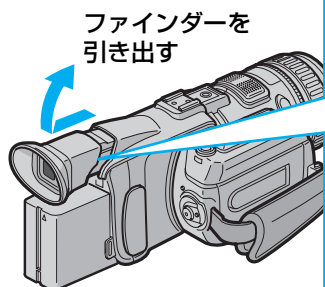
メッセージが消えてからご使用ください。メッセージが消えないときは点検が必要です。お買い上げの販売店にご相談ください。

寒冷地帯ではつゆが凍結し、霜になることがあります。寒冷地帯ではメッセージが消えるまでに、さらに時間がかかることがあります。

■ つゆつきのトラブルを防ぐには

寒いところから暖かいところ、冷風の効いたところから温度、湿度の高い場所に移動したときは、ビデオカメラとテープをしばらく放置して、使用する環境になじませてからご使用ください。
例えばスキー場で撮影後、暖房の効いた部屋に入るときは、ビニール袋などにビデオカメラを入れて空気が入らないように密封し、しばらくその状態で室温になじませてからご使用ください。

ファインダーの中にゴミが入ったら

ファインダーの内部にゴミなどが入ったときは、ファインダー底面のフタを開け、市販のレンズブロワーでゴミを取ってください。
終わったらファインダー底面のフタを確実に閉め、ファインダーをもとに戻します。

使用上のご注意

ビデオカメラについて

■ **本機はDV方式およびMPEG方式のデジタルビデオカメラです。**
従来式のビデオ、およびDV方式以外のデジタルビデオとは互換性がありません。

■ **電源（バッテリーやACアダプター）をはずすときは、必ず電源ダイヤルが「切」になっていることを確認してください。**
ビデオカメラの動作中に電源をはずすと、テープやメモリーカードを傷めたり誤動作の原因になります。

■ **長時間使用しないときは電源ダイヤルを「切」にしてください。**
長時間電源を入れたままにしておくと、ビデオカメラの表面が温かくなります。

■ **ビデオカメラを保管するときはカセットテープを取り出し、電源を切り、バッテリーを取りはずしてください。**
ときどき電源を入れて動作を点検してください。

液晶画面について

■ **表面を強く押したり強い衝撃を与えないでください。**
傷がついたり割れたりして故障の原因となることがあります。

■ **小さな光る点や黒い点が出ることがあります。**
ファインダーや液晶画面には99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の小さな光る点（赤、青、緑）や黒い点が出ることがあります。故障ではありません。
これらはテープやメモリーカードには記録されません。

時計用電池について

日時を記憶するために電池が内蔵されています。電池が消耗すると、バッテリーやACアダプターをはずしたときに画面に「日時を設定して下さい」と表示されます。
電池の交換は最寄りの「ビクターサービス窓口」にご相談ください(☞ P.210)。
日時をあわせるには、43ページをご覧ください。

使用上のご注意

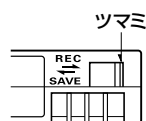
カセットテープおよびメモリーカードについて

■ **本機は DV 方式および MPEG 方式のデジタルビデオカメラです。また、デジタルスチルカメラとしても使用できます。**

Mini DV マークのついたデジタルビデオカセットテープをご使用ください。

SD マーク、または *MultiMediaCard* マークのついたメモリーカードをご使用ください。

■ **大切な録画を消してしまわないように注意してください。**

保存しておきたい録画済みカセットテープは、カセット背面にあるツマミを「SAVE」の矢印方向に引いてください（ツマミを「REC」の方向に引くと、再び録画できます）。

■ **事前に試し撮りをしてください。**

大切な録画をするときは、事前に試し撮りを行い、正常に録画、録音されていることをご確認ください。

■ **内容の補償についてはご容赦ください。**

万一、ビデオカメラ、カセットテープおよびメモリーカードなどの不具合により正常に録画、録音や再生ができなかった場合の内容の補償についてはご容赦ください。

■ **権利者に無断で使用できません。**

あなたがビデオカメラで録画、録音したビデオは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

■ **撮影を制限している場所があります。**

鑑賞や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場所がありますのでご注意ください。

■ **モザイク状のノイズが出る場合があります。**

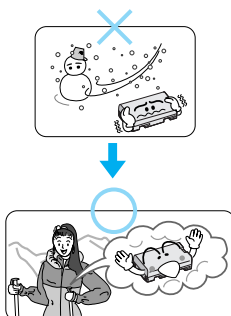
LP モードで録画されたカセットテープは、他の LP モードのあるデジタルビデオで再生した場合、モザイク状のノイズが出る場合があります。また、LP モードのないデジタルビデオでは正常に再生できません。

■ **カセットテープおよびメモリーカードは湿気が少なく風通しのよい、カビの発生しない場所に保存してください。**

■ **メモリーカードは精密機器です。曲げたり、落としたり、強い力、衝撃、振動を与えないでください。**

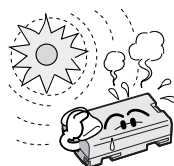
バッテリー（充電式電池）をご活用いただくために

■ リチウムイオンバッテリーの特性をご理解ください。

リチウムイオンバッテリーは小型で高容量のバッテリーです。しかし、冬場の屋外などの低温（10℃以下）でバッテリーが冷えている場合、バッテリーの使用時間が短くなる特性があり、動作しないことがあります。このような時は、バッテリーをポケットに入れるなどして温かくし、撮影前にビデオカメラに取り付けてください。カイロなどをご使用になっている場合は、直接カイロがバッテリーに触れないようにご注意ください。

■ リチウムイオンバッテリーの保管にご理解ください。

充電された状態で長期間保管すると、特性が劣化することがあります。
長期間保管する場合は、使い切った状態で保管してください。

① テープを入れずに電源を入れる
② ビデオカメラの電源が自動的に切れるまで待ってから、バッテリーを取りはずす

- 長期間保管する場合は、半年程度に一回充電し、再び使い切ってから保管してください。
- ビデオカメラを使用しないときは、必ずバッテリーをビデオカメラや AC アダプターから取りはずしてください。
  取り付けたままにしておくと、電源が切れていても微量の電流が流れていますので、やがて過放電になり使用できなくなる恐れがあります。
- ビデオカメラから取りはずしたバッテリーには、バッテリーキャップを取り付けてください。
- 涼しい所で保管してください。
- 周囲の温度が 15℃～25℃くらいの乾燥した所をお勧めします。
- 暑い所や極端に寒い所は避けてください。

リチウムイオンバッテリー（充電式電池）のリサイクルについて

美しい環境維持にあなたも一役。リサイクルに協力しましょう。
ご使用済みの電池は廃棄しないで、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

安全のため、充電式電池にはバッテリーキャップを取り付けるか、端子部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

■ 充電式電池の収集・リサイクルおよびリサイクル協力店に関するお問い合わせ先

小型二次電池再資源センターホームページ　http://www.jbrc.com/

ホームページがご覧になれない場合は、裏表紙のお客様ご相談センターにお問い合わせください。

日常のお手入れ

ビデオカメラの汚れを取る

バッテリー、ACアダプターまたは電源プラグをはずして電源を切ってから、次のようにお手入れしてください。

- 汚れを乾いた柔らかい布などで拭き取ってください。
- 汚れがひどいときは水で薄めた中性洗剤に布を浸し、固く絞ってから汚れを拭きます。その後、乾いた布で水分を拭き取ってください。

ご注意
- ベンジンやシンナーは使用しないでください。損傷や故障の原因になります。
- 化学ぞうきんや洗剤をご使用になるときは、ご使用になる製品の注意書きに従ってください。
- ゴムやビニール製品などを長時間接触させたままにしないでください。

レンズや液晶画面の汚れを取る

■ レンズの汚れを取るには

市販のレンズブロワーでほこりを落とし、市販のクリーニングクロス、または市販のレンズクリーニングペーパーなどで汚れを落してください。汚れたまま放置しておくと、カビなどが発生することがあります。

■ 液晶画面の汚れを取るには

市販のレンズブロワーでホコリを落とし、市販のクリーニングクロスなどで汚れを落としてください。

アクセサリー一覧

アクセサリーキット（別売）

ビデオカメラをご使用になるには、別売のアクセサリーキット（VU-HD1K）をお買い求めください。

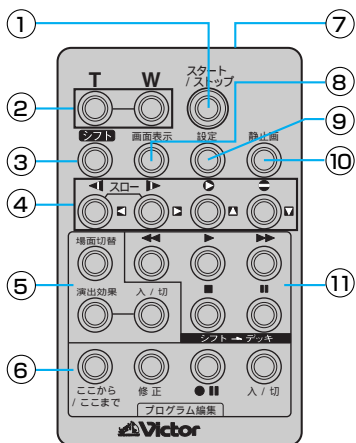
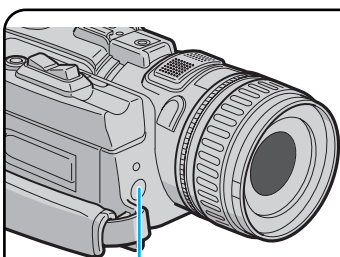
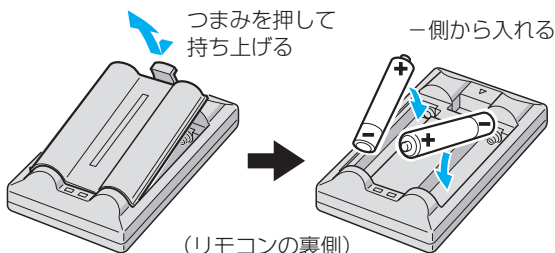
- AC アダプター／チャージャー［AA-V40］
- バッテリーパック［BN-V428］
- ワイヤレスリモコン［RM-V717］
- 単４乾電池（2 本、リモコン動作確認用）
- SD メモリーカード(8MB)
- CD-ROM
- ソフトウェア取扱説明書
- DC コード
- アクセサリーキット取扱説明書
- 音声延長コード
- 編集延長コード
- S ／ AV ／編集コード
- 専用 USB ケーブル
- D 端子ケーブル
- ヘッドホンコード
- マイクコード
- ショルダーストラップ
- 専用ハンドル
- レンズキャップ
- ミニ DV ヘッドクリーナー

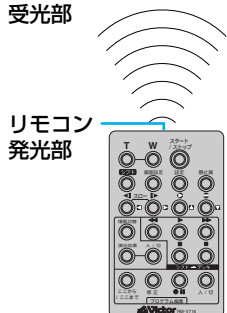
その他の別売アクセサリー：

品名	型番
バッテリーパック	BN-V416
バッテリーパック	BN-V428
バッテリーキット	VU-V856KIT
バッテリーキット	VU-V840KIT
i.LINK ケーブル（S400 対応）	VC-VDV204
マルチメディアカード（8 MB）	CU-MMC08
マルチメディアカード（16MB）	CU-MMC16
PC カードアダプター	CU-V51
フロッピーディスクアダプター	CU-V41
USB リーダー／ライター	CU-V70
0.7 倍ワイドコンバージョンレンズ	GL-V0752
1.4 倍テレコンバージョンレンズ	GL-V1452
マルチメディアプリンター	GV-DT5
ズームマイク	MV-E100

- 映像機器と接続したときにおきるノイズを軽減するために、付属のコードまたは別売のコード用としてフェライトコアが付属される場合があります。この場合、フェライトコアの付いている側の端子をビデオカメラ側に接続してください。
- 別売アクセサリーキットの取扱説明書も合わせてご覧ください。
- 別売アクセサリーの詳細については、ビクタービデオカメラカタログやビクターホームページ（☞ 裏表紙）をご覧ください。

リモコン（別売）

別売アクセサリーキットのリモコンを使うと、ビデオカメラをはなれたところから操作できます。

リモコンの操作方法

操作範囲は屋内で約５m です。
ビデオカメラのリモコン受光部に向けて操作してください。角度によっては操作できない場合があります。また、ビデオカメラのリモコン受光部に直射日光や照明の強い光が当たると、ビデオカメラが誤動作したり、動作しないことがあります。

ビクターのデジタルビデオカメラを使う人が近くにいるときは

運動会など、半径５m以内にビクターのデジタルビデオカメラをリモコンで操作する人がいる場合、ビデオカメラがつられて動作してしまうことがあります。このようなときは、システム設定メニューの「リモコン」（☞P.182）を「切」に設定することをお勧めします。

その他

アクセサリー一覧

ボタン名		ボタンの機能	参　照
①	スタート/ストップボタン	撮影をスタートまたはストップする。 セルフタイマーをスタートまたはストップする。	P.88
②	T　ズームボタン W　ズームボタン	映像が大きくなる。 大きくした映像が元に戻る。	P.57,133
③	シフトボタン	拡大した再生映像を上下左右に動かす。	P.133, 152
④	◀❙ スロー（逆転）ボタン/左ボタン	テープをスローで巻き戻し再生する*。 再生ズームした映像を左に動かす。	P.66, 133
	❙▶ スロー（正転）ボタン/右ボタン	テープをスローで再生する*。 再生ズームした映像を右に動かす。	P.66, 133
	インサートボタン/上ボタン	インサート編集を行う。 再生ズームした映像を上に動かす。	P.133, 162
	アフレコボタン/下ボタン	アフレコ編集を行う。 再生ズームした映像を下に動かす。	P.133, 164
⑤	場面切替ボタン	自動編集中、場面切替効果を選択する。	P.155
	演出効果ボタン	再生中や自動編集中、エフェクトの効果を選択する。	P.134
	演出効果 入/切ボタン	再生映像にエフェクトの効果を加える。	P.134
⑥	ここから/ここまでボタン	自動編集の開始と終了を指定する。	P.155
	修正ボタン	自動編集を修正する。	P.157
	●❙❙ ビデオ準備ボタン	自動編集でビデオデッキを録画一時停止にする。	P.157
	入/切ボタン	自動編集表示画面を表示する。	P.155
⑦	リモートポーズ（入力） 端子	編集コードを接続する。	P.157
⑧	画面表示ボタン	テレビに出てくる日時表示を出したり、消したりする。	P.155
⑨	設定ボタン	編集に使用するビデオデッキのメーカーを設定する。	P.152
⑩	静止画ボタン	静止画を撮影する。（半押し機能がありません） セルフタイマーをスタートまたはストップする。	P.88
⑪	◀◀ 巻戻しボタン	テープを巻き戻す。 前の静止画を再生する。	P.66 P.69
	▶ 再生ボタン	テープを再生する。 静止画を連続再生で再生する。	P.66 P.69
	▶▶ 早送りボタン	テープを早送りする。 次の静止画を再生する。	P.66 P.69
	■ 停止ボタン	テープを停止する。 連続再生をやめる。	P.65 P.69
	❙❙ 一時停止ボタン	テープを一時停止する。	P.69

＊1回ずつ押すことでコマ送り再生になります。スロー再生するには、約2秒間押し続けます。

保証とアフターサービス

保証書（別途添付しています）

保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受取っていただき内容をよくお読みの後大切に保管してください。保証期間は、お買い上げ日から1年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、デジタルビデオカメラの補修用性能部品を、製造打ち切り後、最低8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

ご不明な点や修理に関するご相談は

お買い上げの販売店または最寄りの「ビクターサービス窓口」にお問い合わせください。

修理を依頼される場合（持込修理）

194～197ページに従って調べてください。なお異常のあるときは、電源を切り、必ずバッテリーまたはACアダプターを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。本機、DVカセットテープなどの万一の不具合により、正常に録画・録音・再生ができない場合、内容の補償についてはご容赦ください。

ご連絡していただきたい内容

品名	デジタルビデオカメラ
型名	GR-HD1
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	
お名前	
電話番号	（　　）　－

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って販売店にて修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料修理させていただきます。

愛情点検　●長年ご使用のビデオカメラの点検をぜひ！

熱、湿気、ホコリなどの影響や、使用の度合により部品が劣化し、故障したり、時には安全性を損なって事故につながることもあります。

このような症状はありませんか	●再生しても映像や音声が出ない。 ●異常な臭いや音がする。 ●水や異物が入った。 ●その他の異常や故障がある。

ご使用を中止	故障や事故防止のため、電源を切り、必ず販売店に点検をご相談ください。

サービス窓口案内

ビクターサービス窓口案内

ビクター製品のアフターサービスはお買い上げの販売店へご用命ください

ご贈答品等で保証書記載のお買い上げ販売店にアフターサービスをご依頼になれない場合は、機種名をご確認の上、最寄りの「ご相談窓口」にご相談ください。

●修理についてのご相談窓口

ビクターサービスエンジニアリング株式会社

●略号について　S.C.はサービスセンターの略称です。
S.S.はサービスステーションの略称です。
T.C.はテクニカルセンターの略称です。

都府県名	拠点名	TEL	〒	所在地
北海道				
北海道	札幌S.C.	(011)898-1180	004-0005	札幌市厚別区厚別東5条1丁目2-29
	旭川S.C.	(0166)61-3659	070-8012	旭川市神居二条3-2-15
	北見S.S.	(0157)25-8557	090-0037	北見市山下町4-7-19
	釧路S.S.	(0154)24-0797	085-0005	釧路市松浦町3-3
	帯広S.S.	(0155)24-4493	080-0806	帯広市東六条南12-11
	函館S.S.	(0138)52-5324	040-0001	函館市五稜郭町4-16函館五稜郭MFビル1F
東北				
青森	青森S.C.	(017)723-2261	030-0844	青森市桂木4-6-17
	八戸S.S.	(0178)44-4521	031-0803	八戸市諏訪2-2-36
	弘前S.S.	(0172)28-0165	036-8084	弘前市高田1-13-1
岩手	盛岡S.C.	(019)637-0121	020-0835	盛岡市津志田9地割24-1
	水沢S.S.	(0197)22-2773	023-0815	水沢市天文台通り3-12
秋田	秋田S.C.	(018)824-3189	010-0953	秋田市山王中園町4-1
	大館S.S.	(0186)43-0980	017-0874	大館市美園町5-6
	横手S.S.	(0182)32-8873	013-0064	横手市赤坂字大道向3-6
宮城	仙台S.C.	(022)287-0151	984-0011	仙台市若林区六丁の目西町7-13
	石巻S.S.	(0225)94-7711	986-0853	石巻市門脇字四番谷地8-18
山形	山形S.C.	(023)642-0279	990-2412	山形市松山3-12-18
	酒田S.S.	(0234)26-7145	998-0842	酒田市亀ヶ崎6-6-1
福島	郡山S.C.	(024)952-6331	963-0205	郡山市堤1-3
	いわきS.S.	(0246)27-7991	973-8409	いわき市内郷御台境町鶴巻6-1
	会津若松S.S.	(0242)38-1355	965-0831	会津若松市表町1-44ハイツシンフォニー101号
	福島S.S.	(024)553-9437	960-0103	福島市本内字南原26-1
関東・甲信越				
新潟	新潟S.C.	(025)242-3431	950-0084	新潟市明石1-2-19
	長岡S.S.	(0258)24-8391	940-0012	長岡市下下条2-1366-1
	上越S.S.	(025)545-1734	942-0081	上越市五智1-11
長野	長野S.C.	(026)221-6583	380-0913	長野市川合新田962-1
	松本S.S.	(0263)25-9165	390-0828	松本市庄内2-4-21
群馬	前橋S.C.	(027)255-5921	371-0854	前橋市大渡町1-19-1
栃木	宇都宮S.C.	(028)638-1639	321-0953	宇都宮市東宿郷3-5-22
茨城	水戸S.C.	(029)246-1560	310-8528	水戸市元吉田町1030 日本ビクター㈱ 水戸工場技術棟1F
	土浦S.S.	(0298)21-8756	300-0813	土浦市富士崎1丁目10-1
山梨	甲府S.S.	(055)237-4016	400-0864	甲府市湯田2-11-5
千葉				
千葉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	千葉S.C.	(043)246-2588	261-0001	千葉市美浜区幸町2-1-1
	柏S.C.	(04)7175-4322	277-0863	柏市豊四季512-10-67
	浦安S.S.	(047)353-6189	279-0001	浦安市当代島2-13-27

都府県名	拠点名	TEL	〒	所在地
東京				
東京	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	本郷S.C.	(03)5684-8254	113-0033	東京都文京区本郷3-14-7ビクター本郷ビル1F
	秋葉原S.S.	(03)3251-2128	101-0021	東京都千代田区外神田1-6-6
	練馬S.C.	(03)3993-7520	176-0014	東京都練馬区豊玉南1-19-1
	大田S.C.	(03)3727-9385	145-0062	東京都大田区北千束2-20-6
	八王子S.C.	(0426)46-6914	192-0045	東京都八王子市大和田町2-9-6
	【業務用機器専門】のご相談窓口			
	CS情報センター	(03)3874-5231	110-0003	東京都台東区根岸5-4-3
埼玉				
埼玉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大宮S.C.	(048)654-5241	330-0037	さいたま市東大成町2-658-1
	熊谷S.S.	(048)553-5105	361-0057	行田市城西2-7-39ツインハイツ石山B
神奈川				
神奈川	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	横浜S.C.	(045)651-0403	231-0028	横浜市中区翁町1-3-1
	川崎S.C.	(044)975-1879	216-0024	川崎市宮前区南平台3-2（第2石原ビル）
	平塚S.C.	(0463)36-2160	254-0065	平塚市南原2-4-5
	相模原S.C.	(042)776-2052	229-0004	相模原市古淵3-7-4
	横浜T.C.	(046)234-4500	243-0401	海老名市東柏ヶ谷6-19-26
静岡				
静岡	静岡S.C.	(054)282-4141	422-8043	静岡市中田本町62-31 中田ビル1階
	沼津S.S.	(055)922-1557	410-0041	沼津市筒井町6-5
	浜松S.S.	(053)421-3441	435-0041	浜松市北島町785
東海・北陸				
愛知	名古屋S.C.	(0568)25-3235	481-0041	西春日井郡西春町九之坪鴨田121-1
	三河S.C.	(0564)51-5931	444-0833	岡崎市柱曙3-10-12
	豊橋S.S.	(0532)64-0815	440-0028	豊橋市多米東町１丁目1-1
岐阜	岐阜S.S.	(058)274-1947	500-8367	岐阜市宇佐南3-1-28
三重	三重S.S.	(0593)52-0841	510-0076	四日市市堀木2-15-2
	津S.S.	(059)229-7780	514-0815	津市大字藤方485-18
富山	富山S.C.	(076)425-2397	939-8211	富山市二口町4丁目1-3
石川	金沢S.C.	(076)269-4821	921-8062	金沢市新保本4丁目65-17
福井	福井S.S.	(0776)53-6916	910-0843	福井市西開発3-211

所在地、電話番号が変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。　0301

都府県名	拠点名	TEL	〒	所在地
近畿				
滋賀	滋賀S.S.	(077)582-5812	524-0033	守山市浮気町268
京都	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	京都S.C.	(075)644-0247	612-8401	京都市伏見区深草下川原町31番地の1
京都北部	福知山S.S.	(0773)22-8664	620-0059	福知山市厚東町145-2
奈良	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	奈良S.C.	(0744)24-6271	634-0007	橿原市葛本町834-2
大阪	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大阪S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	堺S.C.	(072)254-2881	591-8032	堺市百舌鳥梅町3丁目21-2 伊助ハイツ
	【業務用機器専門】のご相談窓口			
	大阪メンテナンスセンター	(06)6304-6715	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
和歌山	和歌山S.S.	(073)472-6799	640-8323	和歌山市太田430-8
	田辺S.S.	(0739)22-9976	646-0031	田辺市湊1581-12
兵庫中東部	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	神戸S.C.	(078)252-0562	651-0086	神戸市中央区磯上通3-2-16
兵庫西部	姫路S.S.	(0792)34-3833	670-0975	姫路市中地南町11-1

都府県名	拠点名	TEL	〒	所在地
中国				
岡山	岡山S.C.	(086)243-1566	700-0926	岡山市西古松西町8-23
広島	広島S.C.	(082)243-9839	730-0825	広島市中区光南3-9-17
	福山S.S.	(084)931-6984	721-0973	福山市南蔵王町3-5-15
山口	山口S.C.	(083)973-3708	754-0022	吉敷郡小郡町花園町5-28
	徳山S.S.	(0834)27-1331	745-0042	徳山市野上町2-35
	下関S.S.	(0832)51-1040	751-0852	下関市熊野町2-14-23
四国				
香川	高松S.C.	(087)866-1200	761-8057	高松市田村町205-1
徳島	徳島S.C.	(088)622-7387	770-8052	徳島市沖浜2-37
高知	高知S.S.	(088)882-0546	780-8122	高知市高須新町4-143
愛媛	松山S.C.	(089)923-0372	791-8015	松山市中央1-4-12
	宇和島S.S.	(0895)20-1018	798-0087	宇和島市坂下津甲407-40
九州・沖縄				
福岡 佐賀	福岡S.C.	(092)431-1261	812-0011	福岡市博多区博多駅前4-16-1
	久留米S.S.	(0942)39-3495	830-0038	久留米市西町字神浦1-1192
	北九州S.C.	(093)921-3981	802-0064	北九州市小倉北区片野2-15-12
長崎	長崎S.C.	(095)862-5522	852-8021	長崎市城山町9-13
	佐世保S.S.	(0956)33-5568	857-1166	佐世保市木風町1467-2
大分	大分S.C.	(097)543-1422	870-0822	大分市大道町4-1-2
熊本	熊本S.C.	(096)353-4536	861-4101	熊本市近見8-1-10
宮崎	宮崎S.S.	(0985)24-5401	880-0032	宮崎市霧島町3-59
	延岡S.S.	(0982)35-7077	882-0857	延岡市惣領町24-3
鹿児島	鹿児島S.C.	(099)282-8818	890-0034	鹿児島市田上7丁目9-8
沖縄	沖縄S.C.	(098)898-3631	901-2224	沖縄県宜野湾市真志喜1-13-16
山陰				
山陰ビクター販売（株）				
島根	松江S.C.	(0852)31-8900	690-0825	松江市学園1丁目16-39
鳥取	鳥取S.S.	(0857)23-2151	680-0911	鳥取市千代水1丁目22-1

●海外主要都市でのビデオムービーご相談窓口

カナダ　JVC CANADA INC.
・トロント　〔416-293-1311〕
21 Finchdene Square, Scarborough, Ontario, M1X 1A7

アメリカ　JVC SERVICE & ENGINEERING COMPANY OF AMERICA
・ロサンゼルス　〔714-229-8011〕
5665 Corporate Avenue Cypress, CA 90630-0024
・ニュージャージー　〔973-396-1000〕
10 New Maple Avenue, Pine Brook, NJ 07058-9641
・ホノルル　〔808-833-5828〕
2969 Mapunapuna Place, SUITE 105, Honolulu, HI 96819-2040

イギリス　JVC（U.K.）LIMITED
・ロンドン　〔020-8450-3282〕
JVC House, JVC BUSINESS PARK, PRIESTLEY WAY, LONDON, NW2 7BA

フランス　JVC FRANCE S.A.
・パリ　〔0825-800-811〕
BP50, 78422 Carrieres Sur Seine Cedex

シンガポール　JVC ASIA PTE. LTD.
・シンガポール　〔6255-8155〕
31Kaki Bukit Roard 3, #06-18 Techlink, Singapore 417818

（注）・その他の地域に関しては、おでかけの前にお客様ご相談センターにご相談ください。・海外では日本の保証書は適用されません。
・日本語での対応はできないサービスセンターもございます。

海外でお使いになるときは

本機は海外でも使用可能です

別売のACアダプターを使ってバッテリーを充電したりコンセントから直接電源を確保できます。ただし、コンセントの形状は国によって異なります。訪問国のコンセントに合った変換プラグをご用意ください。詳細は旅行代理店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。

コンセントの形状と使用する変換プラグ

現地のテレビで再生画像を見る

NTSC方式の映像、音声入力端子付きテレビが必要です。NTSC方式を採用している国、および地域は以下の通りです。※

- アメリカ合衆国
- プエルトリコ
- バルバドス
- キューバ
- フィリピン
- チリ
- コロンビア
- 台湾
- バミューダ
- バハマ
- カナダ
- 米領サモア
- 韓国
- コスタリカ
- メキシコ
- ニカラグア
- パナマ
- エルサルバドル
- ペルー
- グアム
- グァテマラ
- ミクロネシア
- スリナム
- ハイチ
- エクアドル
- ベネズエラ
- ミャンマー
- ボリビア
- ホンジュラス
- ドミニカ
- トリニダード・トバコ

※「SD」または「HD」で記録したMPEG2方式の映像をハイビジョンテレビに出力する場合は、PAL方式を採用している地域(主に中国やヨーロッパ)でも再生することができます。ただし、別売のコンポーネント変換ケーブルが必要です。

- **再生できるテープは**

  日本と同じNTSC方式で撮影したミニDVテープが再生できます。

- **海外で故障したときは**

  「サービス窓口案内」(☞P.210)の「海外主要都市でのビデオムービーご相談窓口」にご相談ください。日本語での対応ができない窓口もあります。海外では日本の保証書は適用されません。

  その他の地域に関しては、日本にお持ち帰りになった後、お買い上げ販売店にご相談ください。

主な仕様

一般

項　　目	仕　　様
電源	DC 6.3 V（ACアダプター使用時）DC 7.2 V（バッテリー使用時）
消費電力 DV/HD·SD	6.8/8.0 W（ファインダー使用時）、8.5/9.7 W（液晶画面使用時）
外形寸法	114.5 mm × 99 mm × 271.5 mm（幅×高さ×奥行き※）
質量	本体質量　　約 1270 g 撮影時質量　約 1490 g（バッテリーBN-V428、カセットM-DV30ME含む）
許容動作温度	0 ℃ ～ 40 ℃
許容相対湿度	35 % ～ 80 %
許容保存温度	–20 ℃ ～ 50 ℃

※レンズフードを含む

カメラ部

項　　目	仕　　様
撮像素子	1/3型 プログレッシブ118万画素CCD （撮像エリア　ビデオ時：DV　34万画素 SD　46万画素 HD　84万画素 静止画時：112万画素）
レンズ	F1.8~F1.9 f =5.2 mm ～ 52 mm 35 mmカメラ換算 ビデオ時　480i(699×480)　：67.8 mm~678 mm 480i-wide(941×646)　：50.3 mm~503 mm 480p(941×480)　：55.0 mm~550 mm 720p(1280×659)　：40.3 mm~403 mm 静止画時(1280×873)　：37.1 mm~371 mm
フィルター径	52 mm（ネジピッチ 0.75 mm）
ズーム倍率	光学10倍、最大200倍（デジタル使用）
最低照度	35ルクス

主な仕様

液晶画面／ファインダー部

項　　目	仕　　様
液晶画面	3.5型、20万画素　ポリシリコンカラー液晶
ファインダー	0.44型、11.33万画素　ポリシリコンカラー液晶

デジタルビデオカメラ部

項　　目	仕　　様
録画／再生方式	DV方式（SD仕様） 525(480)／60i 4:3 映像：　デジタルコンポーネント記録 音声：　PCMデジタル記録、32 kHz 4チャンネル（12bit)、48 kHz 2チャンネル（16bit）、44.1kHz（再生のみ）
	MPEG2　525(480)／60P 16:9 映像：　720×480×59.97Hz 4:2:0 CBR(固定レート) 音声　MPEG1 Layer2、Stereo 1ch 16bit BR 384kbps サンプリング周波数 48kHz レート　19.7Mbps サーチ　+8.5倍　−6.5倍 編集精度　6フレーム 1125i再生　525P→1125i
	MPEG2　750(720)／30・60P 16:9 映像：　1280×720×29.94 Hz(720／30P)記録 1280×720P／60再生 4:2:0 CBR(固定レート) 音声　MPEG1 Layer2、Stereo 1ch 16bit BR 384kbps サンプリング周波数 48kHz レート　19.7Mbps サーチ　+8.5倍　−6.5倍 編集精度　6フレーム 1125i再生　750P→1125i
	MPEG2　525P→1125i変換　750P→1125i変換 1125i再生　16:9 映像：　1280×1125i／60再生 音声　MPEG1 Layer2、Stereo 1ch レート　19.7Mbps サーチ　+8.5倍　−6.5倍 編集精度　6フレーム

（デジタルビデオカメラ部の続き）

項　目	仕　様
信号方式	NTSC日米標準信号方式　SD/HD
使用カセット	ミニDVカセット
録画／再生時間	SPモード：80分、LPモード：120分（DVM80テープ使用時）
早送り／巻き戻し時間	約3分（DVM60テープ使用時）

デジタルスチルカメラ部

項　目	仕　様
記憶メディア	SDメモリーカード、マルチメディアカード
圧縮方式	JPEG準拠
静止画画像サイズ	1280×960ドット 640×480ドット
画質	2モード（ファイン／スタンダード）
静止画撮影可能枚数	640×480ドット　（ファイン：約30枚、スタンダード：約80枚） 1280×960ドット　（ファイン：約7枚、スタンダード：約20枚） 別売アクセサリーキット（VU-HD1K）付属のSDメモリーカード［8MB］使用時

撮影可能枚数は、メモリーカードの購入時のものです。
ナビの頭出しデータなどを記録すると、減少することがあります。

主な仕様

端子部

項　目	仕　様
i.LINK入力／出力端子	4ピン（IEEE1394準拠） S400対応
S2/AV入／出力端子	S2映像入／出力端子 アナログ入力（Y：0.8 V(p-p)～1.2 V(p-p)、75Ω　C：0.2 V(p-p)～0.4 V(p-p)、75Ω） アナログ出力（Y：1.0 V(p-p)、75Ω　C：0.29 V(p-p)、75Ω） 映像入／出力端子 アナログ入力（0.8 V(p-p)～1.2 V(p-p)、75Ω） アナログ出力（1.0 V(p-p)、75Ω） 音声入／出力端子 ステレオ／アナログ入力（300 mV(rms)、50 kΩ） ステレオ／アナログ出力（300 mV(rms)、1 kΩ） 編集端子
ヘッドホン端子	φ3.5 mmミニジャック
USB端子	ミニUSB-Bタイプ
D端子	アナログ出力 (Y：1.0 V(p-p)75Ω、PB：0.7 V(p-p)75Ω、PR：0.7 V(p-p)75Ω)
外部マイク端子	φ3.5 mmミニジャック　(480 Vμ(rms))

●仕様および外観は、改良のため予告無く変更することがありますので、ご了承ください。

- 本機は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。
  本機は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。この取扱説明書にしたがって正しく取り扱いをしてください。

メニュー一覧

撮影時

各ボタン、または各レバーを押すと表示されます。

メニュー
場面切替
切
フェーダー：白
フェーダー：黒
フェーダー：白黒
ワイプ：コーナー
ワイプ：ウィンドウ
ワイプ：スライド
ワイプ：ドア
ワイプ：スクロール
ワイプ：シャッター
プログラムAE
切
スポーツ
スノー
スポットライト
夜景
エフェクト
切
セピア
B/W 白黒
映画効果
ストロボ
白バランス
オート
ワンタッチ
はれ
くもり
ハロゲン
明るさ補正
+10
～
−10

（右側へ続く）

シャッタースピード
1/15
～
1/1000
絞り
F1.8
～
F22.0

■は初期値

- メニューを表示したときに、メニューの文字が消えている機能は動作しません。

索引

メニュー一覧

電源ダイヤルを「**M**」に設定し、「メニュー／決定」レバーを押すと表示されます。

アイコン	メニュー	サブメニュー		
A	フルオート			
	録画モード	SP	LP	
	DV音声モード	12bit	16bit	
	ズーム	10倍	40倍	200倍
	感度アップ	切	AGC	
	ナビ	マニュアル	5秒	15秒
		30秒	60秒	
	戻る			
M	マニュアル			
	手ぶれ補正	切	入	
	セルフタイマー	切	入	
	5S	切	5S	アニメ
	テレマクロ	切	入	
	DVワイド効果	切	ワイド	デジタルワイド
	ボイスポジション	切	入	
	戻る			
	システム			
	ブザー	切	ブザー	メロディー
	タリー	切	入	
	リモコン	切	入	
	優先設定	液晶モニター	ファインダー	同時
	D端子出力設定	D4	D3	D2
		D1	HD端子	
	S／ビデオ出力設定	ワイドテレビ	4：3テレビ	
	i.LINK出力	SW優先	自動	
	プリセット	実行	戻る	
	戻る			
	撮影日時／表示			
	画面明るさ			
	画面表示切替	モニター	モニター/TV	
	日時表示	切	オート	入
	タイムコード	切	入	
	年月日時計合わせ			
	戻る			
	静止画撮影			
	画質設定	ファイン	スタンダード	
	静止画サイズ	640×480	1280×960	
	記録選択			
	戻る			
	終　了			

再生時

再生モード選択スイッチを「ビデオ」に合わせ、電源ダイヤルを「再生」に設定したあと、「メニュー／決定」レバーを押すと表示されます。
「メモリー再生時のメニュー」を選択するには、再生モード選択スイッチを「メモリー」に合わせてください。

■は初期値

アイコン	メニュー	サブメニュー			
(ビデオ)	**ビデオ再生モード**				
	音声切替	**ステレオ**	音声L	音声R	
	DVアフレコ音声	**切**	入	ミックス	
	シンクロ補正	－1.3～ **±0.0** ～＋1.3			
	録画モード	**SP** SP	LP LP		
	(テープ)➡(M) コピー	**切**	入		
	ナビ情報削除	情報選択	テープ選択	すべて	戻る
	アナログ入力	**切**	A/V入力	S入力	
	戻る				
(システム)	**システム**				
	ブザー	切	ブザー	**メロディー**	
	タリー	切	**入**		
	リモコン	切	**入**		
	優先設定	**液晶モニター**	ファインダー	同時	
	D端子出力設定	**D4**	D3	D2	
		D1	HD端子		
	S／ビデオ出力設定	ワイドテレビ	**4：3テレビ**		
	i.LINK出力	**SW優先**	自動		
	プリセット	実行	戻る		
	戻る				
(日時)	**再生日時／表示**				
	画面明るさ				
	画面表示切替	切	**モニター**	モニター/TV	
	日時表示	**切**	オート	入	
	タイムコード	**切**	入		
	戻る				
✕	**終　了**				

メモリー再生時のメニュー			
	プロテクト	削除	DPOF
	番号リセット	フォーマット	画面表示
	画面明るさ		

索引

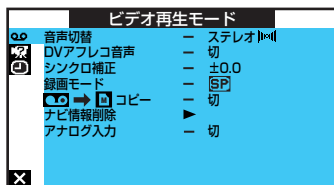
次へ続く

メニュー一覧

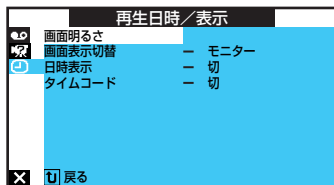
メニューの使い方

ここでは、再生時のメニューを例に使い方を説明します。

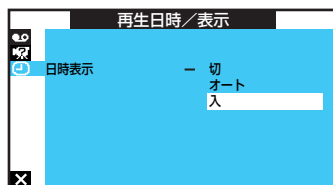
1 「メニュー／決定」レバーを押す

次の画面が表示されます。

2 「メニュー／決定」レバーを上下に動かしてメニューを選択する

3 「メニュー／決定」レバーを押す

メニューの最初の項目が選択されます。

4 メニューから項目を選択する

5 「メニュー／決定」レバーを押す

サブメニューが表示されます。

6 サブメニューの項目を選択する

7 「メニュー／決定」レバーを押して決定する

8 元の画面に戻る

- 「終了」が選択されているとき
  →レバーを押します。
- 「戻る」が選択されているとき
  →レバーを２回押します。

画面表示の見かた

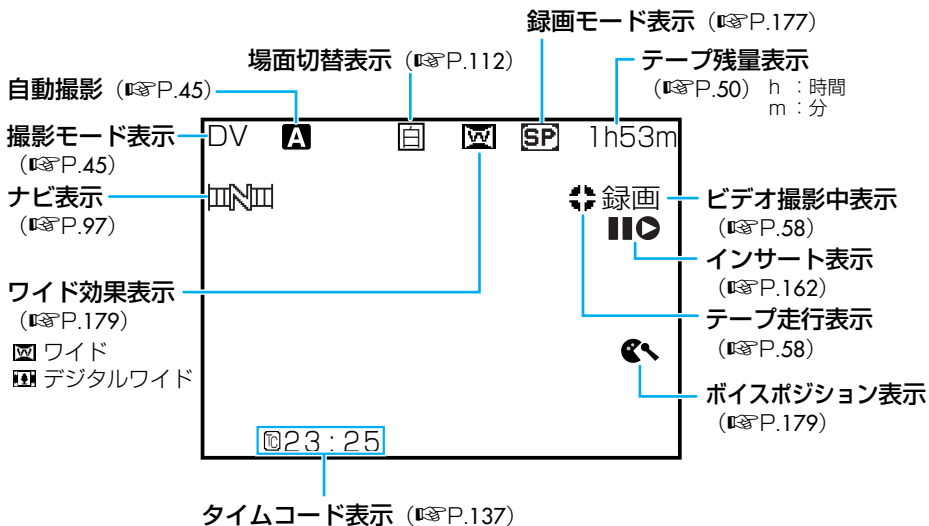
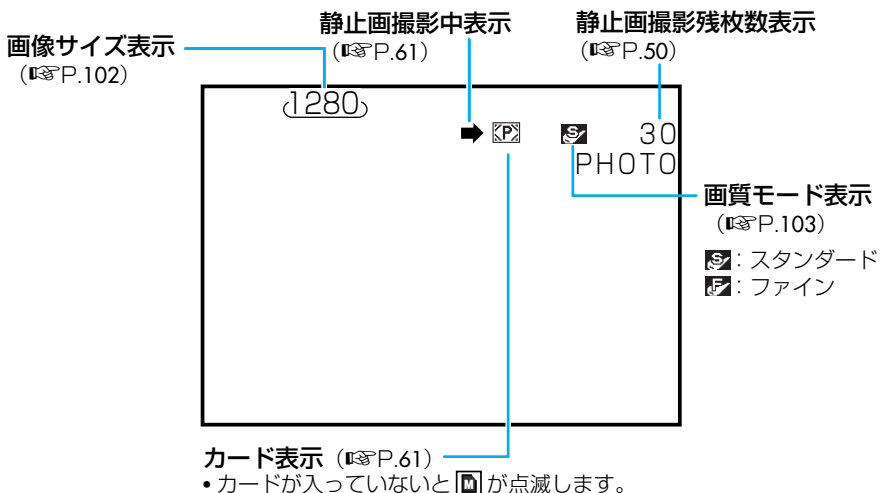
撮影時の表示

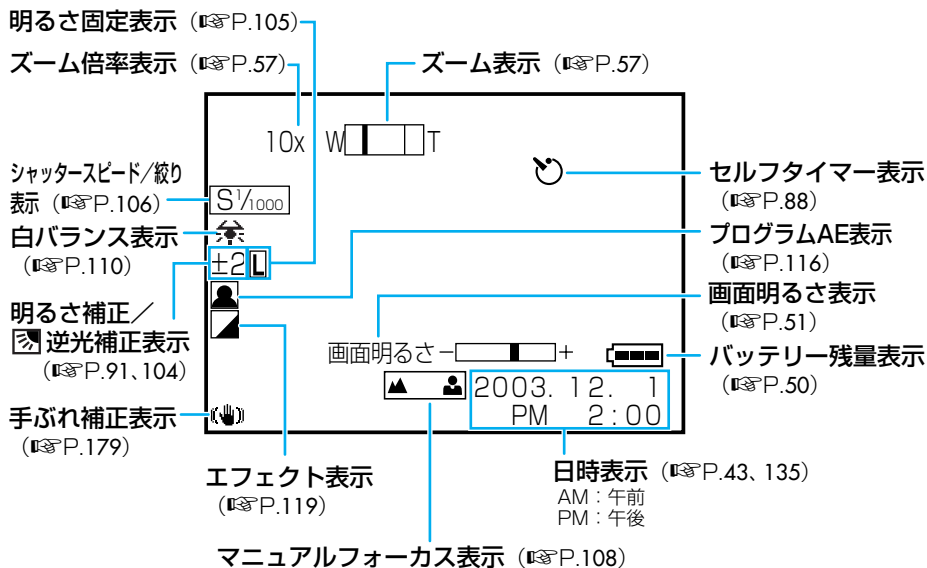
ビデオ撮影時の表示

静止画撮影時の表示

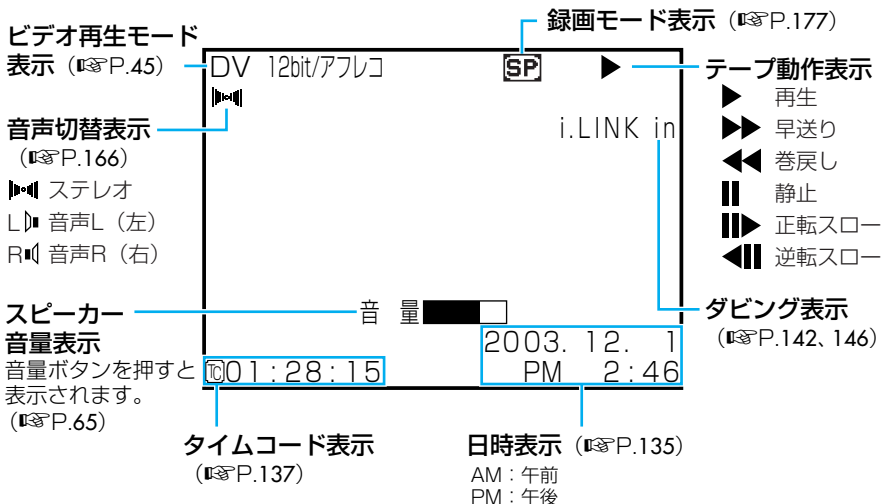
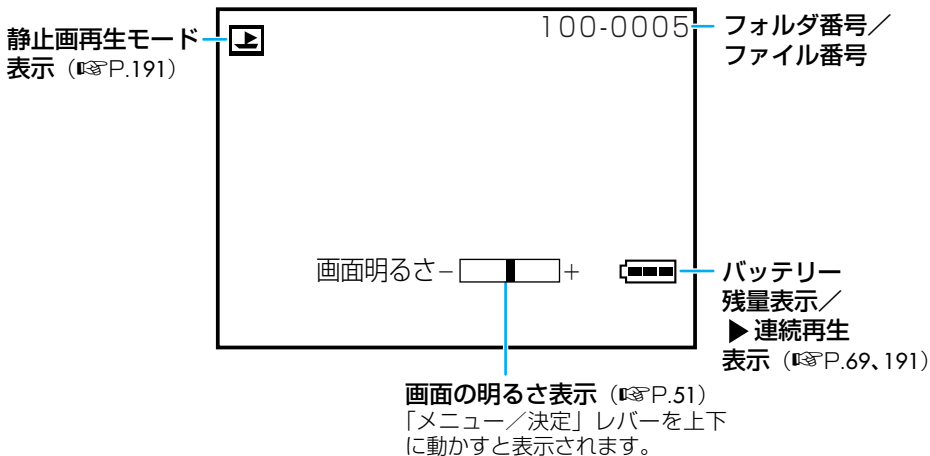
カード表示（☞P.61）
• カードが入っていないと M が点滅します。

索引

次へ続く

画面表示の見かた

ビデオ／静止画撮影に共通の表示

- アイコンが青く点滅しているとき、またはアイコンが表示されないときは、その機能は動作しません。
- 場面切替表示、プログラムAE表示、エフェクト表示、白バランス表示のアイコンの詳細については、上図の参照ページまたは「メニュー一覧」（☞ P.217）を参照してください。

再生時の表示

ビデオ再生

静止画再生

画面表示の見かた

撮影／再生時の確認表示

メッセージ	対処	参照
E01、E02、E06　保護回路が働きました バッテリーを外して付け直して下さい	バッテリーと電源をはずして付けなおしてください 動作させて同じメッセージが表示されなければ問題ありません	P.195
E03、E04　保護回路が働きました テープを取り出し入れ直して下さい	テープを取り出して入れなおしてください 動作させて同じメッセージが表示されなければ問題ありません	P.196
露が付きました しばらくお待ち下さい	１時間以上待ってください	P.199
ヘッドが汚れています クリーニングカセットを試して下さい	クリーニングカセットを使用してください	P.198
インサート録画できません	再生モード選択スイッチを「ビデオ」にしてください カセットのツマミが「REC」側になっていることを確認してください 録画モードをSPにして撮影したテープに交換してください	P.64 P.202 P.59, 177
音声アフレコできません	カセットのツマミが「REC」側になっていることを確認してください 録画モードをSP、音声モードを12bitにして撮影したテープに交換してください 「SD」または「HD」で撮影した映像はアフレコ編集できません	P.202 P.59, 177 P.47
メモリーカードエラー	メモリーカードを入れなおしてください メモリーカードを交換してください	P.35
静止画がありません	メモリーカードに静止画を記録してください	P.61
このテープはナビ画像を作成できません	本機で録画したテープを入れてください	P.127
テープへ記録できません テープの誤消去防止ツマミを確認して下さい	カセットのツマミを「REC」側にしてください	P.202
コピーガードがかかっています	再生側のテープを交換してください	P.32
未対応のファイルです	選択した静止画を削除してください（本機で再生できない形式のファイルです）	P.125
⌛	しばらくお待ちください	–
テープ終り	テープを交換してください	P.32
テープを入れて下さい	テープを入れてください	P.32
日時を設定して下さい	日時を設定しなおしてください	P.43
メモリー容量がありません	メモリーカードを交換するか、ファイルを削除してください	P.35, 82

メッセージ	対処	参照
メモリーカードへ記録できません	メモリーカードを交換するか、ファイルを削除してください SD メモリーカードのライトプロテクトをはずしてください	P.35, 82 P.36
メモリーカードを入れてください	メモリーカードを入れてください	P.35
メモリーカードをフォーマットして下さい	メモリーカードを初期化（フォーマット）してください	P.192
ライトプロテクトがかかっています	メモリーカードを交換するか、SD メモリーカードのライトプロテクトをはずしてください	P.35, 36
プロテクトがかかっています	ファイルのプロテクトをはずしてください	P.36
このメモリーカードではできません ナビ情報がありません	テープを撮影したときに入れていたメモリーカードに交換してください	P.35, 100
ナビできません 検出できませんでした	本機で録画したテープを入れてください	P.35, 127
バッテリー残量がありません	AC アダプターを接続してください	P.70
撮影を一時停止しナビ書込みボタンを押してください	録画中に手動でナビを書き込むことはできません。撮影を停止してから「ナビ書込み」ボタンを押してください。	P.99
i-LINK 接続エラー ケーブル接続を見直してください	ケーブルを抜き差しするか、他に接続されているケーブルを抜いてください。	P.142
このテープは再生できません	正しいテープと交換してください。	P.32
インサート録画できません MPEG2 録画されています	「SD」または「HD」で撮影した映像はインサート録画できません。「DV」で撮影した映像を選択してください。	P.162
このモードでは LCD モニター／ファインダーに画面出力されません	D4 端子、または HD 端子接続で「HD」の映像を出力する場合は、液晶モニターとファインダーには映像が表示されません。	P.74 P.78
撮影モード切換えはできません 録画を停止しました	録画を停止してから撮影モードを切り替えてください。	P.45
i-LINK 出力設定の変更はケーブルを抜いて行って下さい	i-LINK ケーブル接続時に、出力モード選択スイッチを切り替えることはできません。i-LINK ケーブルを抜いてから切り替えてください。	P.142
このテープは RAE ができません	「SD」または「HD」で撮影した映像は自動編集ができません。「DV」で撮影した映像を選択してください。	P.149
動画または音声がデコードできません	非対応フォーマットのデータです。入力を中止してください。	P.144
対応できない信号です 入力できません	入力を中止してください。	P.144

メッセージ	対処	参照
対応できない信号です 記録できません コピーガードがかかっています 記録できません	デジタルコピーが禁止されている映像です。入力を中止してください。	P.144
コピーガードがかかっています 入力できません	暗号化されている映像です。入力を中止してください。	P.144

五十音順索引

索引

次へ続く

五十音順索引